大阪府立大学

地域保健学域看護学類

大学院看護学研究科

2020年度　年報

2021年
第16巻

はじめに

大阪府立大学地域保健学域看護学類・看護学研究科では、質の高い看護職の育成という教育活動、保健医療分野における看護ケアの質の向上に向けた研究活動、大阪府の少子高齢化社会の進展に対応できる在宅ケアの充実とトランジショナルケアの推進にむけた地域貢献活動を行っています。

2020 年度の看護学類・看護学研究科の重点戦略として、昨年に引き続き「地域包括ケアシステムに対応できる看護職の育成」、「大阪府、府立病院機構等との連携・研究の推進」、「グルーバル化推進」、「教員の研究力の向上」を掲げ、活動を展開してきました。具体的な重点課題・取り組みは以下の通りです。

1. 地域包括ケアシステムに対応できる看護職の育成
   1) 大阪府訪問看護専門研修事業
   2) 大阪府訪問看護ネットワーク事業（機能強化支援事業）
   3) 7 大学連携個別化がん医療実践者養成プラン
2. 大阪府、府立病院機構等との連携・研究の推進
   1) 特定健診受診率向上プロジェクト
   2) 府立病院機構との連携推進会議の推進
   3) 医療機関・保健機関等との共同研究の推進
3. グルーバル化推進
   1) マヒドン大学との学術交流
   2) 外国人招へい教員授業の公開
   3) 国際看護セミナーの開催
4. 教員の研究力の向上
   1) インテンシブ資金の積極的活用

大学組織が大阪市立大学との統合に向けて進化していくなかで、看護学研究科の教育・研究・地域貢献を今後も引き続き発展させていくためには自己点検・評価活動は不可欠です。年報をまとめるにあたって、労の多い編集作業を担った看護学研究科部局計画・評価委員会委員をはじめ担当者の皆様に心から感謝申しあげます。

2021 年 3 月 31 日

看護学研究科長　田中　京子

目　　次

はじめに

第1章　目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第2章　教育研究組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

第3章　教育研究組織の実施体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

第4章　学生の受け入れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37

第5章　教育内容及び方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42

第6章　学生支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62

第7章　教育の成果と教育の質の向上及び改善のためのシステム・・・・・・・・ 65

第8章　研究活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69

第9章　社会貢献と国際交流・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75

資料　大阪府立大学地域保健学域看護学類 大学院看護学研究科・・・・・・・・80
教員業績一覧

編集後記

第１章　目的

１．学士課程

看護学類の教育目的は、「生命の尊重と個人の尊厳を基盤とし、豊かな人間性を形成するとともに、科学的専門知識・技術を教授し、看護を総合的な視野で捉えられる人材を育成する」ことであり、「(1)人間の痛み、苦しみを分かち合え、幅広い教養を身に付け、生命の尊厳について深く理解し、行動できる豊かな人間性を養う。(2)看護に必要な知識と技術を習得し、科学的根拠に基づく適切な判断と問題解決能力とあわせて、社会の変化や医療技術の発展に対応できる能力を養う。(3)保健・医療・福祉・教育・地域においてヒューマンサービスを提供する人々と連携し、看護の実践と調整的な機能を果たす能力を養う。(4)変化する社会の中で看護の役割を展望し発展させ、地域的・国際的な視野で貢献できる能力を養う。(5)看護学への関心を深め、総合的な視野と看護研究の基礎能力を養う」ことを教育目標としている。

以上の教育目的は、大阪府立大学地域保健学域規程の「教育目的」に示している（規程第 268 号第 2 条 https://www1.g-reiki.net/upc-osaka/reiki_honbun/u325RG00200081.html#e000000015)。さらに教育目標は、履修要項及びホームページと看護学類案内に示し、学内外に広く周知している。

特に看護学類の新入生を対象としたガイダンスにおいては、教育運営委員長より教育目的、教育目標について説明を行うとともに、履修要項や学類案内の冒頭部分に掲載することで、より意識づけがされるよう配慮している。また、受験希望者には学類案内を送付するとともに、オープンキャンパスや入試ガイダンスの参加者に説明を行い、広く社会に公表している。

さらに新たに採用された教員には、オリエンテーションの際に本学類の教育目的、教育目標について説明を受ける機会が設けられている。

２．大学院課程

看護学研究科の教育理念は、「生命と人権の尊重を基盤とし、保健・医療・福祉及び社会の諸変化に対してクオリティ・オブ・ライフ（QOL）を志向した創造的・実践的な対応ができる専門的知識と技術をもった人材を育成し、看護学の発展と人々の健康に寄与する」ことである。

博士前期課程では、「人間の存在と生命の尊厳について深く理解し、広い視野に立って精深なる学識を修め、高い倫理観をもち専門分野における教育研究能力、あるいは高度に専門的な実践能力を有する人材を育成する。」を教育目的とし、「(1)専攻する看護専門領域に関連する理論に精通し、看護活動に適用する。(2)専攻する専門領域の看護実践の質の向上を目指して、専門性の高い看護ケアを提供し、改革を推進する。(3)高い倫理観をもち、複雑な倫理的問題を判断し調整する。(4)看護に関する研究業績をクリティカルに検討し、看護ケアに積極的に活用する。(5)看護教育並びに看護実践の向上のために、相談・教育・調整機能を高める。(6)専攻する看護専門領域に関する研究課題に取り組み、看護研究能力を高める。(7)看護実践・研究・教育を通して国際交流に貢献する」ことを教育目標にしている。

博士後期課程では、「豊かな学識を有し、看護学分野において学術研究を推進しその深奥を究め、高い倫理観をもって自立して研究活動を行うことができる能力を有する人材を育成する」ことを教育目的とし、「(1)看護実践の改革をめざし、専門性の高い看護ケアを開発する。(2)理論や看護援助方法の妥当性を科学的に検証する。(3)

優れた看護実践、関連領域の知識・研究を用いて、高い倫理観をもって研究活動を行い、看護学の発展に寄与する。(4)教育、医療、研究、行政関連機関において、社会の変革に対応できる指導的・管理的リーダーシップを発揮する。(5)都道府県や国家レベルの政策開発や意思決定に参画する。(6)学際的、国際的な視野に立ち、学術交流、研究活動、保健医療活動に貢献する」ことを教育目標にしている。

看護学研究科の教育目的は、大阪府立大学大学院看護学研究科規程に示している（規程第 276 号第 2 条 https://www1.g-reiki.net/upc-osaka/reiki_honbun/u325RG00200089.html)。さらに、「教育理念」及び「博士前期課程教育目的・教育目標」、「博士後期課程教育目的・教育目標」は履修要項及びホームページと看護学研究科案内などに表示し、学内外に広く公表・周知している。

特に研究科の新入生を対象としたガイダンスにおいては、看護学研究科長より教育目的、教育目標について説明を行うとともに、履修要項や研究科案内の冒頭部分に掲載することで、より意識づけがされるよう工夫している。また、受験希望者には研究科案内を送付するとともに、受験前の指導教授との面談において説明を行うなど、看護学研究科を十分に理解して進学の意思決定ができるよう支援している。

第２章　教育研究組織

１．領域・分野と教員組織

１）学士課程の教員組織

看護学類の学士課程は学則に則って遂行され、教員は大学設置基準第 10～11 条に基づき確保している。（規程第 228 号第 10~11 条 https://www1.g-reiki.net/upc-osaka/reiki_honbun/u325RG00200041.html#e000000224）

2020 年 10 月 1 日現在、専任教員数 49 名（教授 16 名、准教授 15 名、講師 14 名、助教 4 名）で教育課程を遂行している。教員数、教員配置については、ホームページ上で公表している。

教員組織は看護学類の教育目的に則り、健康科学、基礎看護学、家族支援看護学、生活支援看護学、療養支援看護学の5領域となっている。教員間の組織的な連携体制は、各領域に主任教授がおかれ、領域内及び領域間の調整が行われる。教育に係わる授業科目毎の担当者と責任者は、教育運営委員会、教授会を経て毎年度決定され、シラバスに明示している。

上記のように教員組織は5領域で構成され、教育研究を推進している。各領域の教育課程上の担当分野は次の通りである。「健康科学領域」では、人間への支援について学習する。「基礎看護学領域」では、看護・看護学とは何かについて看護を受ける「人」、その人をめぐる「環境」、看護の目的である「健康」の視点から理解するとともに、基礎的な看護技術を身につけ、統合された存在である人に対して、看護独自の機能を発揮するための基本となる知識と技術・態度を習得する。「家族支援看護学領域」では、親子、家族関係、家族のライフスタイル及び家族発達に応じた支援と健康問題への援助に必要な基本的な知識と技術・態度を習得する。「生活支援看護学領域」では、保健・医療・福祉環境の変化に対応し、地域で生活する人々の健康を支援する知識と技術・態度を習得する。「療養支援看護学領域」では、健康上の問題を有する成人期の人々へのケアについて、看護理論を基盤に、クオリティ・オブ・ライフ(QOL)の向上を目指した健康回復、健康維持、あるいは終末期を安らかに生きるための援助を行う知識と技術・態度を習得する。

看護学類の教員は、専門性に基づき各領域に配置されて教育にあたっており、各々が研究と実践から培った能力を発揮するように構成されている。したがって、学士課程における教育研究の目的を達成する上で適切なものとなっている。

２）大学院課程の教員組織

看護学研究科においては、大学院設置基準第 9 条及び第 13 条に基づき、博士前期課程は 45 名、博士後期課程は 31 名の研究指導教員を確保している。なお大学院担当教員は、ホームページ上で公表している。

看護学研究科では、多様化、複雑化、高度化する社会環境の中で、生命と人権の尊重を基盤として、看護に求められる社会的使命を遂行し、看護学を実践的・創造的に発展させ、地域社会及び国際社会のあらゆる健康レベルの人々に貢献できる高度な看護分野の実践者、管理者、教育者、研究者育成するという大学院設置の趣旨・目的に基づいて、幅広い看護の領域を学修できるように専攻を構成している。

博士前期課程では、「人･環境支援看護学領域」は看護技術学・看護情報学・看護管理学・看護教育学の 4 分野、「家族支援看護学領域」は母性看護学･小児看護学・家族看護学の 3 分野、「生活支援看護学領域」は地域看護学･在宅看護学・老年看護学・精神看護学の 4 分野、「療養支援看護学領域」は急性看護学・慢性看護学・がん看護学・感染看護学の 4 分野の合計 15 分野から構成されている。15 分野は修士論文コースがあり、そのうち家族看護学・

小児看護学・地域看護学・精神看護学・老年看護学・在宅看護学・急性看護学・慢性看護学・がん看護学・感染看護学の10分野は専門看護師（CNS）コースを開設している。

博士後期課程は、「生活支援看護学領域」と「療養支援看護学領域」の2領域で構成されている。「生活支援看護学領域」は看護技術･情報学分野、看護管理･教育学分野、母子健康看護学分野、家族健康看護学分野、地域･精神看護学分野、在宅・老年看護学分野の6分野、「療養支援看護学領域」は急性療養看護学分野、慢性療養看護学分野、がん療養看護学分野、感染療養看護学分野の4分野の合計10分野から構成されている。

3）教員の採用

大学の設置目的及び教育理念に基づき、教員の任期制、公募制及び外国人の兼任教員の確保が導入されており、教員組織の活動をより活性化するために、多様で透明性を確保した教員採用の措置をとっている。

看護学類教員の性別構成は、資料2-1-3に示す通りである。看護学類では、外国人教員1名を採用している。教員の採用に関しては任期制及び公募制を導入している。本学教員の任期に関する規程に基づき、任期制は助教の採用に適用し、任期は5年としている。

（規程第202号 第2条　https://www1.g-reiki.net/upc-osaka/reiki_honbun/u325RG00200464.html）。

公募制は、本学教員人事規程に基づき、全教員の採用に適用している。公募方法は資格、経験年数等の条件を明示し、本学ホームページ、研究者・人材データベースJREC-INを活用している。

教員の採用に関する事項は、本学教授会等規程に基づき、教授会で審議し（規程第235号第3条3項 https://www1.g-reiki.net/upc-osaka/reiki_honbun/u325RG00200048.html）、本学人事委員会規程に基づき人事委員会で審議する。教育研究上の指導能力について審査を行い、本学教員選考基準により教員を選考している。具体的には、履歴書、教育研究業績書、主要な著書または論文、及び採用後の専門分野の研究と教育に対する方針等の書類審査、面接・プレゼンテーションにより評価する。

2020年度は准教授1名の採用を決議した。

また、新大学に向けて教授1名、准教授1名、講師1名の採用および、講師1名の昇任について決議した。

資料2-1-3　　2020年度看護学類 教員 性別構成

2020年10月1日現在

構成＼領域		健康科学	人・環境支援(基礎)看護学	家族支援看護学	生活支援看護学	療養支援看護学	合計
教員（名）		1	10	11	16	11	49
性別（名）	女性	0	10	11	16	10	47
	男性	1	0	0	0	1	2

４）教育支援者

大阪府立大学羽曳野キャンパスでは、看護学類、看護学研究科と総合リハビリテーション学類、総合リハビリテーション学研究科を設置し、専任教員を看護学類、看護学研究科に 49 名、総合リハビリテーション学類、総合リハビリテーション学研究科に 44 名配置している。これら 2 学類、2 研究科の事務をつかさどるために、総務・会計・入試・学生・教務・業務等を担当する事務職 10 名、契約職員　21 名、非常勤職員若干名を配置している。

ティーチングアシスタント（Teaching Assistant:以下 TA）については教授会の承認を得て、適宜活用を図っている。2020 年度の TA 採用人数は、延べ 9 名、総時間は 159 時間であった。2019 年度と比較して TA の採用人数が大幅に減っているのは、2020 年度の前期授業が新型コロナウイルス感染症の影響で全てオンライン授業になり、後期も TA が活躍できる場が少なかったことに起因している。

また、2009 年度より教員支援者として看護学類教員を支援するパート契約事務職員 1 名を配置している。教材用資料複写、書類作成等の補助業務を行っている。

２．附属組織・センター

看護学研究科は、療養学習支援センターを有するが、これは療養学習支援に関する研究・教育・実践を推進するとともに、その成果を地域に還元し看護の質の向上に寄与するという趣旨に基づき、2005 年から附置された。療養学習支援センターの設置趣旨及び業務等は、大阪府立大学大学院看護学研究科療養学習支援センター規程(規程第 335 号　https://www1.g-reiki.net/upc-osaka/reiki_honbun/u325RG00200148.html?id=j3_k2)に明示している。療養学習支援センターは、円滑な運営を図るため、大阪府立大学大学院看護学研究科療養学習支援センター運営委員会を設置している。運営委員会は大阪府立大学大学院看護学研究科療養学習支援センター運営委員会規程(規程第 262 号　https://www1.g-reiki.net/upc-osaka/reiki_honbun/u325RG00200075.html）に基づき、2020 年度は 8 名の委員で組織された。センターの主な事業は、地域住民及び医療機関の利用者を対象とした各種の療養学習支援活動及び健康相談活動、療養学習支援に関する研究活動、療養学習支援に関する学術交流活動である。

第３章　教育研究組織の実施体制

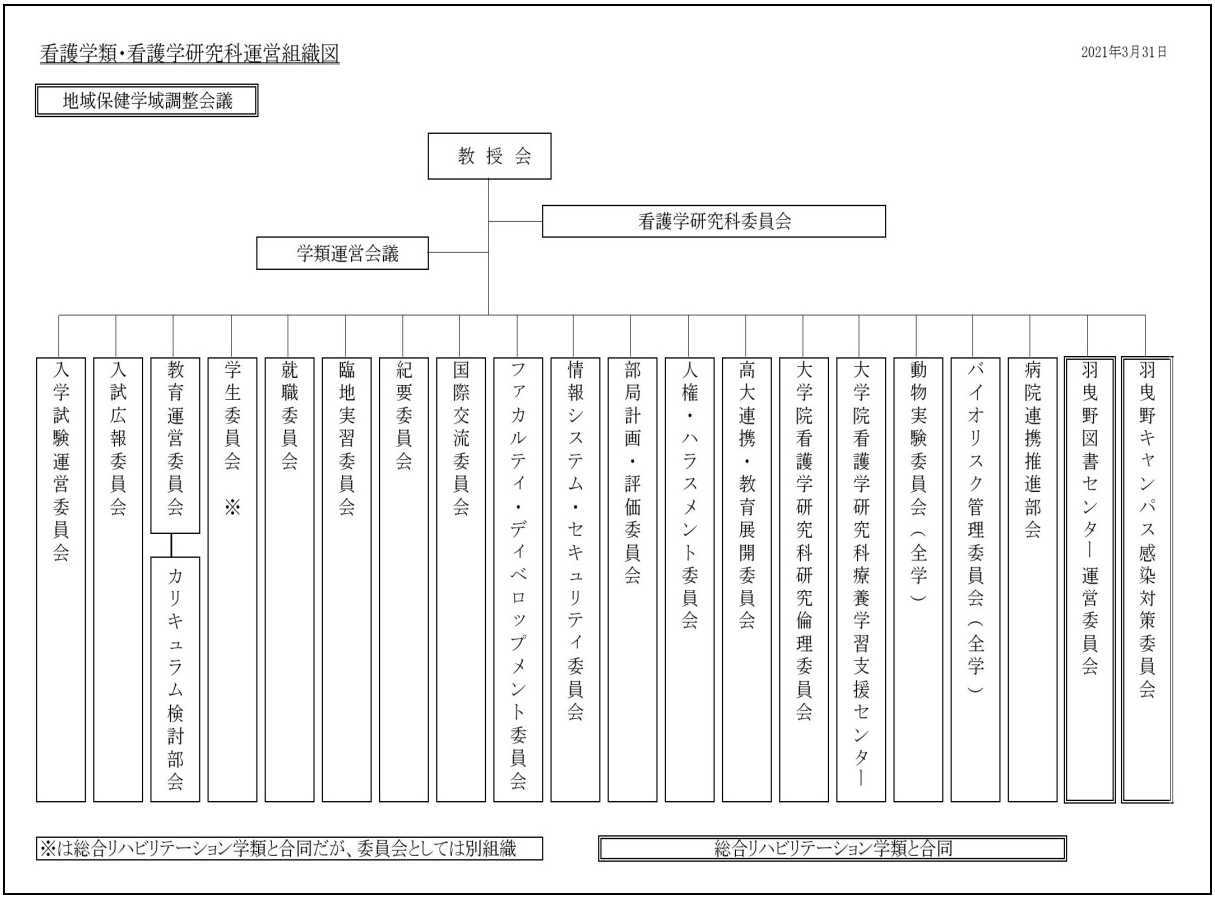
１．運営組織

教育活動に係る重要事項を審議するために、教授会を最高意思決定機関と位置づけ、その下に教育活動に係る重要事項を審議するための委員会を設置している。各委員会は定期的に会議を開催し、それぞれの分掌事項を効率的に検討し、円滑に審議を進めている。

教授会は、教育課程の編成に関する事項、学生の入学、卒業又は課程の修了、学位の授与、学生の支援及びその身分に関する事項、教員人事に関する事項、教育又は研究に関する重要事項について審議する。教授会の下に教育運営委員会、臨地実習委員会、学生委員会等を設け、教育活動が円滑に行われるための必要な活動を行っている。資料 3-1 は看護学類・看護学研究科の運営組織図である。

教育運営委員会、臨地実習委員会、学生委員会等は毎月１回の定例の会議を開催している。特に、教育運営委員会では、教育課程に関すること、履修に関する規程の制定及び改廃に関すること、教育の実施及び運営に関することなどについて、臨地実習委員会では、教育の中の臨地実習の運営に関する事項を中心に、また学生委員会では、学生の相談・支援・福利厚生等に関する事項について検討し、その検討結果は教授会で報告し、重要事項については更に教授会で審議し、決定している。

資料 3-1　看護学類・看護学研究科運営組織図



２．委員会活動

委員会名	学類運営会議
目的	運営会議は、次の各号に掲げる事項を協議・調整するものとする。 (1)　教員の教育、研究、社会貢献、学類運営における活動に関すること (2)　予算の管理に関すること (3)　各領域間の調整に関すること (4)　その他領域の運営に関すること
構成員	田中学類長(委員長)、簇持教授、杉本教授、渡邊教授、都筑教授
活動概要	１．開催状況 定例会議： 11回（毎月１回、８月は除く） 臨時会議：　５回 ２．検討事項 1)学類運営会議規定に基づき、教授会、研究科委員会の検討事項のうち、事前検討の調整が必要なものについて検討した。 〈担当〉 ・人事： 田中教授(委員長)、簇持教授、杉本教授 ・予算： 渡邊教授、都筑教授 ＊田中教授(委員長)、簇持教授により全般的に確認 2) 2020年度は通常の人事管理、予算管理以外に、看護学研究科の臨床教授等の称号付与、地域保健学域臨床講師の称号付与、実習施設との共同研究補助金申請、大阪府立大学特別研究奨励金支給事業の審査、教授会審議・報告に必要な内容等を検討した。
来年度の課題	１．府立大学全体の方針に基づきながら、看護学類および看護学研究科の教育課程、運用上の問題を解決する。

委員会名	入学試験運営委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 入学試験に関する企画に関すること (2) 入学試験の適正かつ円滑な実施に関すること (3) 入学試験のあり方に関すること (4) 入学試験の出題及び採点に関すること
構成員	田中研究科長（委員長)、澤井教授、渡邊教授（副委員長)、田嶋教授、志田教授、簇持教授 益准教授、大江准教授、大川准教授、山田講師 村上事務所長（羽曳野キャンパス事務所)
活動概要	１．委員会の開催 1) 看護学類入学試験運営委員会（定例5回、臨時6回) 2) 全学入学試験運営部会 （定例4回, 臨時1回) 3) 看護学研究科出願資格審査委員会2回 ２．入試の実施状況 1) 看護学研究科 ① 博士前期課程（第1次募集、2020年8月25日実施) 出願者18名、合格者14名（入学手続き者11名) ② 博士前期課程（第2次募集、2020年12月20日実施) 出願者9名、合格者7名（入学手続き者7名) ③ 博士後期課程（第1次募集、2020年8月26日実施) 出願者2名、合格者2名（入学手続き者2名) ④ 博士後期課程（第2次募集、2020年12月20日実施) 出願者3名、合格者2名（入学手続き者2名) 2) 看護学類 ① 学校推薦型選抜（2020年11月21日実施、募集人員55名) 出願者195名、合格者55名（入学手続き者55名) ② 一般選抜（前期日程）(2021年2月25日、募集人員：理系型15名、文系型35名) 理系型：出願者31名、合格者16名（入学手続き者15名) 文系型：出願59名、合格者37名（入学手続き者37名) ③ 外国人留学生特別選抜（2021年2月25日、募集人員：若干名) 出願者1名、合格者1名（入学手続き者1名) ④ 一般選抜（後期日程）(2021年3月12日、募集人員：15名) 出願者127名、合格者17名（入学手続き者13名) 3) その他 ① 大学入試センター試験（2021年1月16日/17日)

	３． 入試制度の検討 1) 新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、本学の入試運営方針に沿って、準備・実施における感染防止対策を決定した。また、大学院入試、学校推薦型入試の追試対応を検討した。さらに、一般選抜試験における追試受験者の合格判定基準を決定した。また、入試実施要員説明会は非同期型オンライン式で開催した。 2) 入試日における学生の入構措置を見直し、キャンパス運営委員会と協議のうえ、原則禁止とした。 3) 学類入試倍率の維持を目指し、広報部会と連携しながら非同期型の広報活動を実施した。 4) 全学入試運営部会の要請にもとづき、学類のアドミッションポリシーを確認した。 5) 学類一般前期日程入試理系型（募集人員 15 名）と文系型（募集人員 35 名）に分けて実施するため、その円滑な実施にむけて実施要領を作成した。また、後期日程については、集団面接を導入することとし、その実施要領を決定した。 6) 博士前期課程・後期課程入試（1 次募集）の出願者数がともに募集人数を下回ったため、第 2 次募集を実施した。 7) 2021 年度入試制度改革に沿って、アドミッションポリシーの検討を行うと共に、英語の外部試験利用や数学・国語の記述式試験の導入についての全学の方針を検討し、入試運営部会に回答した。 8) 学類教職員の入試業務分担の公平化に努めた。
来年度の課題	来年度の入学試験は、研究科博士前期課程・後期課程の入学試験（8 月 24 日、25 日）をのぞき、2022 年 4 月開学予定の新大学の入学者選抜試験となる。このため、本委員会の課題は以下のとおりである １． 上述の研究科博士前期課程・後期課程入学試験（8 月 24 日、25 日）を適正に実施する。 ２． 入試広報部会が企画する大学院入試説明会の実施に協力する。 ３． 予算計画をたて、適正に執行する。 ４． 新大学の入試について、適切に準備を進める。

委員会名	入試広報委員会
目的	入試広報に関する事項
構成員	渡邊教授（委員長)、田嶋教授、岡野准教授、園田准教授、髙講師、徳岡講師、深山講師
活動概要	１．広報行事に関すること ・5 月 23 日：大学院入試説明会開催 (前年度 1 月から場所の検討、チラシ作成・配布、プログラム作成、看護学類 HP お知らせ掲載、担当者の決定、Web 開催への変更、研究科紹介動画の作成、事前の受付や運営) 参加者数　34 名（14 分野　複数希望含む)、受験希望者は 25 名　Web 開催により昨年度の 74 名より少なかった。大きなトラブルもなく運営が行えた。 ・6 月：大学院募集要項の送付先検討 ・5 月～12 月：高校内ガイダンス　4 校、進学相談会　1 件　(担当教員の調整) 高校生対象のガイダンスなどは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、訪問先の感染対策が不十分な場合 は断ることとした。 ・8 月：Web オープンキャンパス開催（8 月 7 日～20 日） (Web 開催となったため、学類紹介動画作成、Web 模擬授業、FAQ の作成) 視聴回数：学類紹介動画　140 回、模擬授業、乳がんと生きる女性に看護師ができること　84 回 看護学類紹介“始めるチャンスを私は逃さない”94 回、入試説明「地球保健学域　看護学類」118 回、FAQ 及び質問受付コーナー　72 回、先輩からのメッセージ　87 回 ・10 月 3 日：大学院入試説明会開催 (第 2 回目の開催についての意見聴取、開催方法（対面・Web）の検討、チラシ作成・配布・プログラム作成、看護学類 HP お知らせ掲載、担当者の決定、各分野担当教員への協力要請、当日のトラブル対応) 参加者数　20 名　(13 分野　複数希望含む) 春期よりも少ない人数であったが、参加者からは簡単に Zoom に入ることができ、教員とじっくり話ができたなど良かったとの評価が多かった。 受験希望時期は半数が今年度であり、二次募集への効果はあると考えられる。 ・2 月 15 日：学類４年生対象大学院入試説明会開催（オンライン） 参加者数　29 名　研究科長による大学院概要の説明・卒業生からの説明を行った。 ２．広報ツールの作成・修正に関すること ・4 月：看護学類・看護学研究科パンフレット校正，納入確認，配布 ・5 月：スタディサプリへの広告掲載（デザイン検討，校正） ・9 月：大学院二次募集チラシ作成と発送

	・10 月：朝日新聞広告 ・12 月：高校 2 年生向けの模擬講義などで使用するスライドの作成 ３．HP 管理 ・各イベント情報の掲載や既存のページ内容の学類 HP の更新 （更新内容：教員一覧，個人ページ，新任教員個人ページ作成，領域写真，学年暦，CNS 名簿などの更新，学類・研究科，行事等のお知らせアップ） ４．その他 ・委員長は入試広報委員会会議（中百舌鳥）に出席（4 回/年＋臨時 2 回） ・入試広報部会会議開催（7 回/年） ・MBS 毎日放送からの取材対応（2021 年 1 月 8 日収録　1 月 19 日放映）
来年度の課題	１．看護学類広報部会の担当役割に関する検討 ２．入試広報活動方針の検討（重点課題など） ３．新大学に関する広報活動の検討

委員会名	教育運営委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1)教育課程に関すること (2)履修に関すること (3)教育の実施及び運営に関すること
構成員	中山教授(委員長)、細田教授、北村教授、三輪教授、相原准教授、古山准教授、林田准教授、 根来講師
活動概要	2020 年度は 12 回の教育運営委員会および 1 回の臨時委員会、1 回のメールによる委員会を開催した。委員会では下記の内容について重点的に活動した。 1. 新入生履修説明会、個別指導の実施 2020 年度地域保健学域看護学類新入生に対して、中百舌鳥キャンパス・羽曳野キャンパスにおいて、全体での履修説明会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大により、必要書類の郵送、メールにて説明し、メールで問い合わせがあった学生に対して指導を実施した。また、履修申請漏れに対しては、アドバイザーから担当学生に指導 をしていただき、適切に処理をし、新入生が受講できるように配慮した。 2. 在校生履修説明会の実施 2020 年度在校生履修説明会を新型コロナウイルス感染症拡大のため、２，3 年生に対してはメールでの周知とし、1 年生にのみ定期試験の終了後に短時間で実施した。 3. 履修要項・シラバスの作成 ・総合研究履修に関する履修要件を追加 ・レポートによる不正行為について追加 ・博士前期・後期課程における研究指導計画書の作成及び報告書の作成と運用についての追加 ・地域看護学専門看護師コース廃止のため履修要項の修正 ・修士論文・課題研究・博士論文の提出に関する方法の一部を修正 4. 時間割作成 新たな非常勤講師と科目の一部変更に対応した時間割を作成した。 オンライン授業（同期型・非同期型）と対面型授業を考慮した時間割作成を実施 5. 助産師科目および保健師科目選考試験の実施 助産学担当教員および公衆衛生看護学担当教員とともに選考試験要領を作成し、教育運営委員が選考委員長となりを実施した。 6. 既修得単位認定（1 年次生） ・2021 年度入学予定の既修得単位認定を行った。

	7. 博士論文、修士論文・課題研究発表会の開催への支援 大学院生による博士論文・修士論文・課題研究 20 名の発表会を準備支援した。開催は covid-19 の感染状況から、学内限定のオンラインとして開催した。 8. 単位未修得学生への指導（アドバイザー支援） ・2017 年度から継続して、学生個人に単位取得状況に関するチェック表を配布し、学生自身による履修科目の管理やアドバイザーによる履修指導に役立てるようにした。 ・前期・後期の全学生の単位修得状況を確認し、必要な履修指導内容を明示した書類をアドバイザー教員に配付し、個別指導を依頼した。 ・必要時は、学生及びその保護者と面談を行い、履修が円滑に進むよう指導を行った。 9. 学域共通科目の開講および大学院共通科目の実施協力 2020 年度入学生への学域共通科目の人間支援科学論、コラボレーション論について、研究公正科目担当教員の領域を調整、決定し、実施への協力を行った。 10. 全学教務関係委員会（教育企画運営会議）への出席 大阪府立大学全体の教務内容と学類の教育運営委員会が連動して運営できるようにした。 11. 非常勤講師の選出・任用についての審議 非常勤講師の去就に伴い、新たな担当者を決定し、履歴書を基に審議した。 13. TA 時間配分の調整 ・領域ごとの効果的な、効率のよい TA の運営に向け、時間配分等の調整を行った。 ・TA ヒアリングを受け、必要な時間数等の確保に努めた。 14. 新型コロナウイルス感染症の拡大により非同期型授業となったことによる、教員への影響に関して看護独自で調査を実施した。学類運営会議で報告し、次年度以降に教員の負担の軽減に努めた。
来年度の課題	１．受講申請や追再試の手続き等、学生が履修等の手続きを円滑に行えるような支援やシステムの検討アドバイザーと協力した単位未修得者への指導等 ２．学類共通科目および大学院共通教育科目におけるコーディネーターの調整 ３．オンライン授業支援のための人員の確保や教材の購入

委員会名	学生委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 学生の休学、退学、復学、除籍に関すること (2) 学生の表彰及び処分に関すること (3) 学生の生活指導に関すること (4) 学生の福利厚生に関すること (5) 学生相談に関すること (6) その他学生生活に関すること
構成員	簇持教授（委員長)、都筑教授、九津見准教授、中嶋准教授、山口講師、徳岡講師
活動概要	１．委員会の開催 1）羽曳野キャンパス学生委員会（羽曳野キャンパス共通・看護学類9回開催、および臨時のメール会議を複数回実施した） 2）全学学生委員会 6回、外国人留学生支援部会3回 ２．活動状況 1）奨学支援 本年度より、国、大阪府の修学支援制度が開始された。 国の高等教育就学支援90名、府の授業料等支援制度 62名、学生緊急給付金100名、 授業料減免制度　学類生0名、大学院生4名、特別研究奨励金16名 2）学生相談 委員長への相談2件 大学院生（前期課程）に対する修学相談員体制の提示 外国人留学生への相談支援（GPA2.0以下の学生への外国人留学者アドバイザーによる学修状況の面談/アドバイザーは中山美由紀教授） 3）課外活動支援 羽曳野クラブサークル登録数　　16団体 クラブの団体結成承認 0団体、解散承認0団体　　サークル結成承認 1団体 本年は新型コロナウイルス感染症増加の状況を鑑み、各団体から活動計画を提出してもらい、許可が得られた団体は活動報告書を学生課に提出し、活動を行うことになった。羽曳野キャンパスの許可団体は4団体の活動承認が得られた。 4）福利厚生、安全と健康 保健室使用件数14件、学生相談利用件数60件（2021年3月現在　延件数） Will 全員加入の促進（新入生加入率100%） 5）賞罰 前　　期：学長顕彰：学類1名、大学院0名、杏樹賞：学類4名、大学院0名、 感謝状：学類1名 後　　期：学長顕彰：学類0名、大学院0名、杏樹賞：学類5名、大学院2名

	大阪府看護協会会長賞　学類１名、大学院１名 注意等なし 6）休退学等 〈休学〉前期：学類３名、大学院５名　後期：学類３名、大学院５名 〈退学〉前期：学類０名、大学院２名　後期：学類３名、大学院４名 〈除籍〉なし 7）アクセスセンターと連携した在学生のサポート 就学上の合理的配慮が必要な在学生の配慮の内容について検討するとともに経過等について情報交換を行った。 8）その他　学生生活 ・アドバイザーグループ編成と学生配置の決定。 ・新入生歓迎イベントの企画運営（2020年11月1日、中百舌鳥キャンパスB3棟で実施14名参加、その後のキャンパスツアー等の動画の視聴は22名であった。 ・学生生活のガイダンス実施（2021年2月1日　新2年生の授業後）。 ・年末年始の大学院自習室使用は、新型コロナウイルス感染症のため中止とした。 ・杏樹祭は新型コロナウイルス感染症のため中止とした。 ・学位記授与式の企画・運営 ・大学院生室のプリンター等の管理
来年度の課題	１．学生の学生生活充実に向けた支援、学習環境の調整 ２．新型コロナウイルス感染症禍での学類生アドバイザー活動の促進や大学院生（博士後期課程の在学生も含めて）に対する相談体制の充実

委員会名	就職委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について、審議する ⑴就職業務方針に関すること ⑵就職の相談及び指導に関すること ⑶求職、求人に関すること ⑷求職についての調査に関すること ⑸その他就職に関すること
構成員	杉本教授(委員長)、三輪教授、相原准教授、岡﨑講師、髙講師、安本講師
活動概要	１．就職ガイダンス等の開催 【3年生対象】 第1回　8月3日～（オンライン：動画配信）　参加人数80～100名 ・大阪府立病院機構の教育担当者から、学生への実習指導や就職支援も含めて病院の様子、実習指導体制を説明 第2回　12月22日（オンライン：Zoom開催）　参加人数 119名 ・就職活動準備講座（講師：マイナビ） ・キャリア支援室利用の勧め、新4年生のための就職活動・国家試験スケジュール説明等 第3回　2021年2月22日～（オンライン：動画配信）　参加人数63名 ・新4年生のための就職タイムスケジュール ・就職活動を始めるにあたって　・模擬面接について　・大阪府立病院機構説明会 【4年生対象】 第1回　4月14日（メール周知） ・就職試験における心得、注意事項　・模擬面接日程　・就職支援について ・国家試験の準備と国家試験実施日等について 第2回　8月3日～7日（オンライン）　参加人数64名 ・看護師国家試験の傾向と対策　・進路報告登録について 第3回　2021年2月4日（オンライン：Zoom開催）　参加人数123名 ・国家試験の心得　・国家試験自己採点会について ・国家試験受験表配布・説明 第4回　2021年2月15日（オンライン：Zoom開催）　参加人数122名 ・看護師国家試験の自己採点会（マークシート活用による学生の得点傾向確認） ・合格発表時の指導を実施　・就職に際して社会人として気を付けること ・就職支援、国家試験対策に関するアンケートの実施 ・後輩へのメッセージ　・合格発表時の就職施設に対する対応 ２．就職支援 １）模擬面接による就職支援：就職委員とキャリアカウンセラーで実施 ・緊急事態宣言を受け対面実施は中止（キャリア支援室によるオンライン面接・相談を案内） ２）就職に関する事務

	・就職情報・進路資料の管理・就職状況の把握 3．国家試験に関すること ・学校内で国家試験対策の模擬試験担当者を決め、学生主体の模擬試験を実施できるように支援 ・学習会（解剖生理学、成人看護学等）企画 ・模試結果を分析し、担当アドバイザーに成績等学習指導の連絡 ・必修模試対策勉強会（2021年1月8日、1月14日）、国試対策勉強会（2021年1月22日、29日、2月4日）の実施 【3年生対象研修会等の実施】 ◆国家試験スタートアップ模試　8月3日～14日　参加人数128名 ・さわ研究所「専門基礎模試」解剖生理学60問　＋解説講義DVD ◆国家試験対策セミナー　8月3日～　参加人数97名 ・実習中から国家試験を学習する意識付け（さわ研究所の無料ガイダンス活用） 【4年生対象研修会の実施】 ◆解剖生理学特別講座　8月3日～7日　参加人数69名 ・さわ研究所による解剖生理学特別講義 ◆国家試験直前講座①　12月2日～参加人数55名（アンケート回答者数73名中） ・さわ研究所　疾病の成り立ちと回復の促進総まとめ　オンデマンド講座 ◆国家試験直前講座②　12月2日～参加人数56名（アンケート回答者数73名中） ・さわ研究所　人体の構造と機能総まとめ　オンデマンド講座 ◆国家試験直前講座③　12月2日～参加人数63名(アンケート回答者数73名中) ・さわ研究所　講師が選ぶ最後の100問　オンデマンド講座 ◆必修模試対策勉強会2回（2021年1月8日　参加人数71-83名、1月14日　参加人数57-68名） ◆国試対策勉強会3回（2021年1月22日　参加人数25-29名、1月29日　参加人数21-24名、2月4日　参加人数31-39名）の実施 4．委員会の開催　（6回／年） ・委員会活動計画と担当者決定 ・模擬面接の評価と開催方法の検討（時期と内容、キャリアサポート活用検討） ・就職ガイダンスの企画・運営について・就職内定状況について ・国家試験対策支援の現況・予算執行状況について ・国家試験対策の評価と実践計画・状況把握 ・看護師国家試験模擬試験結果についてアドバイザーへの模擬試験連絡
来年度の課題	1．就職ガイダンスの継続と内容評価 2．キャリアサポートとの履歴書添削、面接練習における連携評価 3．アドバイザー教員との連携 4．学生主体の国家試験模擬試験の運営の相談 5．国家試験対策として学類主体で行う研修会とその対策費用の確保（つばさ基金の活用） 6．国家試験対策への学生参加者割合を増やす方策

委員会名	臨地実習委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 ⑴臨地実習の教育方針及び教育課程に関すること ⑵臨地実習の運営に関すること ⑶臨地実習の指導体制の整備に関すること ⑷臨地実習に関する規定の制定及び改廃に関すること ⑸その他の臨地実習の実施及び運営に関し必要なこと
構成員	北村教授（委員長）、杉本教授、楢木野教授、園田准教授、山田講師、安本講師、 山内講師、小泉助教、柱谷助教、中村助教
活動概要	１．主な委員会活動の実施状況 委員会10回、総合実習学生配置（4月）、3年次生への実習オリエンテーション（8月）、府立5医療センター臨地実習連絡会(3月)、文部科学省調査書類作成、実習における感染対策周知 ２．所管事項 1)実習運営関係 ・2020年度分野別実習オリエンテーションの開催 ・2021年度後期～2022年度前期実習進度表・学生配置表の調整及び作成 ・2020年度の帰校日使用教室の調整および、2021年度の実習帰校日使用教室の調査・予約 ・2021年度総合実習の学生配置数（案）の検討 ・2021年度実習衣購入に関わる検討及び関係者との調整 ・インフルエンザワクチン接種報告の集約 2)府立5医療センター臨地実習連絡会関係 ・府立5医療センターでの2021年度及び2022年度の実習計画の作成 ・各施設窓口担当教授と連携し、施設との調整 ・府立5医療センター臨地実習連絡会を開催し、施設との情報交換 ・学生による臨地実習評価アンケートの実施及び報告書の作成 3)実習関連情報関係 ・実習要項の作成：看護学臨地実習要項、各領域・分野別実習要項、総合実習要項 ・実習で使用する感染予防物品の一括購入（半期毎の納入実施） ・2020年度臨地実習における事故報告のとりまとめ 感染１件、その他１件の合計２件 ・「実習における個人情報取り扱いに関するガイドライン」の説明と学生・教員誓約書の取り交わし ・実習指導教員の小児期感染症抗体価検査の公費での実施 ・臨地実習公文書に伴う調整

	・オンライン実習における学生の意見をアンケートで確認
来年度の課題	１．感染対策と事故発生に対し、学生への指導を丁寧に行う必要がある。 ２．臨地実習に関する教員研修を行う必要がある。 ３．臨地および臨地でない形での実習の振り返りを継続実施。 ４．感染委員会との連絡・調整を行い新型コロナウイルス感染症への対策を遵守する。 ５．事務所との連絡・調整を密に行う必要がある。

委員会名	紀要委員会
目的	委員会は、紀要に関する事項について審議する
構成員	田嶋教授（委員長）、志田教授、南村准教授、山口講師
活動概要	1．紀要発行に関すること ・ 投稿募集（学内・学外へは看護学類・看護学研究科ＨＰに掲載） ・ 論文査読者の決定と査読依頼 ・ 査読結果から著者への修正依頼 ・ 再査読依頼 ・ 論文掲載の採否の決定 ・ 印刷業者の決定（見積もり、業者の決定） ・ 印刷依頼 ・ 校正3回（内1回は著者による校正。2回の校正と表紙、裏表紙、欄外の校正は委員担当） ・ CD で納入後、リポジトリへの公開 2．紀要募集と査読依頼などに関すること ・ 投稿要領などに関する修正（投稿要領、チェックリスト、査読者への依頼文など） 3．リポジトリ等包括登録に関すること リポジトリ運用指針に基づき、全文を包括して登録、公開することの申請を行った ＊投稿申込 11 編、投稿受理 7 編 4．紀要委員会の HP 作成 5．投稿申込み、原稿提出、査読依頼などの作業過程を、メールによる対応に変更
来年度の課題	【紀要の発行手続きに関して】 1．投稿申込み、原稿提出、査読依頼などの作業過程のメール対応による効率化の推進 2．メール対応に合わせたチェックリストの修正 3．メール対応による、個人情報保護に関する必要な確認作業手順の作成 （確実な保護を行うために）

委員会名	国際交流委員会
目的	(委員会規程の目的を転記する。) (1)国際交流に関する企画立案及び実施に関すること (2)その他、国際交流に関して必要なこと
構成員	志田教授（委員長）、澤井教授、佐藤教授、森本教授、佐保准教授、大川准教授、 井上奈講師、山内講師、深山講師
活動概要	１．学類生・院生を対象としたZoom英会話の実施 学生の英会話能力の向上を図る目的で、ヒューマングローバルコミュニケーションズのロン・リード氏に依頼し、計9回のZoomオンラインによる少人数制の「ZOOM STUDY」を実施した。参加希望者は学類生11名、院生4名であった。クラスは1回あたり7名までとし、3クラスに分けて実施した。参加条件として全クラスの参加できることとしていたが、欠席者が数名いた。実施日と参加人数は以下の通りである。 7 月 3 日　10名 7 月 27 日　11名 9 月 25 日　8名 10 月 29 日　11名 11 月 25 日　9名 12 月 21 日　8名 1 月 21 日　9名 2 月 8 日　7名 3 月 15 日　9名 ２．国際看護セミナーの実施 第27回国際看護セミナーとして、大阪大学COデザインセンター長の池田光穂氏をお迎えし、「異文化の理解と看護」と題して学類4年の授業枠である「看護管理学」の1コマとしてZoomオンラインセミナーを同時開催した。2部構成とし、第1部はオンデマンド講演として、「天職としての看護2099－21世紀のナイチンゲール像から学ぶ」というテーマで池田先生のホームページ内にあるYouTube動画の視聴を2020年12月1日～15日に行い、第2部はZoomオンラインセミナーとして「異文化理解と看護」をワークショップ形式で2020年12月25日に実施した。参加者は学類生120名、学内教員15名（国際交流委員含む）であった。 ３．学類生・院生を対象としたマヒドン大学学生との交流会 11月13日15時30分より90分間、マヒドン大学ラマティボディ校の大学院生4名、大学生4名と本学学類生4年4名、大学院生2名が英語による情報交換会を実施した。テーマはお互いの教育プログラムの紹介と新型コロナウイルス感染症禍のキャンパスの変化についてであった。院生と学類生はグループに分かれそれぞれに実施した、終了後はお互いにメールアドレスを交換し、今後交流ができるようにした。

来年度の課題	１．マヒドン大学との交流に向けた英語プレゼンテーションへのサポート ２．マヒドン大学とのオンライン交流の企画 （学年ごとに継続的に実施できるような取り組みの検討） ３．国際看護セミナーの継続 ４．他の国、地域との新規交流の模索

委員会名	ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会
目的	次に掲げる事項について審議する。 (1) 教員の教育内容・授業方法の改善に関すること (2) 教員の教育・研究能力の向上に関すること (3) 教育・研究活動の評価の実施に関すること
構成員	都筑教授（委員長）、檜木野教授、伊藤講師、井上奈講師、山地講師
活動概要	看護学類の委員会の開催は第1回4月20日、第2回9月23日、第3回10月28日、 第4回12月4日（メール審議）、第5回　1月8日、第6回3月16日。 総合リハビリテーション学類、教育福祉学類とはFDセミナーの情報提供を行った。 今年度は、前期は新型コロナウイルス感染症拡大によって、セミナーなどの実施は見送った。 後期には、人権ハラスメント委員会との合同セミナー、FDカフェ、ピア授業参観の企画を立て実施した。 １．FDセミナーの開催 第1回FDセミナー（12月21日）：「学生指導とハラスメント」web開催 講師：広島大学ハラスメント相談室　教授　横山美栄子先生 第1部　講演参加者32名（65.3%）、第2部　グループワーク参加者28名（57.1%） 参加者全員がハラスメントに対する理解が深まり、有意義であったとのアンケート結果であった。 ２．FDカフェの開催 第1回地域保健学域セミナーFDカフェ（3月11日）：「新型コロナウイルス感染症時代の研究戦略」 講師：看護学研究科　北村愛子教授　参加者36名（講師除く） ３．ピア授業参観 前期は急遽対面からオンライン授業に移行したため、ピア授業参観は中止した。後期から、オンライン授業、対面授業とも、全教員を対象としたピア授業参観を実施した。10月に参観提供科目募集と情報提供を行い、メールで各教員への周知を図り、参観科目提供と参観実施を促進した。オンライン授業については、前期の科目も対象とし、学類のべ前期科目5、後期科目109、大学院後期科目11の授業が提供された。提供授業は後期の授業が中心であったが、提供数は増加した。また参観者は述べ13名で昨年度より微増した。 ４．授業評価アンケート促進 オンライン授業を活用し、授業支援システムのアナウンスメント機能により、授業アンケート入力について学生に入力を依頼した。教員にはコメント入力について協力依頼を行い、入力率の向上を図った。看護学類教員の前期科目の入力率は非常に高かった。
来年度の課題	１．ピア参観の継続 ２．FDセミナーへの参加呼びかけ ３．授業アンケートのコメントへの入力促進

委員会名	情報システム・セキュリティ委員会
目的	第２条　委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1)　情報システムに関すること (2)　Web ページのコンテンツの管理運用に関すること (3)　公立大学法人大阪府立大学情報セキュリティポリシー(以下「情報セキュリティポリシー」という。）の運用に関すること (4)　情報セキュリティポリシーに基づく個別対策の把握と必要な措置に関すること (5)　前４号に掲げるもののほか、看護学類における情報システムの運営及び情報セキュリティの確保に関すること
構成員	森本教授（委員長）、都筑教授、井上敦講師、中村助教
活動概要	１．委員会開催など 全学の大阪府立大学情報システム委員会（第１回（メール審議）：2020 年６月５日、第２回：2020 年９月４日、第３回：2020 年 11 月 30 日、第４回：2021 年２月 16 日）開催後に委員会を開催、または必要に応じてメールによる報告・周知を行った。 1）委員会開催 ・第１回委員会開催（2020 年９月 24 日） 全学の第２回情報システム委員会の報告を行った。加えて、情報セキュリティ対策基準、インシデント事例と対応、OPU-CSIRT への報告方法、今年度の情報セキュリティ対策、大学院生のパソコンの保守について確認・検討し、各委員の役割を決定した。 ・第２回委員会開催（2021 年２月 17 日） 全学の第４回情報システム委員会の報告、次年度の看護学類における情報セキュリティの啓発及び教育活動について検討する。 2）メールによる報告・周知 ・全学の情報システム委員会開催後など必要に応じて各委員にメールによる報告や、情報セキュリティ対策を各領域に周知するように指示した。 ２．看護学類における情報セキュリティの啓発及び教育活動 1）学類生への啓発及び教育活動 ・学類生用の情報セキュリティ対策についての啓発チラシを作成し、１年生に対して４月（新年度オリエンテーション）に配布した。 ・２年生に対しては疫学、３年生に対しては保健統計学の授業において、個人情報や情報セキュリティの教育を実施した。 2）大学院生への啓発及び教育活動 ・大学院生用の情報セキュリティ対策についての啓発チラシ及び資料（大学院生室のパソコンの管理、USB メモリや HDD 使用時の注意点、ファイルのパスワード設定、URL のクリック時などの注意点）を作成し、４月（新年度オリエンテーション）に配布した。 ・調査研究処理法Ⅰの授業において、個人情報や情報セキュリティの教育を実施した。

	3）教員への啓発及び教育活動 ・教員用の情報セキュリティ対策についての資料（大阪府立大学情報格付け取扱手順、ポータルのパスワード10桁化、USBメモリやHDD使用時の注意点とマイストレージ等の活用、ウイルス対策ソフトのインストールの徹底、URLのクリック時などの注意点）を作成し、4月に配布した。 ・臨地実習に関する講習会および情報セキュリティ説明会（2020年4月20日）で、新任教員（2名）と非常勤助手に情報セキュリティについて説明した。 ・必要に応じて教員にメールによる周知（マルウエア Emotetへの対策、情報セキュリティインシデント発生時の連絡先、大阪府立大学情報セキュリティ対策基準の改正など）を行った。 ３．看護学類における情報セキュリティインシデントへの対応 今年度、3件（マルウエア感染疑い、USB紛失など）の情報セキュリティインシデントが発生した。OPU-CSIRTへの報告及び、看護学類の教員への予防策の周知を行った。 ４．全学の情報セキュリティ講習会等への参加及び周知 全学の情報セキュリティ講習会（情報セキュリティ講習会：2020年9月7日、11月27日、情報セキュリティインシデント対応チーム研修会：2020年9月23日）等に委員が参加するとともに、新任教員や学生など各講習会の対象者に周知を行った。 ５．看護学類における情報システムの説明会等の実施 1）Zoomの基本操作の説明（2020年4月3日） 2）授業支援システム（Moodle）の基本操作の説明（2020年4月14日） ６．大学院生自習室のパソコン管理 大学院生自習室のパソコンについて、保守に業者を導入し、学生委員会と共同で管理を行った。
来年度の課題	1. 看護学類における情報セキュリティの啓発及び教育活動 1）今年度に実施した学類生、大学院生、教員への啓発及び教育活動を継続する。 2）新たに、学類の1年生に対して、情報システム（授業支援システム、WEBメール）と情報セキュリティについての講習会を企画し、実施する。 2. 看護学類情報システム・セキュリティ委員の人材強化 3. 新大学に向けた検討

委員会名	部局計画・評価委員会
目的	委員会は、公立大学法人大阪府立大学計画・評価会議規程第2条第1項第1号、第3号、第4号、第5号及び第7号に掲げる職務のうち、学類・研究科において必要な計画及び評価を行うものとする。
構成員	田中研究科長、長畑教授(委員長)、細田教授、簇持教授、中嶋准教授、伊藤講師、 大野講師、根来講師
活動概要	部局における活動： 委員会の開催2回、メール審議2回 1) 2019年度部局計画実施状況（通年）の調査及び報告書作成 2019年度部局計画実施状況（上半期実績）に下半期の実績を加え、達成状況を確認して記載し、企画総務課に提出（4月） 2) 2019年度部局改善方策調査票の作成 2016～2018年度自己点検評価資料（2019年度作成）を参考に部局改善方策を記載し、企画総務課に提出（4月） 3) 2019年度年報の作成 教授会にて承認された「2019年度年報の構成」に則り、担当委員会に執筆を依頼、企画総務課より教員業績データの提供を受け、確認、校正作業を行い、2020年12月に完成し、Webページに公表 4) 2020年度計画の部局の実績のとりまとめと報告 部局計画がなくなり、大学全体の年度計画となったため、実績報告書作成に必要な項目について、教育企画運営会議より部局の実績に関する照会があった。
来年度の課題	１．2020年度計画実績報告に向けた部局の実績報告 （依頼2020年度末、回答2021年度4月） ２．2020年度年報の作成・校正と公表 ３．2021年度計画の実施状況の調査及び報告 ４．その他

委員会名	人権・ハラスメント委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 人権及びハラスメント問題の啓発に関すること (2) 人権及びハラスメント問題に関する講演会及び研修に関すること (3) ハラスメントに関する相談に関すること (4) 前各号が掲げるもののほか、委員会が必要と認める人権問題及びハラスメント防止に関すること
構成員	簇持教授（委員長)、長畑教授、紙野准教授、岡﨑講師、村上事務所長（羽曳野キャンパス事務所）
活動概要	教職員へのハラスメントへの啓発と感受性を高めるために講習会をFD委員会と共催し、企画・運営した。 今年度、構成員が直接協議し、対応しなければならないハラスメントの問題は生じなかった。 １．講習会の企画・運営 テーマ：「学生指導とハラスメント」 講　師：広島大学ハラスメント相談室　教授　横山　美栄子先生 日　時：12月21日 第1部　講義13:00～14:30 第2部　グループディスカッション14:40～16:00 オンライン開催 参加者：本学教員・非常勤職員　第1部32名　第2部28名 ２．ハラスメントにかかわる相談体制整備 各教員がハラスメント相談員へアクセスしやすいよう、委員会名簿に明示した。 ３．ハラスメント研修に関わる情報提供 全学で実施されるハラスメント研修に関わる情報提供をメールで行った。
来年度の課題	1. 人権・ハラスメント問題への啓発に向けて、講演会や研修会のアナウンスに協力し、多くの教職員の参加を促していく。 2. ハラスメント相談員との有機的な連絡・相談体制の構築について継続して検討する。 3. 大学院生に対してもハラスメント相談員に関するアナウンス等を十分に行うことが必要である。

委員会名	大学院看護学研究科研究倫理委員会
目的	本研究科等の教職員（非常勤を含む）及び学生、客員研究員が行う人間を対象とする研究の倫理審査に関すること
構成員	田中研究科長、細田教授（委員長）、北村教授、佐藤教授、佐保准教授、冨川准教授、九津見准教授 村上事務所長（羽曳野キャンパス事務所） 外部委員：3名
活動概要	申請69件（通常審査：15件、迅速審査：54件）の研究倫理審査を行った。 １．委員会開催 倫理審査に関する委員会を8回（うち臨時委員会1回）開催した。 博士前期課程：修士論文　6件(うち迅速審査6件) 課題研究　16件(うち通常審査1件、迅速審査15件) 博士後期課程：本研究　10件(うち通常審査2件、迅速審査8件) 予備研究　5件(うち通常審査2件、迅速審査3件) 教　　員　：　32件(うち通常審査10件、迅速審査22件) ２．研究倫理審査異議申立書（教員）1件を受理し、臨時委員会で審議した。 研究倫理審査異議申立書に対する回答書（様式）を作成し、臨時委員会で承認された。 ３．研究倫理審査に関するオリエンテーションとして、大学院生、教員を対象とした動画説明および資料をポータルサイトに掲載した。 ４．研究倫理審査申請書類の提出方法を紙媒体に加え、電子ファイルで提出できるように変更した。 研究倫理審査「申請の手引き」に提出方法の変更を加筆し、改訂した。 ５．申請者へのフィードバックを対面（口頭）から審査結果を記載した紙面をZoomおよびメールでフィードバックする方法に変更した。 ６．英語版の研究倫理審査結果証明書を1件発行した。
来年度の課題	・審査日程の検討 ・外部委員（有識者）の選任 ・研究終了・中止報告書提出の徹底

委員会名	療養学習支援センター運営委員会
目的	第１条　この規程は、大阪府立大学大学院看護学研究科療養学習支援センター規程第３条第２項の規定に基づき、大阪府立大学大学院看護学研究科療養学習支援センター運営委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。 （職務） 第２条　委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1)　事業計画に関すること (2)　予算に関すること (3)　その他、療養学習支援センターの管理運営に関すること
構成員	田中研究科長（所長）、三輪教授（主任）、渡邊教授、大江准教授、長田准教授 益准教授、岡野准教授、山地講師
活動概要	１．運営委員会活動 運営委員会を 8 名で組織し、円滑な運営ができるように年間 7 回の委員会を開催し、活動の検討や推進のための調整活動を行った。 ２．プロジェクト活動研究助成・活動助成 2020 年度は活動研究助成 1 件、活動助成 11 件の申請が認められ、総額 1,411,830 円の助成を行った。2021 年 3 月 11 日に報告会（オンライン）を開催し、助成プロジェクトの活動状況を報告した。 ３．第 8 回看護フォーラム 2021 年 2 月 6 日にオンラインにて、「つながろう！看護の知カラ　新型コロナウイルス感染症をめぐる看護職のジレンマ」をテーマにシンポジウム及びグループディスカッションを行った。 ４．広報活動 療養学習支援センターの活動を地域に発信するために、ホームページの掲載とプロジェクト活動の案内を羽曳野市市報に掲載した。また、パンフレットを作成し、関係部署に配布した。 ５．闘病記文庫活動 羽曳野図書センター内に闘病記文庫を開架している。つばさ基金より支援を受けて新刊図書の購入を行った。 ６．年報作成 年報（第 17 巻）を作成し、ホームページ上に公開した。
来年度の課題	１．プロジェクト活動・研究の活性化 ２．闘病記文庫の運営方針の検討 ３．看護フォーラムのテーマ・対象について検討する。 ４．新大学における療養学習支援センターの活動を発展させるための具体的計画を検討

委員会名	動物実験委員会（全学・羽曳野キャンパス）
目的	本委員会は下記の事項について審議することを目的とする。 (1) 部局が承認した実験計画並びに当該実験計画の実施状況及び結果の適正性に関すること (2) 部局が承認した施設等及び実験動物の飼養保管状況の適正性に関すること (3) 動物実験の実施に係る自己点検・評価に関すること (4) 入学試験の出題及び採点に関すること (5) その他、動物実験等の適正な実施に関し必要なこと
構成員	生命環境研究科：岡田教授（委員長）、笹井教授、近藤講師 理学系研究科：児玉教授　　工学研究科：原田教授　　経済学研究科：近藤教授 人間社会システム科学研究科：総田教授　　高等教育推進機構：岡田准教授 総合リハビリテーション：宮井教授　　看護学研究科：澤井教授 事務局：青木、橋本（研究推進課）
活動概要	活動概要 １．委員会（定例2回） ２．本年度委員会の委員長・副委員長の選出を行った。 ３．今年度の動物実験計画（183件）の承認、その実施状況および結果の適正を審査した。 ４．動物施設とその動物飼養・保管状況の適正を調査した。 ５．動物実験の従事者に対する教育訓練、また学生・非常勤職員を対象としたバイオリスク管理・遺伝子組換え実験・動物実験安全教育訓練は、新型コロナウイルス感染症禍により実施を取りやめ、代わりに訓練用の動画を本学ポータルサイトにアップロードした。 ６．昨年度の実験動物の飼養と動物実験の計画および実施状況について自己点検・評価を行い、その結果を「令和元年度動物実験自己点検・評価報告書」にまとめて本学WEBサイトに公表した。次年度の実験申請の審査スケジュールを検討し、決定した。 ７．次年度の動物実験計画（127件）を審査した。
来年度の課題	１．動物施設および実験計画書の適正を審査する。 ２．国立大学法人動物実験施設協議会・公私立大学動物実験施設協議会による『動物実験関する外部検証事業の検証結果報告書』に従い、本学における実験動物の飼養と施設管理と動物実験の実施の適正化を図る。 ３．2020年度動物実験自己点検・評価報告書を作成し、提出する。 ４．動物実験等の適正な実施をはかるため、施設の運用状況を確認するとともに、動物実験に関わる教員・学生への教育訓練を行う。

委員会名	バイオリスク管理委員会（全学）
目的	委員会、次に掲げる事項について調査・審議するとともに、微生物の安全管理に必要な事項を処理する。 ⑴内部規則の制定及び改廃に関すること ⑵微生物等の BSL 及び ABSL の分類に関すること ⑶施設設備の立ち入り調査及び安全管理に関すること ⑷微生物等の保管、分与、輸送及び取扱いに関すること ⑸教育訓練の実施及び健康診断に関すること ⑹曝露、事故、災害の発生した場合は、その原因の調査及び事後処理の確認に関すること ⑺前各号に掲げるもののほか、微生物等の安全管理に関すること
構成員	荻野教授・原田教授・福田教授（工学研究科）、山崎教授・三宅教授・向本教授・石橋准教授（生命環境科学研究科）、居原教授・竹中准教授（理学系研究科）、近藤真司教授（経済学研究科）、下村教授・総田教授（人間社会システム学研究科）、近藤教授（総合リハビリテーション学研究科）、宮本教授（高等教育推進機構）、古田教授・青木課長補佐（研究推進機構）、佐藤（看護学研究科）
活動概要	１．バイオリスク取扱申請ならびに施設申請に関する書類審査 4 月 2 日に中百舌鳥キャンパスにおいて「第 1 回バイオリスク管理委員会」を開催し、前年度末に申請のあった『バイオリスク取扱申請』（118 件）と『バイオリスク施設申請』（139 件）の書類審査を行った。 以降、申請のあった『バイオリスク取扱申請』と『バイオリスク施設申請』についてはメールで審査依頼を受け、随時、書類審査を行って結果を報告した（2020 年 1 月 30 日現在、取扱申請 156 件・施設申請 143 件） ２．バイオリスク施設申請に関する現地確認 総合リハビリテーション学研究科との相互チェックにより、5 月 16 日 16:30 から看護学研究科、11 月 5 日 14:00 から総合リハビリテーション学研究科の実験室の現場確認を行った。 ３．バイオリスク管理安全教育訓練への参加 微生物等の安全管理に必要な知識・技術の向上を図ることを目的に毎年開催されている教育訓練の遠隔講習に参加した。
来年度の課題	１．微生物等を扱う授業ならびに研究を行う者に対して「バイオリスク管理安全教育訓練」への出席を促し、安全に努める。 ２．バイオリスク取扱申請と施設申請について適切な審査を実施する。

委員会名	羽曳野図書センター運営委員会
目的	委員会は、学術情報センター図書館委員会の諮問を受け、羽曳野図書センターにおける次に掲げる事項を審議する。 ⑴図書の選定に関すること ⑵図書の管理に関すること ⑶図書の利用に関すること ⑷その他、図書センターの運営に関すること
構成員	楢木野教授(委員長)、紙野准教授、根来講師、喜田助教 総合リハビリテーション学類：神谷教授（センター長）、岩城准教授、大西准教授、上田助教
活動概要	Ⅰ.学術情報センター図書委員会に合わせて委員会の開催、必要に応じて看護学研究科教員によるメール会議を開催した。 １．第1回委員会（2020年6月2日） 1)2020年度予算について 2)2021年度電子ジャーナル・データベース・購入雑誌等について 3)2020年度選書に関する検討 報告として、2019年度統計、新型コロナウイルス感染症防止にかかる図書サービス等 ・メール会議（看護系）電子ジャーナル・データベース・購入雑誌等について ２．第2回委員会（2020 年7 月1日） 1）2021年度電子ジャーナル・データベース・購入雑誌等について 現行の見直しと追加データーベースの決定 2）2021年度総合図書館中百舌鳥購読外国雑誌について 3）2021年度総合図書館中百舌鳥購読国内雑誌について 4）大阪府立大学羽曳野図書センター図書収集方針の改訂について 報告として、専門図書室長懇談会 *10月開催の第3回委員会中止、第4回委員会を第3回委員会とする ３．第3回委員会（2020年11月25日） 1）2020選書について、図書購入の方針決定 2）その他「新入生に薦める100冊の本」の推薦図書依頼 報告として、2020年蔵書点検結果 ４．第4回委員会（2021年2月19日） 1）2021年データーベース利用講習会 2）学生希望図書選書結果 3）2020年予算執行状況報告 4）専門図書室長懇談会報告 5）新大学に向けた懇談事項 ・資料整備 ・2022年外国雑誌購読タイトル Ⅱ．その他 ・メール審議は、学生からの図書購入希望があった場合、選書の最終検討の際に実施した。 ・新型コロナウイルス感染症防止にかかる図書サービスに関する情報を提供した。 ・新大学関連のデーターベース決定に向けたトライアルの情報を提供した。
来年度の課題	・教員への推薦図書システムのアナウンス徹底 ・新大学関連

委員会名	羽曳野キャンパス感染対策委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 ⑴　学生及び教職員の感染予防対策に関すること ⑵　感染予防対策実施の監視と指導に関すること ⑶　感染症発生後の適切な事後処理に関すること ⑷　感染症発病者の人権擁護に関すること ⑸　学外実習施設等との感染対策に関わる連絡調整に関すること ⑹　前各号に掲げるもののほか、感染予防に関し必要と認められる事項に関すること
構成員	佐藤教授、井上敦講師、喜田助教 東妻看護師（保健室）、学校医、産業医、学生グループ、総務グループ 総合リハビリテーション学類：堀部教授（委員長）、平岡教授、大西准教授
活動概要	1.羽曳野キャンパス感染対策委員会の開催 4月7日に第1回委員会を開催し、以下の検討・確認を行った。 ・本学および他大学の新型コロナウイルス感染症対策について確認し、羽曳野キャンパス版の「実習における新型コロナウイルス感染症対策（暫定版）」と「新型コロナウイルス感染症発生時の連絡・ 指 示体制」を作成し、4月度の両研究科教授会で報告した。 ・前年度の学生・教職員の感染症発生状状況について報告された（インフルエンザ　27件、感染性胃腸炎　5件、その他　4件） 2．学生および教職員の感染事案の把握と対応 保健室の東妻看護師のもとで感染症事案を集約し、委員長と副委員長が随時メールで報告を受け、インフルエンザなどによる登校停止期間の確認や学生への対応に関する指示を行った。 3．小児期感染症の抗体検査結果の把握とワクチン接種の推奨 1） 新入生（1年生）対象 新型コロナウイルス感染症流行によって健康診断は後期に延期となったが、9月の基礎看護学実習Ⅰの準備として小児感染症の後退検査（採血）が6月27日に実施されることになった。そのため、臨地実習にむけた抗体検査の実施と予防接種の必要性について説明する文書を作成し新入生に郵送した。抗体検査の結果、ワクチンの追加接種が必要な学生（麻疹89人、風疹63人、水痘13人、流行性耳下腺炎54人）に対して、検査結果の見方と臨地実習で求められているワクチン接種の必要性について具体的に説明する文書を作成し、7月8日に接種報告用紙とともに郵送した。 ワクチン接種に関して新入生やクリニックの医師から問い合わせがあり、メールで回答した。 2）2年生対象 2021年2月の基礎看護学実習Ⅱに向けて小児期感染症のワクチン接種が完了していない学生39人に対し、9月16日・11月11日・1月14日の3回に渡ってメールで接種を勧奨

	した。 3）3年生対象 後期からの領域別実習に向けて小児期感染症のワクチン接種が完了していない学生13人に対し、6月19日にメールで接種を勧奨した。 4.新型コロナウイルス感染症対策 対面での授業再開に向けて、「登校禁止解除後の羽曳野キャンパス新型コロナウイルス感染症対策（暫定版）」を作成し、6月初旬に看護学類の各学年の「修科目担当者に依頼し、授業支援システムを活用して学生に配信した。 夏季のマスク着用や有症状時の対応ならびにキャンパス内「入退館管理フォーム」や「接触確認アプリ COCOA」の活用など、新型コロナウイルス感染症対策の新たな情報を加えた資料「羽曳野キャンパス新型コロナウイルス感染症対策」と「実習における新型コロナウイルス感染症対策」を看護部会版として作成した。 看護学類と看護学研究科の実習中に陽性者や濃厚接触者が出た場合の連絡・指示体制についてフォロー図を作成した。
来年度の課題	1.小児期感染症のワクチン接種を実習前に終了できるよう推奨していく。 2.実習において針刺しや血液・体液曝露のリスクがあることから、学生がB型肝炎ワクチンの接種スケジュールをたてて3回接種を完了できるよう指導していく。 3.新型コロナウイルス感染症対策として、学生が適切な予防行動をとれるよう指導、啓発を行う。

部会名	病院連携推進部会
目的	看護学研究科と府立病院機構、地域関係機関との連携・研究の推進を図る
構成員	北村教授（部会長）、簇持教授、杉本教授 長田准教授、大江准教授、冨川准教授
活動概要	１．府立５医療センター指導者との講義・演習等での交流 ・医療センターの臨床講師への看護学の授業参加については、新型コロナウイルス感染症の影響で中止になった。 ２．５医療センター臨床講師との協働やCNS活動の共同推進にむけての意見交換 ・本年度は、新型コロナウイルス感染症禍での大学と臨床との情報交換のために看護部長会で交流を行った。（2020年6月18日15:00～・2021年1月20日15：00～5医療センター看護部長会出席）主な内容は、新大学の実習施設のお願いと情報交換、国家試験後の就職前の時期の過ごし方の留意事項や緊急事態宣言下での臨地実習の在り方など、病院と大学の事情を情報提供し合い協力上の留意点を話し合った。また、臨床講師の臨地でない実習形態への参加についての可能性も検討した。さらに新人教育や継続教育について、大学教員との協働についてもできることがあれば依頼頂けるように説明．現在の医療情勢を鑑み大学教員が社会貢献できる内容があればその点も協議していくという話し合いをした． ３．医療・保健機関等の共同研究推進について ・精神看護領域（冨川准教授）において、１施設と共同研究を始めている。 本年度は、研究支援という形式で連携し始めていたが、感染の影響により研究計画の変更が余儀なくされ、再度倫理審査にむけて準備中である。 ４．共同研究、研究共有の場の充実 ・療養学習支援センター企画に参加して地区の看護師や参加された指導者の方々と交流を図る。 講演後の質疑応答などで関心事を確認、共同研究への課題を見つける機会づくりとする。 ５．ふれあい病院探検等は、本年度の企画は中止となった ６．クロスアポイントメント制度についての検討 実現可能性について、感染事態への協力についての検討に留まった
来年度の課題	次年度は、新型コロナウイルス感染症禍でもできる方法で府立５医療センターとの講義・演習等での交流を継続する。また、共同研究も進め共同研究共有の場の機会を探る。看護部長会や府立機構5医療センターでも本部会の趣旨と取り組みを広報して調整、活動を継続する。具体的には、①指導者交流会、②研究、③授業参観、④療養学習支援センター企画との協働等の活動を検討していきたい。

部会名	カリキュラム検討部会
目的	部会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 文科省「モデル・コア・カリキュラム」、JANPU「看護学士課程におけるコアコンピテンシー」に対応するカリキュラムの作成 (2) JANPU「看護系大学における養護教諭養成のためのコアカリキュラム」の検討と養護教諭養成教育の充実 (3) 大学院カリキュラムの評価（CNS コースを含めて） (4) 大学院博士前期課程カリキュラム評価に基づく検討
構成員	細田教授（部会長）、長畑教授、中山教授、古山准教授、林田准教授、南村准教授、 紙野准教授、冨川准教授
活動概要	１．主な部会活動の実施状況 部会開催１回：文部科学省申請書類作成、看護基礎教育検討会の情報収集 ２．所管事項 1）文部科学省申請書類作成 新大学院で設置する科目と現大学院の科目との対応表の作成 科目番号新旧対照表の確認 2）看護基礎教育検討会の情報収集 保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部を改正する省令、看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインについての一部改正の確認
来年度の課題	１.新大学カリキュラムの検討は、新大学ワーキングが進めており、連携しながら検討する。

第４章　学生の受け入れ

１．学士課程

１）入学者受け入れの方針

（1）アドミッション・ポリシーとその周知方法

「看護学部入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」を 2004 年度に制定したが、学域・学類入試への変更に伴い、2011 年度に具体的に 3 項目の選抜方針を追加した「看護学類入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」を制定し、2020 年度に 4 項目目を追加した（資料 4-1-1-1）。

資料 4-1-1-1　看護学類入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

看護学類入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

少子化、高齢化、国際化など社会構造の変化と国民のニーズの多様化、医療の高度化、専門化を背景に、わが国の看護・医療は大きく変わりつつあります。その中で看護職の占める役割はますます重要になってきています。看護学類では生命の尊重と個人の尊厳を基盤とし豊かな人間性を形成するとともに、看護の専門的知識・技術をもって社会ニーズに応えて、幅広い分野で活躍できる看護専門職者を育成し、人々の健康の維持・増進に寄与するとともに国際社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

したがって、看護学類では次のような学生を求めています。

1　人間の喜び、苦しみ、痛みを分かち合え、生命の尊厳について理解しようとする姿勢をもった人
2　幅広い学問分野に支えられた専門的な看護に必要な知識・技術を主体的、積極的に修得できる高い基礎学力をもった人
3　保健・医療・福祉などの場において他のヒューマンサービスを提供する人々と連携することのできる柔軟性を有しリーダーシップのとれる人
4　科学的根拠に基づく看護を提供するための論理的思考力と表現力をもっている人

以上に基づき、看護学類の教育理念・目的にふさわしい学生を受け入れるため、次の１～４の能力や適性を持つ学生を選抜します。

1　高等学校における教科・科目を文理ともに広く学習し、高い基礎学力を有していること
2　対人支援のコミュニケーションのための基礎となる国語能力を有していること
3　英文を読んで理解し、英文で表現するための基礎的な能力を有していること
4　他者を理解し、主体的に学習に取り組むことができること

看護学類の学生受入の方針（アドミッション・ポリシー）については、以下のとおり、選抜要項や募集要項に掲載したほか、ホームページに掲載して公表に努めた。

(1)　2021年度入学者選抜要項
(2)　2021年度学生募集要項（一般入試）
(3)　2021年度推薦入学学生募集要項
(4)　2021年度外国人留学生特別選抜学生募集要項
(5)　ホームページ（URL: http://www.nursing.osakafu-u.ac.jp/policy/）

（２）一般入試

2020年度よりはじまった大学入学共通テストについては、前期日程、後期日程ともに、5教科6又は7科目配点（総計800点）を課して、基礎学力の評価を行っている。また、アドミッション・ポリシーの「国際社会に貢献できる人材の育成」の観点から、大学入学共通テストでは外国語（英語）のリスニングテストを課している。多様な学生を選抜するため、前期日程の受験区分を理系型と文系型に２分し、理系型では数学と理科の筆記試験を、文系型では小論文試験を個別学力検査として課している。さらに、後期日程の個別学力試験では、従来の小論文試験に替えて面接試験を導入し、主体性や協調性、リーダーショップを重視した選抜を行う。

（３）特別選抜入試

(ⅰ)外国人留学生特別選抜

選抜方法は日本留学試験の成績、TOEFL又はTOEICの得点、小論文試験、面接試験、成績証明書により、総合的に判定する。募集人員は若干名である。出願資格に次の3点を付加している。

1)日本留学試験の「日本語」の得点が270点以上

2)日本留学試験の「化学・生物」と「数学（コース1またはコース2）」の合計得点が200点以上

3)TOEFLの得点がiBT：45点以上であること

(ⅱ)学校推薦型選抜試験

出願できるのは、「調査書の全体の学習成績の状況が4.0（5点満点）以上である者」「看護学に関する知識と技術の修得に熱意をもち、学力、人物ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者」等の条件に該当する者である。各高等学校等で推薦できる人数は、大阪府内の高等学校等は3名以内、その他の高等学校等は1名としている。入学者の選抜は、小論文（英文資料の読解を含む）、面接、調査書、出身学校長の推薦書及び活動報告書により総合的に判定して行っている。

２）入学者選抜の実施体制

入学試験に関する企画と適性かつ円滑な実施を図ることを目的として、入学試験運営委員会が設けられている。2020年度は研究科長を委員長とし、教授会が選出した教授５名、教員４名、羽曳野キャンパス事務所長、その他委員会が必要と認める者から構成され、11名で運営された。さらに、入学試験に関して、大学全体の全学入試運営部会、出題採点部会、入試広報部会にも学類の入試委員が参加することで、大学全体との調整を図った。

試験実施は教員が試験監督、面接試験委員を務め、事務担当者が試験会場の設営、入試事務に関する業務を行った。試験当日の実施について、担当者に対しては必ず実施に関する実施要員説明会を行い、担当業務が責任を持って正確に行われるよう確認した。合格者の決定については、試験の種類により決められた選抜基準に基づき、入学試験運営委員会において合否判定資料案を作成した後、教授会の審議により合格者を決定した。

３）入学者受け入れの現状

2020年４月入学手続者の現状を次に示す。ほぼ募集人員どおりである。（資料4-1-3）

資料 4-1-3　2020 年　看護学類入学手続者

	選抜方法等	募集人員（名）	入学手続者（名）
一般入試	前期日程	50	51
	後期日程	16	13
特別選抜	推薦入学	55	55
	外国人留学生特別選抜	若干名	1

２．　大学院課程

１）入学者受け入れの方針

（１）アドミッション・ポリシーとその周知方法

「看護学研究科の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」（資料 4-2-1-1）を 2004 年度に制定した。2016 年度にアドミッション・ポリシーを具現化するために、適切な評価方法としての入学者選抜をアドミッション・ポリシーに含め、今年度よりホームページで公開した。

資料4-2-1-1　看護学研究科の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

看護学研究科の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

看護学研究科は、多様化、複雑化、高度化する社会環境の中で、生命と人権の尊重を基盤として、看護に求められる社会的使命を遂行し、看護学を実践的・創造的に発展させ、地域社会及び国際社会のあらゆる健康レベルの人々に貢献できる高度な看護分野の実践者、管理者、教育者、研究者を育成することを目指しています。

●博士前期課程

看護学専攻では、人間の存在と生命の尊厳について深く理解し、広い視野に立って精深なる学識を修め、高い倫理観をもち専門分野における教育研究能力、あるいは高度に専門的な実践能力を有する人材を育成することを目標にしています。

したがって、看護学専攻では次のような学生を求めています。

1．論理的思考力や課題探求力と併せて、専攻する学問分野の専門的基礎及び応用能力と国際的関心を有していること
2．高度専門職業人として、看護実践並びに看護学の発展に貢献する意欲を有していること
3．豊かな人間性と倫理観を備え、自ら学ぶ姿勢を有していること

以上に基づき、次の 1～4 の能力や適性を身につけた学生を選抜します。

1．専攻する学問分野の専門基礎と応用能力を有していること
2．研究に対する意欲と具体的な展望を持ち、論理的思考力を有すること
3．高度専門職業人として、看護実践並びに看護学の発展に貢献する意欲を有していること
4．英文で書かれた看護学の論文を読むための語学力を有すること

●博士後期課程

看護学専攻では、豊かな学識を有し、看護学分野において学術研究を推進しその深奥を究め、自立して研究活動を行うことができる能力を有する人材を育成することを目標にしています。

したがって、看護学専攻では次のような学生を求めています。

1．探究心旺盛で看護学の視点から自立して研究に取り組む姿勢を有していること
2．専門分野について深い基礎及び応用能力を有し、多様な学問分野への高い関心と国際的な視野を備えていること
3．豊かな人間性と看護学の発展に貢献する熱意を有していること

以上に基づき、次の 1～3 の能力や適性を身につけた学生を選抜します。

1．博士前期課程で身につけた、専門領域の研究内容を高い水準で理解し、かつ分析手法を修得していること
2．提出された修士論文、研究計画書、および口述試験において、研究テーマの学術的発展性を見抜く洞察力を示すとともに、それを論理的に説明、表現できていること
3．研究成果を海外に発信するための英語力を有すること

看護学研究科の学生受入の方針（アドミッション・ポリシー）については、以下のとおり、募集要項に掲載したほか、ホームページにも掲載して公表に努めた。看護学研究科の学生募集要項は、病院・看護協会等(283 件)に対して送付している。

① 大阪府立大学大学院看護学研究科博士前期課程・博士後期課程学生募集要項
② ホームページ（URL: http://www.osakafu-u.ac.jp/academics/graduate/nursing/policy/）

（2）入学試験

博士前期課程では外国語（英語)、専攻科目、面接試験を実施し、専攻科目試験はきめ細かく適性を判断するために各領域・分野毎の出題としている。博士後期課程では外国語（英語)、専門科目（全分野共通)、口述試験を行っている。いずれもアドミッション・ポリシーに見合う専攻科目・専門科目と面接試験・口述試験を実施している。

2）入学者選抜の実施体制

看護学研究科の入学試験についても、入学試験運営委員会において企画とその実施が適正かつ円滑に行われるような体制が整っている。2020 年度は博士前期、博士後期課程とも第 2 次募集による選抜が行われた。

３）入学者受け入れの現状

2020 年 4 月入学手続者の現状を資料 4-2-3 に示す。

資料 4-2-3　2020 年　看護学研究科入学手続者

		募集人員（名）	入学手続者（名）
看護学研究科	博士前期課程	26	20
	博士後期課程	5	5

３．入試広報

１）入試広報活動

（１）学士課程

学校推薦型選抜では大阪府内の公立高等学校158校、2年連続で出願が見られた府内私立高等学校校と府外の高等学校36校、計194校に募集要項を送付した。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により広報活動に大きな制限があった。

オープンキャンパスは従来の対面式ではなくWebによるオンライン開催を実施し(2020年8月7日～20日)、学類紹介動画、Web模擬授業、FAQの作成を通して周知の機会とした。

入試広報活動の高校訪問などは新型コロナウイルス感染症防止対策により減少し､高校内ガイダンス4校･進学相談会1件を実施した。

スタディサプリへの広告掲載、朝日新聞広告を掲載し、本学の看護学類の存在をアピールした。

（２）大学院課程

大学院受験生対象の説明会を5月（参加者34名）と10月（参加者20名）の２回、Web オンラインで開催した。新たな試みとして、2月に学類4年生対象にオンライン大学院説明会を実施した（参加者数29名）。

大学院入試では、看護協会30か所、病院203か所、保健所50か所に募集要項を郵送した。

４．科目等履修生制度、研究生の受け入れについて

看護学類では、高等学校を卒業した者またはそれと同等以上の学力があると認められた者が看護学類の授業科目を履修できる科目等履修生を毎年度、前期・後期の計２回募集している。2020 年度は受け入れはなかった。

看護学研究科では、看護系大学院修士課程又は博士前期課程を修了した者が、看護学研究科の講義科目を履修できる科目等履修生を毎年度、前期・後期の計２回募集している。また大学卒業見込み又はこれと同等以上の学力があると認められた者が研究について指導を受けることのできる大学院研究生を毎年度、前期・後期の計２回募集している。2020 年度は科目等履修生、研究生とも受け入れはなかった。

第５章　教育内容及び方法

１．教育課程の編成・授業科目の内容

１）学士課程

看護学類では、生命の尊重と個人の尊厳を基盤とし、豊かな人間性を形成するとともに、科学的専門知識・技術を教授し、看護を総合的な視野で捉えられる人材を育成することを教育目的としており、2015 年度より看護学類の教育課程編成実施方針を検討し、2016 年度に施行した。看護学類の教育目的・教育目標・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成実施方針（カリキュラム・ポリシー）を資料 5-1-1-1 に示す。

教育目的を達成するために教育課程が編成されている。その編成は、幅広い教養を身につける「共通教育科目」、看護学の基盤教育としての「専門基礎科目」、看護学の「専門科目」からなる。共通教育科目は、大阪府立大学全体の教養教育と基礎教育を担う高等教育推進機構が実施している。看護学の「専門科目」は、「学域共通科目」「基礎看護学」「療養支援看護学」「生活支援看護学」「家族支援看護学」「看護の統合と実践」から構成している。

「共通教育科目」「専門基礎科目」「専門科目」は、学習の順序性を考えて体系的に配置している（資料 5-1-1-2)。「共通教育科目」は、主に１年次に配置し、国際的な視野で貢献できる能力を養う実用英語習得のための英語教育は１年次、2 年次に配置している。共通教育科目は、羽曳野キャンパス開講科目に加え、週 2 日間中百舌鳥キャンパスにおいて開講されている導入科目（初年次ゼミナール）92 科目、教養科目 104 科目、教育展開科目 36 科目の中から選択することができる。学生は、羽曳野キャンパス及び中百舌鳥キャンパスにおいて、多くの科目から共通教育科目を選択することができるようになった。なお、2020 年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響でオンラインの授業も多かったが、必要時中百舌鳥キャンパスとの交通にはキャンパス間のバスを授業開始時間にあわせて今年度は利便性を高め運行した。

「専門基礎科目」は、主に１年次、2 年次に配置し、からだの構造や機能、病態や疾病、薬理や疫学等を理解するための科目等を開設している。「専門科目」は、1 年次から 4 年次に配置し、「基礎看護学」「療養支援看護学」「生活支援看護学」「家族支援看護学」の専門領域別の科目では、看護に必要な知識と技術及び科学的根拠に基づく問題解決能力を養う内容が含まれている。さらに、専門領域別の実習を 1 年次から 4 年次に配置し、保健･医療･福祉などの分野において、看護の実践能力及び調整的能力を養う内容となっている。「看護の統合と実践」では、看護学への関心を深め、総合的な視野と看護学研究の基礎能力を養うための科目等を開設している。

2012 年度以降の入学生から養護教諭一種免許状取得のための科目を開設しており、養護教諭一種免許状取得を希望する学生は、「教育の基礎的理解に関する科目等」「養護に関する科目」「大学が独自に設定する科目」「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」を履修することを必修としている。

また、2006 年度より転学部（学域・学類）制度の導入、南大阪地域の大学との南大阪コンソーシアム、大学コンソーシアム大阪、三大学単位互換協定を次々と結び、互換可能な開講科目について単位認定を可能にし、学生の学習の機会を拡充している。

資料 5-1-1-1　看護学類の教育目的・教育目標・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成実施方針（カリキュラム・ポリシー）

教育目的

生命の尊重と個人の尊厳を基盤とし、豊かな人間性を形成するとともに、科学的専門知識・技術を教授し、看護を総合的な視野で捉えられる人材を育成する。

教育目標

教育目的をふまえた教育実践により、卒業時には次のような能力を有し、看護師、保健師、助産師として広く社会に貢献できる人材を育成する。

(1) 人間の痛み、苦しみを分かち合え、幅広い教養を身に付け、生命の尊厳について深く理解し、行動できる豊かな人間性を養う。

(2) 看護に必要な知識と技術を習得し、科学的根拠に基づく適切な判断と問題解決能力とあわせ、社会の変化や医療技術の発展に対応できる能力を養う。

(3) 保健・医療・福祉、教育、地域においてヒューマンサービスを提供する人々と連携し、看護の実践と調整的な機能を果たす能力を養う。

(4) 変化する社会の中で看護の役割を展望し、発展させ、地域的・国際的な視野で貢献できる能力を養う。

(5) 看護学への関心を深め、総合的な視野と看護研究の基礎能力を養う。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

(1) 人間の痛み、苦しみを分かち合え、幅広い教養を身につけ、生命の尊厳について深く理解し、行動できる豊かな人間性が形成されている。

(2) 看護に必要な知識と技術を修得し、科学的根拠に基づく適切な判断と問題解決能力とあわせ、社会の変化や医療技術の発展に対応できる能力を修得している。

(3) 保健・医療・福祉・教育・地域においてヒューマンサービスを提供する人々と連携し、看護の実践と調整的な機能を果たす能力と看護研究の基礎能力を修得している。

(4) 変化する社会の中で看護の役割を展望し、発展させ、地域的・国際的な視野で貢献できる能力を修得している。

教育課程編成実施方針（カリキュラム・ポリシー）

看護職として必要な豊かな人間性と倫理観を育成し、看護学を学ぶために必要な基盤的知識を獲得できるよう系統性を重視して、共通教育科目、専門基礎科目を 1～2 年次に集中配当するとともに、能動的な学修の充実を図るために実習科目や学域共通科目も含む専門科目、自由選択科目、資格科目で構成された教育課程に基づき、所要単位を修得することを卒業要件とする。また、すべての学生が看護師の国家試験受験資格を得られる教育内容を基本的構成とし、選択により保健師又は助産師の受験資格も得られ、養護教諭免許状や受胎調節実地指導員の認定資格の取得にも配慮した教育課程を編成する。

(1) 幅広い教養を身につけ、行動できる豊かな人間性を養うため、共通教育科目（導入科目では他学類生とともに学ぶ初年次ゼミナール、教養科目では人文社会科学系、自然科学・複合領域系、教養展開の各科目、基盤科目では健康・スポーツ科学、外国語、情報基礎の各科目）を 1～2 年次に配当する。

(2) 看護に必要な知識と技術を修得し、適切な判断と問題解決能力や社会の変化や医療技術の発展に対応できる能力を育成するため、「解剖生理学」、「疫学」、「保健統計学」をはじめとした専門基礎科目や、「基礎看護学」、「療養支援看護学」、「生活支援看護学」、「家族支援看護学」、「看護の統合と実践」の各領域で構成された専門科目を提供する。

(3) 多職種と連携しつつ、多面的に看護の実践と調整的な機能を果たす能力を育成するため、専門基礎における医療・保健基礎科目では、「医療と社会福祉学」「カウンセリング論」等を提供する。専門科目では、学類の枠を越えた科目選択を可能とした学域共通科目を設け、4科目を必須科目として配当するとともに、「基礎看護学」、「療養支援看護学」、「生活支援看護学」、「家族支援看護学」の各領域で構成された専門科目や「総合実習」を提供する。また、看護研究の基礎能力を育成するため、「研究方法論」、「総合研究」を必修科目として提供する。

(4) 看護の役割を発展させ、地域的・国際的な視野で貢献できる能力を育成するため、共通教育科目（基盤科目である外国語、情報基礎の各科目）を、専門基礎科目である「疫学」、「保健統計学」等を必修科目として提供する。専門科目では、「看護管理学」、「看護教育学」、「総合実習」等を必修科目として、「国際保健」、「災害支援看護論」を選択科目として提供する。

＊2020年4月入学者から助産師養成のカリキュラムを廃止しました。

(2016年10月1日 改正)

資料5－1－1－2 看護学類 卒業要件 授業科目一覧

卒業要件単位	科目	必修	選択	計
	共通教育科目	18	10	28
	専門基礎科目	21	0	21
	専門科目	73	2	75
	自由選択 ※(注1)	4	0	4
	計	116	12	128

授業科目 区分	授業科目名	単位 必修	単位 選択	授業時間 講義	授業時間 演習	授業時間 実習	卒業要件 必要単位	卒業要件
共通教育科目	基盤科目						28単位以上(必修科目18単位＋選択科目10単位以上)	羽曳野キャンパスで開講
	・外国語科目(英語)							
	Academic English IA	2			30			
	Academic English IB	2			30			
	Academic English IIA	2			30			
	Academic English IIB	2			30			
	Academic English III	2			30			
	Academic English IV	2			30			
	教養科目							
	憲法	2		30				
	(1年次中百舌鳥開講科目・水曜日、木曜日分)							
	導入科目							
	初年次ゼミナール ※(注2)	2			30			
	基盤科目							中百舌鳥キャンパスで水曜日と木曜日に開講される科目
	・健康・スポーツ科学科目							
	健康・スポーツ科学概論		2	30				
	健康・スポーツ科学演習Ⅰ		2		30			
	健康・スポーツ科学演習Ⅱ		2		30			
	・外国語科目(初修外国語)							
	ドイツ語入門Ⅰ		2		30			
	ドイツ語入門Ⅱ		2		30			
	フランス語入門Ⅰ		2		30			
	フランス語入門Ⅱ		2		30			
	中国語入門Ⅰ		2		30			
	中国語入門Ⅱ		2		30			
	朝鮮語入門Ⅰ		2		30			
	朝鮮語入門Ⅱ		2		30			
	・情報基礎科目							
	情報基礎(情報社会と情報倫理を含む)	2		30				
教育科目	教養科目							
	別冊(授業科目ガイド)参照							

授業科目 区分	領域	授業科目名	単位 必修	単位 選択	授業時間 講義	授業時間 演習	授業時間 実習	卒業要件 必要単位	卒業要件
専門基礎科目	医療・保健基礎科目	解剖生理学A	2		30			必修科目21単位	
		解剖生理学B	2			60			
		生化学A	1		15				
		病理学	1			30			
		疾病・治療論A	1			30			
		疾病・治療論B	1			30			
		疾病・治療論C	1			30			
		疾病・治療論D	1			30			
		医療遺伝学	1		15				
		微生物学概論	1			30			
		薬理学	1			30			
		公衆衛生学A	1		15				
		栄養学総論	1		15				
		疫学	2		30				
		保健統計学	2		30				
		医療と社会福祉学	1		15				
		カウンセリング論	1		15				
専門科目	学域共通科目	生命倫理学	2		30			75単位以上(必修科目73単位＋選択科目2単位以上)	
		人間支援科学論	1		15				
		コラボレーション論	2		30				
		コミュニケーション論	1		15				
		ケアリング論		2	30				
	基礎看護学	看護学概論	2		30				
		基礎看護技術学Ⅰ	1		15				
		基礎看護技術学Ⅱ	2			60			
		基礎看護技術学Ⅲ	2			60			
		看護過程展開論	1			30			
		看護管理学	1		15				
		看護教育学	1		15				
		基礎看護学実習Ⅰ	1				45		
		基礎看護学実習Ⅱ	2				90		
	療養支援看護学	療養支援看護学概論	2		30				
		病態看護論	2			60			
		療養支援論:急性Ⅰ	1		15				
		療養支援論:急性Ⅱ	1			30			
		療養支援論:慢性Ⅰ	1		15				
		療養支援論:慢性Ⅱ	1			30			
		療養支援論:がん	1		15				
		療養支援論:感染	1			30			
		療養支援看護学実習:急性	3				135		
		療養支援看護学実習:慢性	3				135		
	生活支援看護学	生活支援看護学概論:老年	1		15				
		生活支援看護学概論:在宅	1		15				
		生活支援看護学概論:精神	1		15				
		生活支援論:老年Ⅰ	1		15				
		生活支援論:老年Ⅱ	1			30			
		生活支援論:在宅Ⅰ	1		15				
		生活支援論:在宅Ⅱ	1			30			
		生活支援論:精神Ⅰ	1		15				
		生活支援論:精神Ⅱ	1			30			
		生活支援看護学実習:老年	3				135		
		生活援助実習	1				45		
		生活支援看護学実習:在宅	2				90		
		生活支援看護学実習:精神	2				90		
		公衆衛生看護学概論	2		30				
		公衆衛生看護学Ⅰ	2		30				
	保健師科目	公衆衛生看護学Ⅱ		2		60		保健師科目を除く	
		公衆衛生看護学Ⅲ		2		60			
		保健医療福祉行政論		2	30				
		公衆衛生看護学実習		5			225		
	家族支援看護学	家族支援看護学概論:母性	1		15				
		家族支援看護学概論:小児	1		15				
		家族看護論	2		30				
		家族支援論:母性Ⅰ	1		15				
		家族支援論:母性Ⅱ	1			30			
		家族支援論:小児Ⅰ	1		15				
		家族支援論:小児Ⅱ	1			30			
		家族支援看護学実習:母性	2				90		
		家族支援看護学実習:小児	2				90		
	看護の統合と実践	研究方法論	1		15				
		総合研究	2				90		
		国際保健		1	15				
		災害支援看護論		1	15				
		セクシュアリティと看護		1	15				
		看護援助論		1	15				
		総合実習	2				90		

(注1)※自由選択枠:共通教育科目の所要単位を超えて修得した単位並びに他学類又は他学域が解説する専門科目のうち自由選択枠として別に定める科目
(注2)※2年次編入生は選択科目とする

資料5－1－1－2　看護学類 卒業要件 授業科目一覧

	科　　目	必 修	選 択	計
卒業要件単位	共通教育科目	18	10	28
	専門基礎科目	21	0	21
	専門科目	73	2	75
	自由選択枠　※(注1)	4	0	4
	計	116	12	128

区分	授業科目名	単位 必修	単位 選択	授業時間数 講義	授業時間数 演習	授業時間数 実習	卒業要件 必修単位	卒業要件
共通教育科目	基盤科目						28単位以上（必修科目18単位＋選択科目　単位以上）	羽曳野キャンパスで開講
	・外国語科目(英語)							
	Academic English ⅠA	2			30			
	Academic English ⅠB	2			30			
	Academic English ⅡA	2			30			
	Academic English ⅡB	2			30			
	Academic English Ⅲ	2			30			
	Academic English Ⅳ	2			30			
	教養科目							
	憲法	2		30				
	（1年次中百舌鳥開講科目・木曜日、木曜日分）							
	導入科目							
	初年次ゼミナール　※(注2)	2			30			
	基盤科目							
	・健康・スポーツ科学科目							
	健康・スポーツ科学概論		2	30				
	健康・スポーツ科学演習Ⅰ		2		30			
	健康・スポーツ科学演習Ⅱ		2		30			
	・外国語科目（初修外国語）							
	ドイツ語入門Ⅰ		2		30			
	ドイツ語入門Ⅱ		2		30			
	フランス語入門Ⅰ		2		30			
	フランス語入門Ⅱ		2		30			
	中国語入門Ⅰ		2		30			
	中国語入門Ⅱ		2		30			
	朝鮮語入門Ⅰ		2		30			
	朝鮮語入門Ⅱ		2		30			
	・情報基礎科目							
	情報基礎（情報社会と情報倫理を含む）	2		30				
	教養科目							
	別冊（授業科目ガイド）参照							中百舌鳥キャンパスで水曜日と木曜日に開講される科目

区分	領域	授業科目名	単位 必修	単位 選択	授業時間数 講義	授業時間数 演習	授業時間数 実習	卒業要件 必修単位
専門基礎科目	医療・保健基礎科目	解剖生理学A	2		30			必修科目21単位
		解剖生理学B	2			60		
		生化学A	1		15			
		病理学	1			30		
		疾病・治療論A	1			30		
		疾病・治療論B	1			30		
		疾病・治療論B	1			30		
		疾病・治療論B	1			30		
		疾病・治療論B	1		15			
		疾病・治療論B	1			30		
		疾病・治療論B	1			30		
		疾病・治療論B	1		15			
		疾病・治療論B	1		15			
		疾病・治療論B	2		30			
		疾病・治療論B	2		30			
		疾病・治療論B	1		15			
		疾病・治療論B	1		15			
専門科目	学域共通科目	疾病・治療論B	2		30			75単位以上（必修科目73単位＋選択科目2単位以上）　保健師科目・助産師科目を除く
		疾病・治療論B	1		15			
		疾病・治療論B	2		30			
		疾病・治療論B	1		15			
		疾病・治療論B		2	30			
	基礎看護学	看護学概論	2		30			
		基礎看護技術学Ⅰ	1		15			
		基礎看護技術学Ⅱ	2			60		
		基礎看護技術学Ⅲ	2			60		
		看護過程展開論	1			30		
		看護管理学	1		15			
		看護教育学	1		15			
		基礎看護学実習Ⅰ	1				45	
		基礎看護学実習Ⅱ	2				90	
	療養支援看護学	療養支援看護学概論	2		30			
		病態看護論	2			60		
		療養支援論：急性Ⅰ	1		15			
		療養支援論：急性Ⅱ	1			30		
		療養支援論：慢性Ⅰ	1		15			
		療養支援論：慢性Ⅱ	1			30		
		療養支援論：がん	1		15			
		療養支援論：感染	1			30		
		療養支援看護学実習：急性	3				135	
		療養支援看護学実習：慢性	3				135	
	生活支援看護学	生活支援看護学概論：老年	1		15			
		生活支援看護学概論：在宅	1		15			
		生活支援看護学概論：精神	1		15			
		生活支援論：老年Ⅰ	1		15			
		生活支援論：老年Ⅱ	1			30		
		生活支援論：在宅Ⅰ	1		15			
		生活支援論：在宅Ⅱ	1			30		
		生活支援論：精神Ⅰ	1		15			
		生活支援論：精神Ⅱ	1			30		
		生活支援看護学実習：老年	3				135	
		生活援助実習	1				45	
		生活支援看護学実習：在宅	2				90	
		生活支援看護学実習：精神	2				90	
		公衆衛生看護学概論	2		30			
		公衆衛生看護学Ⅰ	2		30			
	保健師科目	公衆衛生看護学Ⅱ		2		60		
	健師科目	公衆衛生看護学Ⅲ		2		60		
	師科目	保健医療福祉行政論		2	30			
		公衆衛生看護学実習		5			225	
	家族支援看護学	家族支援看護学概論：母性	1		15			
		家族支援看護学概論：小児	1		15			
		家族看護論	2		30			
		家族支援論：母性Ⅰ	1		15			
		家族支援論：母性Ⅱ	1			30		
		家族支援論：小児Ⅰ	1		15			
		家族支援論：小児Ⅱ	1			30		
		家族支援看護学実習：母性	2				90	
		家族支援看護学実習：小児	2				90	
	助産師科目	基礎助産学		1	15			
		助産診断技術学Ⅰ		1		30		
		助産診断技術学Ⅱ		4		120		
		助産管理		1	15			
		助産学実習		10			450	
	看護の統合と実践	研究方法論	1		15			
		総合研究	2				90	
		国際保健		1	15			
		災害支援看護論		1	15			
		セクシュアリティと看護		1	15			
		看護援助論		1	15			
		総合実習	2				90	

（注１）※自由選択枠：共通教育科目の所要単位を超えて修得した単位並びに他学類又は他学域が開設する専門科目のうち自由選択枠として別に定める科目。

（注２）※２年次編入生は選択科目とする。

２）大学院課程

看護学研究科では、大阪府立大学大学院看護学研究科規程（規程第276号第3条）に基づき、専攻領域及び分野を定めている。また、2015年度より全学的な取り組みとして「大阪府立大学の学術研究に係る行動規範」が制定された。(https://www.osakafu-u.ac.jp/osakafu-content/uploads/sites/428/1_koudoukihan_20190301.pdf)

それに伴い、看護学研究科では博士前期課程の「教育目的」「教育目標」「学位授与方針（ディプロマ・ポリシー)」「教育課程編成･実施方針（カリキュラム・ポリシー)」に高い倫理観を涵養する内容を追加した。

看護学研究科の教育理念・目的・目標・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）・教育課程編成実施方針（カリキュラム・ポリシー）を資料5-1-2-1に示す。

資料5-1-2-1　看護学研究科の教育理念・教育目的・教育目標・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）・教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

<table>
<tr><td colspan="2">看護学研究科教育理念
生命と人権の尊重を基盤とし、保健・医療・福祉及び社会の諸変化に対してクオリティ・オブ・ライフ（QOL）を志向した創造的・実践的な対応ができる専門的知識と技術をもった人材を育成し、看護学の発展と人々の健康に寄与する。</td></tr>
<tr><td>博士前期課程教育目的
人間の存在と生命の尊厳について深く理解し、広い視野に立って精深なる学識を修め、高い倫理観をもち専門分野における教育研究能力、あるいは高度に専門的な実践能力を有する人材を育成する。</td><td>博士後期課程教育目的
豊かな学識を有し、看護学分野において学術研究を推進しその深奥を究め、高い倫理観をもって自立して研究活動を行うことができる能力を有する人材を育成する。</td></tr>
<tr><td>博士前期課程教育目標
⑴　専攻する看護専門領域に関連する理論に精通し、看護活動に適用する。
⑵　専攻する専門領域の看護実践の質の向上を目指して、専門性の高い看護ケアを提供し、改革を推進する。
⑶　高い倫理観をもち、複雑な倫理的問題を判断し調整する。
⑷　看護に関する研究業績をクリティカルに検討し、看護ケアに積極的に活用する。
⑸　看護教育並びに看護実践の向上のために、相談・教育・調整機能を高める。
⑹　専攻する看護専門領域に関する研究課題に取り組み、看護研究能力を高める。
⑺　看護実践・研究・教育を通して国際交流に貢献する。</td><td>博士後期課程教育目標
⑴　看護実践の改革を目指し、専門性の高い看護ケアを開発する。
⑵　理論や看護援助方法の妥当性を科学的に検証する。
⑶　優れた看護実践、関連領域の知識･研究を用いて、高い倫理観をもって研究活動を行い、看護学の発展に寄与する。
⑷　教育、医療、研究、行政関連機関において、社会の変革に対応できる指導的･管理的リーダーシップを発揮する。
⑸　都道府県や国家レベルの政策開発や意思決定に参画する。
⑹　学際的、国際的な視野に立ち、学術交流、研究活動、保健医療活動に貢献する。</td></tr>
</table>

博士前期課程学位授与方針 （ディプロマ・ポリシー） ⑴ 専攻する看護専門領域に関連する理論に精通し、看護活動に適用する能力を修得するとともに、看護に関する研究業績をクリティカルに検討し、看護ケアに積極的に活用できる能力を修得している。 ⑵ 専攻する専門領域の看護実践の質の向上を目指して、専門性の高い看護ケアを提供し、改革を推進できる能力を修得している。 ⑶ 高い倫理観をもち、複雑な倫理的問題を判断し調整できる能力を修得している。 ⑷ 看護教育並びに看護実践の向上のために、相談・教育・調整機能を高めることができる能力を修得している。 ⑸ 専攻する看護専門領域に関する研究課題に取り組み、看護研究能力を修得している。 ⑹ 看護実践・研究・教育を通して国際交流に貢献できる能力を修得している。	博士後期課程学位授与方針 （ディプロマ・ポリシー） ⑴ 看護実践を改革し、専門性の高い看護ケアを開発できる能力を修得している。 ⑵ 理論や専門援助方法の妥当性を科学的に検証できる能力を修得している。 ⑶ 優れた看護実践、関連領域の知識・研究を用いて、高い倫理観をもって研究活動を行い、看護学の発展に寄与できる能力を修得している。 ⑷ 教育・医療・研究・行政関連機関において、社会の変革に対応できる指導的・管理的リーダーシップを発揮できる能力を修得している。 ⑸ 都道府県や国家レベルの政策開発や意思決定に参画できる能力を修得している。 ⑹ 学際的、国際的視野に立ち、学術交流、研究活動、保健医療活動に貢献できる能力を修得している。
博士前期課程教育課程編成・実施方針 （カリキュラム・ポリシー） 専門分野における教育研究能力や高度に専門的な実践能力を有する人材を育成するため、共通教育、基盤教育、専門教育で構成された教育課程を編成する。修士論文コースとCNS（専門看護師）コースの選択により、1年次では共通教育科目及び基盤教育科目及び専攻した分野の「特論」、「演習」を、2年次の修士論文コースでは「特別研究」を、CNSコースでは「実習」、「課題研究」を各々配当し、修士論文（CNSコースは課題研究）の審査を経て、最終試験の合格を修了要件とする。 ⑴ 看護専門領域の理論に精通した看護活動に適用する能力及び研究の批判的吟味により質の高い看護ケアが実践できる能力を育成するため、基盤教育において「理論看護学」、「看護学研究法」を、専門教育において「人・環境支援看護学」、「家族支援看護学」、「生活支援看護学」、「療養支援看護学」の4領域で構成された専門科目を提供する。また、修士論	博士後期課程教育課程編成・実施方針 （カリキュラム・ポリシー） 専門領域を生活支援看護学・療養支援看護学の2領域とし、生活支援看護学領域には6分野、療養支援看護学領域には4分野を設け、共通教育、基盤教育、専門教育で構成された教育課程を編成する。1年次には「看護学研究方法論」、専攻分野の「特論」、「演習」を、2年次から3年次前期には専攻領域の「特別研究」を配当し、学際的視野を持ち、自立して研究活動が行えることを目標に、論文指導を行い、博士論文の審査を経て最終試験の合格を修了要件とする。 ⑴ 看護実践を改革し、専門性の高い看護ケアを開発できる能力を育成するため、1年次前期は基盤教育において「看護学研究方法論」を必修科目、専門教育で専攻分野の「特論」、1年次後期には専門教育で「演習」を各々配当する。2年次前期から3年次前期に専門教育で専攻領域の「特別研究」を配当し、2年次前期での研究計画書の審査を経て、3年次後

文コースでは2年次に「特別研究」、CNS コースでは2年次に「課題研究」を配当する。 ⑵ 専門性の高い看護ケアを提供し、改革を推進できる能力を育成するため、専門教育において専攻した分野の「特別研究」又は「課題研究」を必修科目、「看護管理学特論」等を選択科目とするとともに、「人・環境支援看護学」、「家族支援看護学」、「生活支援看護学」、「療養支援看護学」の4領域で構成された専門科目を提供する。 ⑶ 高い倫理観をもち、複雑な倫理的問題を判断し調整できる能力を育成するため、1年次前期において、共通教育において「研究公正」を必修科目として、基盤教育において「看護倫理学」を選択科目として配当するとともに、「人・環境支援看護学」、「家族支援看護学」、「生活支援看護学」、「療養支援看護学」の4領域で構成された専門科目を提供する。 ⑷ 看護教育・看護実践の向上に資する相談・教育・調整機能を高める能力を育成するため、基盤教育において「コンサルテーション論」等を選択科目、専門教育において、「看護教育学特論」等を選択科目として提供とするとともに、「人・環境支援看護学」、「家族支援看護学」、「生活支援看護学」、「療養支援看護学」、の4領域で構成された「特論」「演習」「実習」科目を提供する。 ⑸ 専攻する看護専門領域に関する研究課題に取り組み、看護研究能力を育成するため、基盤教育において「理論看護学」、「看護学研究法」を必修科目、「調査研究処理法」等を選択科目として提供するとともに、修士論文コースでは、2年次に「特別研究」、CNS コースでは、2年次に「課題研究」を配当する。 ⑹ 看護実践・研究・教育を通して国際交流に貢献する能力を育成するため、基盤教育において「理論看護学」、「看護学研究法」を必修科目とするとともに、「異文化看護フィールドワーク」を選択科目として提供する。	期に博士論文審査委員会による最終審査を行う。 ⑵ 理論や専門援助方法の妥当性を科学的に検証できる能力を育成するため、専門教育として、1年次前期は専攻分野の「特論」、1年次後期には「演習」を、2年次前期から3年次前期には専攻領域の「特別研究」を配当する。2年次前期での研究計画書の審査、論文作成に必要なデータ収集・分析への指導助言を経て、3年次後期に博士論文審査委員会による最終審査を行う。 ⑶ 高い倫理観をもって研究活動を行い看護学の発展に寄与できる能力を育成するため、1年次前期に、共通教育として「研究公正」を必修科目とし、基盤教育において「看護学研究方法論」を必修科目、1年次後期に「看護学研究方法論演習」を選択科目として配当する。2年次前期から3年次前期には専門教育として専攻領域の「特別研究」を配当し、2年次前期での研究計画書の審査を経て、3年次後期に博士論文審査委員会による最終審査を行う。 ⑷ 社会の変革に対応したリーダーシップを発揮できる能力を育成するため、1年次前期は基盤教育で「看護学研究方法論」を必修科目、専門教育で専攻分野の「特論」、1年次後期には「演習」、2年次前期から3年次前期には専門教育で専攻領域の「特別研究」を配当し、指導的・管理的リーダーシップの資質を養う。 ⑸ 都道府県や国家レベルの政策開発や意思決定に参画できる能力を育成するため、専門教育では1年次前期に専攻分野の「特論」、1年次後期には「演習」、2年次前期から3年次前期には専攻領域の「特別研究」を配当し、専攻分野における行政課題の理解を深める。 ⑹ 学際的、国際的視野に立ち、学術交流、研究活動、保健医療活動に貢献できる能力を育成するため、専門教育では1年次前期に専攻分野の「特論」、1年次後期には「演習」、2年次前期から3年次前期には専攻領域の「特別研究」を配当し、国内外の研究に精通する。

(2016年10月1日改正)

博士前期課程は、人間の存在と生命の尊厳について深く理解し、広い視野に立って精深なる学識を修め、高い倫理観をもち専門分野における教育研究能力、あるいは高度に専門的な実践能力を有する人材を育成することを目的とし、「人・環境支援看護学」「家族支援看護学」「生活支援看護学」「療養支援看護学」の4つの専門領域に修士論文コース15分野、「家族支援看護学」「生活支援看護学」「療養支援看護学」の3つの専門領域に10分野の専門看護師（CNS）コースを設置している。（ただし母性看護CNSコースは2020年度入学生より募集停止）

CNSコースは、2012年度に「感染看護」「がん看護」「クリティカルケア看護」「小児看護」「慢性看護」が、2013年度に「精神看護」が、2015年度に「在宅看護」が、2016年度に「家族看護」が、2018年度に「老年看護」が38単位に認定された。さらに、職業を有している等の事情により、標準修学年限（博士前期課程2年）の大学院の教育課程の履修が困難な学生を対象に、標準修業年限を超えて計画的に教育課程を履修できる長期履修制度を設置している。教育課程の編成は、2016年度より新たに設置された研究に関する倫理観や教養を深めるための「共通教育科目」と教育研究能力を修める「基盤教育科目」、専門的な実践能力を習得する「専門教育科目」からなる（資料5-1-2-2)。「共通教育科目」は「研究公正A」の必修科目、「Academic Writing A」等の選択科目、「基盤教育科目」は、「理論看護学」「看護学研究法」の必修科目、「調査研究処理法Ⅰ・Ⅱ」「医療社会福祉学」等の選択科目、「専門教育科目」は専攻分野毎の特論・演習・実習・研究で構成している。なお、2016年度からは「基盤教育科目」として国際交流を推進させる目的で、新たに「異文化看護フィールドワーク」を開講し、経済学研究科の科目である「経済学特論ⅠA」「経済学特論ⅠB」「経済学特論ⅡB」のうち2単位を履修することができるように配置した。

さらに2018年度からは「異文化看護フィールドワークA」「異文化看護フィールドワークB」と国際交流に関する科目を増やし充実を図った。

博士後期課程は、豊かな学識を有し、看護学分野において学術研究を推進しその深奥を究め、自立して研究活動を行うことができる能力を有する人材を育成することを目的とし、「生活支援看護学」「療養支援看護学」の2つの専門領域を設置している。教育課程の編成は、「共通教育科目」と「基盤教育科目」、「専門教育科目」からなり（資料5-1-2-3)、「共通教育科目」は「研究公正B」の必修科目、「イノベーション創出型研究者養成Ⅰ～Ⅳ」等の選択科目、「基盤教育科目」は「看護学研究方法論」の必修科目、「生体科学研究方法論」「健康科学研究方法論Ⅰ・Ⅱ」「看護理論開発方法論」等の選択科目、「専門教育科目」は専攻領域ごとの特論・演習・研究で構成している。

資料 5-1-2-2　看護学研究科　博士前期課程　標準履修課程表　　(2020 年度入学生用)

区分	領域	分野	授業科目	修論コース 単位数 必修	修論コース 単位数 選択	CNSコース 単位数 必修	CNSコース 単位数 選択	授業時間数 講義	授業時間数 演習	授業時間数 実習	学年進行 1年次 前期	学年進行 1年次 後期	学年進行 2年次 前期	学年進行 2年次 後期
共通教育			研究公正Ａ	1		1			15		○			
			Academic Writing Ａ(な)		2		2	30						
			国際環境学特論(な)		2		2	30						
			国際環境活動特別演習(な)		2		2		30					
			環境コミュニケーション特論(な)		2		2	30						
			イノベーション創出型研究者養成（継）		2		2	30						
基盤教育			理論看護学	2		2		30			○			
			看護学研究法	2		2		30			○			
			看護倫理学		2		2	30			○			
			看護政策学		1		1	15				○		
			コンサルテーション論		1		1	15				○		
			病態生理学		2		2	30				○		
			代謝病態生理学		2		2	30			○			
			がん病態学		2		2	30			○			
			臨床薬理学		2		2	30				○		
			臨床疾病治療論		2		2	30			○			
			フィジカルアセスメントⅠ		2		2		30		○			
			フィジカルアセスメントⅡ		2		2		30			○		
			調査研究処理法Ⅰ		2		2	30			○			
			調査研究処理法Ⅱ		2		2	30			○			
			医療社会福祉学		2		2	30			○			
			臨床生理心理学		2		2	30				○		
			生体情報論		2		2	30			○			
			生体感染防御論		2		2	30			○			
			臨床遺伝学		2		2	30				○		
			◇異文化看護フィールドワークA		2		2		30		○	○		
			◇異文化看護フィールドワークB		1		1		15		○	○		
			*新「共通特論Ⅰ」：臨床腫瘍学総論				2	30			○			
			*新「共通特論Ⅱ」：臨床腫瘍学各論				2	30				○		
			◆経営学特論１Ａ		2		2	30			○			
			◆経営学特論１Ｂ		2		2	30				○		
			◆経営学特論２Ｂ		2		2	30				○		
専門教育	人・環境支援看護学	看護技術学	看護技術学特論Ⅰ		2			30			○			
			看護技術学特論Ⅱ		2			30				○		
			看護技術学演習Ⅰ		2				60		○			
			看護技術学演習Ⅱ		2				60			○		
			看護技術学特別研究	6						180			○	○
		看護情報学	看護情報学特論Ⅰ		2			30			○			
			看護情報学特論Ⅱ		2			30				○		
			看護情報学演習Ⅰ		2				60		○			
			看護情報学演習Ⅱ		2				60			○		
			看護情報学特別研究	6						180			○	○
		看護管理学	看護管理学特論Ⅰ		2		2	30			○			
			看護管理学特論Ⅱ		2			30				○		
			看護管理学演習Ⅰ		2				60		○			
			看護管理学演習Ⅱ		2				60			○		
			看護管理学特別研究	6						180			○	○
		看護教育学	看護教育学特論Ⅰ		2			30			○			
			看護教育学特論Ⅱ		2		2	30				○		
			看護教育学演習Ⅰ		2				60		○			
			看護教育学演習Ⅱ		2				60			○		
			看護教育学特別研究	6						180			○	○

開講時期は時間割を参照

区分	領域	分野	授業科目	修論コース 単位数 必修	修論コース 単位数 選択	CNSコース 単位数 必修	CNSコース 単位数 選択	授業時間数 講義	授業時間数 演習	授業時間数 実習	学年進行 1年次 前期	学年進行 1年次 後期	学年進行 2年次 前期	学年進行 2年次 後期
専門教育	家族支援看護学	母性看護学	母性看護学特論		2		2	30			○			
			母性看護学援助特論		2		2	30				○		
			周産期看護演習ⅠA		2				60		○			
			周産期看護演習ⅡA		2				60			○		
			母性看護学特別研究	6						180			○	○
		家族看護学	家族看護学		2		2	30			○			
			家族看護学特論		2		2	30			○			
			家族看護学援助特論Ⅰ		2		2	30				○		
			家族看護学援助特論Ⅱ		2		2	30				○		
			家族看護学援助特論Ⅲ		2		2	30				○		
			家族看護学演習ⅠA		2				60		○			
			家族看護学演習ⅠB				2		60		○			
			家族看護学演習ⅡA		2				60			○		
			家族看護学演習ⅡB				2		60			○		
			家族看護学実習Ⅰ				2			90		○		
			家族看護学実習Ⅱ			※(6)	6			270			○	○
			家族看護学実習Ⅲ				2			90			○	○
			家族看護学課題研究			2				60			○	○
			家族看護学特別研究	6						180			○	○
		小児看護学	小児看護学特論		2		2	30			○			
			小児看護学援助特論Ⅰ		2		2	30			○			
			小児看護学援助特論Ⅱ				2	30				○		
			小児看護学援助特論Ⅲ		2		2	30				○		
			小児看護学演習ⅠA		2				60		○			
			小児看護学演習ⅠB				2		60		○			
			小児看護学演習ⅡA		2				60			○		
			小児看護学演習ⅡB				2		60			○		
			小児看護学実習Ⅰ			※(6)	2			90			○	○
			小児看護学実習Ⅱ				8			360			○	○
			小児看護学課題研究			2				60			○	○
			小児看護学特別研究	6						180			○	○
	生活支援看護学	地域看護学	地域看護学特論		2		2	30			○			
			地域看護学援助特論		2		2	30				○		
			地域看護学演習ⅠA		2				60		○			
			地域看護学演習ⅠB				2		60		○			
			地域看護学演習ⅡA		2				60			○		
			地域看護学演習ⅡB				2		60			○		
			地域看護学演習Ⅲ				1		30				○	
			地域看護学実習			※(6)	6			270			○	○
			地域看護学課題研究			2				60			○	○
			地域看護学特別研究	6						180			○	○
		精神看護学	精神看護学特論Ⅰ		2		2	30			○			
			精神看護学特論Ⅱ				2	30				○		
			精神看護学援助特論Ⅰ		2		2	30			○			
			精神看護学援助特論Ⅱ		2		2	30				○		
			精神看護学援助特論Ⅲ				2	30				○		
			精神看護学援助特論Ⅳ				2	30				○		
			精神看護学演習ⅠA		2				60		○			
			精神看護学演習ⅠB				2		60		○			
			精神看護学演習ⅡA		2				60			○		
			精神看護学演習ⅡB				2		60			○		
			精神看護学実習Ⅰ			※(6)	6			270			○	○
			精神看護学実習Ⅱ				4			180			○	○
			精神看護学課題研究			2				60			○	○
			精神看護学特別研究	6						180			○	○
		老年看護学	老年看護学特論		2		2	30			○			
			老年看護学援助特論Ⅰ				2	30			○			
			老年看護学援助特論Ⅱ		2		2	30				○		
			老年看護学援助特論Ⅲ		2		2	30				○		
			老年看護学演習ⅠA		2				60		○			
			老年看護学演習ⅠB				2		60		○			
			老年看護学演習ⅡA		2				60			○		
			老年看護学演習ⅡB				2		60			○		
			老年看護学実習Ⅰ				2			90				
			老年看護学実習Ⅱ			※(6)	4			180			○	○
			老年看護学実習Ⅲ				4			180			○	○
			老年看護学課題研究			2				60			○	○
			老年看護学特別研究	6						180			○	○

区分	領域	分野	授業科目	修論コース 単位数 必修	修論コース 単位数 選択	CNSコース 単位数 必修	CNSコース 単位数 選択	授業時間数 講義	授業時間数 演習	授業時間数 実習	学年進行 1年次 前期	学年進行 1年次 後期	学年進行 2年次 前期	学年進行 2年次 後期
専門教育	生活支援看護学	在宅看護学	在宅看護学特論		2		2	30			○			
			在宅看護学援助特論Ⅰ		2		2	30				○		
			在宅看護学援助特論Ⅱ		2		2	30				○		
			在宅看護学援助特論Ⅲ		2		2	30			○			
			在宅看護学演習ⅠA		2				60		○			
			在宅看護学演習ⅠB				2		60		○			
			在宅看護学演習ⅡA		2				60			○		
			在宅看護学演習ⅡB				2		60			○		
			在宅看護学実習Ⅰ			※(6)	6			270			○	○
			在宅看護学実習Ⅱ				4			180			○	○
			在宅看護学課題研究			2				60			○	○
			在宅看護学特別研究	6						180			○	○
	療養支援看護学	急性看護学	急性看護学特論		2		2	30			○			
			急性看護学援助特論Ⅰ				2	30			○			
			急性看護学援助特論Ⅱ		2		2	30				○		
			急性看護学演習ⅠA		2				60		○			
			急性看護学演習ⅠB				2		60		○			
			急性看護学演習ⅡA		2				60			○		
			急性看護学演習ⅡB				2		60			○		
			急性看護学実習Ⅰ			※(6)	6			270			○	○
			急性看護学実習Ⅱ				4			180			○	○
			急性看護学課題研究			2				60			○	○
			急性看護学特別研究	6						180			○	○
		慢性看護学	慢性看護学特論		2		2	30			○			
			慢性看護学援助特論Ⅰ		2		2	30				○		
			慢性看護学援助特論Ⅱ				2	30				○		
			慢性看護学演習ⅠA		2				60		○			
			慢性看護学演習ⅠB				2		60		○			
			慢性看護学演習ⅡA		2				60			○		
			慢性看護学演習ⅡB				2		60			○		
			慢性看護学実習Ⅰ				6			270			○	○
			慢性看護学実習Ⅱ			※(6)	2			90			○	○
			慢性看護学実習Ⅲ				2			90			○	○
			慢性看護学課題研究			2				60			○	○
			慢性看護学特別研究	6						180			○	○
		がん看護学	がん看護学特論		2		2	30			○			
			がん看護学援助特論		2		2	30				○		
			がん緩和ケア論				2	30			○			
			がん薬物療法看護論				2	30				○		
			がん看護学演習ⅠA		2				60		○			
			がん看護学演習ⅠB				2		60		○			
			がん看護学演習ⅡA		2				60			○		
			がん看護学演習ⅡB				2		60			○		
			□多職種参加型症例検討演習				1		15				○	
			*模擬患者による多職種参加型個別化医療課題演習				1		15		○			
			がん看護学実習Ⅰ				6			270			○	○
			がん看護学実習Ⅱ			※(6)	2			90			○	○
			がん看護学実習Ⅲ				2			90			○	○
			がん看護学課題研究			2				60			○	○
			がん看護学特別研究	6						180			○	○
		感染看護学	感染看護学特論		2		2	30			○			
			感染看護学援助特論		2		2	30				○		
			感染看護疫学論		2		2	30				○		
			臨床感染看護論				2	30				○		
			感染看護学演習ⅠA		2				60		○			
			感染看護学演習ⅠB				2		60		○			
			感染看護学演習ⅡA		2				60			○		
			感染看護学演習ⅡB				2		60			○		
			感染看護学実習Ⅰ			※(6)	6			270			○	○
			感染看護学実習Ⅱ				4			180			○	○
			感染看護学課題研究			2				60			○	○
			感染看護学特別研究	6						180			○	○

「◇」付き科目の詳細は別途通知する。また、異文化看護フィールドワークAの定員は4名とする。
「*」付き科目については、『がん医療に強い専門看護師養成コース』の学生は受講できる。
「□」付き科目については、がん看護学分野ＣＮＳコース以外の者は受講を申請することができない。
※(6)は当該分野CNSコースの実習科目のうち、本学の修了要件の必修単位数が6単位以上であることを表す。
（な）は、中百舌鳥キャンパスで開講を表す。
（継）は、中百舌鳥キャンパス開講授業で中継講義を表す。
　　ただし、グループワーク等授業の内容により中百舌鳥キャンパスで受講となる場合がある。
◆本学大学院経済学研究科の科目は、2単位まで修了要件に必要な単位として履修することができる。

資料 5-1-2-2　看護学研究科　博士前期課程　標準履修課程表　　(2019 年度入学生用)

区分	領域	分野	授業科目	修論ｺｰｽ 単位数 必修	修論ｺｰｽ 単位数 選択	CNSｺｰｽ 単位数 必修	CNSｺｰｽ 単位数 選択	授業時間数 講義	授業時間数 演習	授業時間数 実習	学年進行 1年次 前期	学年進行 1年次 後期	学年進行 2年次 前期	学年進行 2年次 後期
共通教育			研究公正Ａ(継)	1		1			15		○			
			Academic Writing Ａ(な)		2		2	30			開講時期は時間割を参照			
			国際環境学特論(な)		2		2	30						
			国際環境活動特別演習(な)		2		2		30					
			環境コミュニケーション特論(な)		2		2	30						
			イノベーション創出型研究者養成 (継)		2		2	30						
基盤教育			理論看護学	2		2		30			○			
			看護学研究法	2		2		30			○			
			看護倫理学		2		2	30			○			
			看護政策学		1		1	15				○		
			コンサルテーション論		1		1	15				○		
			病態生理学		2		2	30				○		
			代謝病態生理学		2		2	30			○			
			がん病態学		2		2	30			○			
			臨床薬理学		2		2	30				○		
			臨床疾病治療論		2		2	30			○			
			フィジカルアセスメントⅠ		2		2		30		○			
			フィジカルアセスメントⅡ		2		2		30			○		
			調査研究処理法Ⅰ		2		2	30			○			
			調査研究処理法Ⅱ		2		2	30			○			
			医療社会福祉学		2		2	30			○			
			臨床生理心理学		2		2	30				○		
			生体情報論		2		2	30			○			
			生体感染防御論		2		2	30			○			
			臨床遺伝学		2		2	30				○		
			◇異文化看護フィールドワークA		2		2		30		○	○		
			◇異文化看護フィールドワークB		1		1		15		○	○		
			*新「共通特論Ⅰ」：臨床腫瘍学総論				2	30			○			
			*新「共通特論Ⅱ」：臨床腫瘍学各論				2	30				○		
			◆経営学特論１Ａ		2		2	30			○			
			◆経営学特論１Ｂ		2		2	30				○		
			◆経営学特論２Ｂ		2		2	30				○		
専門教育	人・環境支援看護学	看護技術学	看護技術学特論Ⅰ		2			30			○			
			看護技術学特論Ⅱ		2			30				○		
			看護技術学演習Ⅰ		2				60		○			
			看護技術学演習Ⅱ		2				60			○		
			看護技術学特別研究	6						180			○	○
		看護情報学	看護情報学特論Ⅰ		2			30			○			
			看護情報学特論Ⅱ		2			30				○		
			看護情報学演習Ⅰ		2				60		○			
			看護情報学演習Ⅱ		2				60			○		
			看護情報学特別研究	6						180			○	○
		看護管理学	看護管理学特論Ⅰ		2		2	30			○			
			看護管理学特論Ⅱ		2			30				○		
			看護管理学演習Ⅰ		2				60		○			
			看護管理学演習Ⅱ		2				60			○		
			看護管理学特別研究	6						180			○	○
		看護教育学	看護教育学特論Ⅰ		2			30			○			
			看護教育学特論Ⅱ		2		2	30				○		
			看護教育学演習Ⅰ		2				60		○			
			看護教育学演習Ⅱ		2				60			○		
			看護教育学特別研究	6						180			○	○

区分	領域	分野	授業科目	修論コース 単位数 必修	修論コース 単位数 選択	CNSコース 単位数 必修	CNSコース 単位数 選択	授業時間数 講義	授業時間数 演習	授業時間数 実習	学年進行 1年次 前期	学年進行 1年次 後期	学年進行 2年次 前期	学年進行 2年次 後期
専門教育	家族支援看護学	母性看護学	母性看護学特論		2		2	30			○			
			母性看護学援助特論		2		2	30				○		
			周産期看護演習ⅠA		2				60		○			
			周産期看護演習ⅠB				2		60		○			
			周産期看護演習ⅡA		2				60			○		
			周産期看護演習ⅡB				2		60			○		
			周産期看護実習			※(6)	6			270			○	○
			母性看護学課題研究			2				60			○	○
			母性看護学特別研究	6						180			○	○
		家族看護学	家族看護学		2		2	30			○			
			家族看護学特論		2		2	30			○			
			家族看護学援助特論Ⅰ		2		2	30				○		
			家族看護学援助特論Ⅱ		2		2	30				○		
			家族看護学援助特論Ⅲ		2		2	30				○		
			家族看護学演習ⅠA		2				60		○			
			家族看護学演習ⅠB				2		60		○			
			家族看護学演習ⅡA		2				60			○		
			家族看護学演習ⅡB				2		60			○		
			家族看護学実習Ⅰ				2			90		○		
			家族看護学実習Ⅱ			※(6)	6			270			○	○
			家族看護学実習Ⅲ				2			90			○	○
			家族看護学課題研究			2				60			○	○
			家族看護学特別研究	6						180			○	○
		小児看護学	小児看護学特論		2		2	30			○			
			小児看護学援助特論Ⅰ		2		2	30			○			
			小児看護学援助特論Ⅱ				2	30				○		
			小児看護学援助特論Ⅲ		2		2	30				○		
			小児看護学演習ⅠA		2				60		○			
			小児看護学演習ⅠB				2		60		○			
			小児看護学演習ⅡA		2				60			○		
			小児看護学演習ⅡB				2		60			○		
			小児看護学実習Ⅰ			※(6)	2			90			○	○
			小児看護学実習Ⅱ				8			360			○	○
			小児看護学課題研究			2				60			○	○
			小児看護学特別研究	6						180			○	○
	生活支援看護学	地域看護学	地域看護学特論		2		2	30			○			
			地域看護学援助特論		2		2	30				○		
			地域看護学演習ⅠA		2				60		○			
			地域看護学演習ⅠB				2		60		○			
			地域看護学演習ⅡA		2				60			○		
			地域看護学演習ⅡB				2		60			○		
			地域看護学演習Ⅲ				1		30				○	
			地域看護学実習			※(6)	6			270			○	○
			地域看護学課題研究			2				60			○	○
			地域看護学特別研究	6						180			○	○
		精神看護学	精神看護学特論Ⅰ		2		2	30			○			
			精神看護学特論Ⅱ				2	30				○		
			精神看護学援助特論Ⅰ		2		2	30			○			
			精神看護学援助特論Ⅱ		2		2	30				○		
			精神看護学援助特論Ⅲ				2	30				○		
			精神看護学援助特論Ⅳ				2	30				○		
			精神看護学演習ⅠA		2				60		○			
			精神看護学演習ⅠB				2		60		○			
			精神看護学演習ⅡA		2				60			○		
			精神看護学演習ⅡB				2		60			○		
			精神看護学実習Ⅰ			※(6)	6			270			○	○
			精神看護学実習Ⅱ				4			180			○	○
			精神看護学課題研究			2				60			○	○
			精神看護学特別研究	6						180			○	○

区分	領域	分野	授業科目	修論ｺｰｽ 単位数 必修	修論ｺｰｽ 単位数 選択	CNSｺｰｽ 単位数 必修	CNSｺｰｽ 単位数 選択	授業時間数 講義	授業時間数 演習	授業時間数 実習	学年進行 1年次 前期	学年進行 1年次 後期	学年進行 2年次 前期	学年進行 2年次 後期
専門科目	生活支援看護学	老年看護学	老年看護学特論		2		2	30			○			
			老年看護学援助特論Ⅰ				2	30			○			
			老年看護学援助特論Ⅱ		2		2	30				○		
			老年看護学援助特論Ⅲ		2		2	30				○		
			老年看護学演習ⅠA		2				60		○			
			老年看護学演習ⅠB				2		60		○			
			老年看護学演習ⅡA		2				60			○		
			老年看護学演習ⅡB				2		60			○		
			老年看護学実習Ⅰ			※(6)	2			90		○		
			老年看護学実習Ⅱ				4			180			○	○
			老年看護学実習Ⅲ				4			180			○	○
			老年看護学課題研究			2				60			○	○
			老年看護学特別研究	6						180			○	○
		在宅看護学	在宅看護学特論		2		2	30			○			
			在宅看護学援助特論Ⅰ		2		2	30				○		
			在宅看護学援助特論Ⅱ		2		2	30				○		
			在宅看護学援助特論Ⅲ		2		2	30			○			
			在宅看護学演習ⅠA		2				60		○			
			在宅看護学演習ⅠB				2		60		○			
			在宅看護学演習ⅡA		2				60			○		
			在宅看護学演習ⅡB				2		60			○		
			在宅看護学実習Ⅰ			※(6)	6			270			○	○
			在宅看護学実習Ⅱ				4			180			○	○
			在宅看護学課題研究			2				60			○	○
			在宅看護学特別研究	6						180			○	○
	療養支援看護学	急性看護学	急性看護学特論		2		2	30			○			
			急性看護学援助特論Ⅰ				2	30			○			
			急性看護学援助特論Ⅱ		2		2	30				○		
			急性看護学演習ⅠA		2				60		○			
			急性看護学演習ⅠB				2		60		○			
			急性看護学演習ⅡA		2				60			○		
			急性看護学演習ⅡB				2		60			○		
			急性看護学実習Ⅰ			※(6)	6			270			○	○
			急性看護学実習Ⅱ				4			180			○	○
			急性看護学課題研究			2				60			○	○
			急性看護学特別研究	6						180			○	○
		慢性看護学	慢性看護学特論		2		2	30			○			
			慢性看護学援助特論Ⅰ		2		2	30				○		
			慢性看護学援助特論Ⅱ				2	30				○		
			慢性看護学演習ⅠA		2				60		○			
			慢性看護学演習ⅠB				2		60		○			
			慢性看護学演習ⅡA		2				60			○		
			慢性看護学演習ⅡB				2		60			○		
			慢性看護学実習Ⅰ				6			270			○	○
			慢性看護学実習Ⅱ			※(6)	2			90			○	○
			慢性看護学実習Ⅲ				2			90			○	○
			慢性看護学課題研究			2				60			○	○
			慢性看護学特別研究	6						180			○	○

		分野	授業科目	修論ｺｰｽ 単位数 必修	修論ｺｰｽ 単位数 選択	CNSｺｰｽ 単位数 必修	CNSｺｰｽ 単位数 選択	授業時間数 講義	授業時間数 演習	授業時間数 実習	学年進行 1年次 前期	学年進行 1年次 後期	学年進行 2年次 前期	学年進行 2年次 後期
専門科目	療養支援看護学	がん看護学	がん看護学特論		2		2	30			○			
			がん看護学援助特論		2		2	30				○		
			がん緩和ケア論				2	30			○			
			がん薬物療法看護論				2	30				○		
			がん看護学演習ⅠA		2				60		○			
			がん看護学演習ⅠB				2		60		○			
			がん看護学演習ⅡA		2				60			○		
			がん看護学演習ⅡB				2		60			○		
			□多職種参加型症例検討演習				1		15				○	
			*模擬患者による多職種参加型個別化医療課題演習				1		15		○			
			がん看護学実習Ⅰ				6			270			○	○
			がん看護学実習Ⅱ			※(6)	2			90			○	○
			がん看護学実習Ⅲ				2			90			○	○
			がん看護学課題研究			2				60			○	○
			がん看護学特別研究	6						180			○	○
		感染看護学	感染看護学特論		2		2	30			○			
			感染看護学援助特論		2		2	30				○		
			感染看護疫学論		2		2	30				○		
			臨床感染看護論			2		30				○		
			感染看護学演習ⅠA		2				60		○			
			感染看護学演習ⅠB				2		60		○			
			感染看護学演習ⅡA		2				60			○		
			感染看護学演習ⅡB				2		60			○		
			感染看護学実習Ⅰ				6			270			○	○
			感染看護学実習Ⅱ			※(6)	4			180			○	○
			感染看護学課題研究			2				60			○	○
			感染看護学特別研究	6						180			○	○

「◇」付き科目の詳細は別途通知する。また、異文化看護フィールドワークAの定員は4名とする。
「*」付き科目については、『がん医療に強い専門看護師養成コース』の学生は受講できる。
「□」付き科目については、がん看護学分野ＣＮＳコース以外の者は受講を申請することができない。
※(6)は当該分野CNSコースの実習科目のうち、本学の修了要件の必修単位数が6単位以上であることを表す。
(な) は、中百舌鳥キャンパスで開講を表す。
(継) は、中百舌鳥キャンパス開講授業で中継講義を表す。
　　ただし、グループワーク等授業の内容により中百舌鳥キャンパスで受講となる場合がある。
◆本学大学院経済学研究科の科目は、2単位まで修了要件に必要な単位として履修することができる。

資料 5-1-2―3　看護学研究科　博士後期課程　標準履修課程表

区分	領域	授業科目	単位数		授業時間数		1年次		2年次		3年次	
			必修	選択	講義	演習	前期	後期	前期	後期	前期	後期
共通教育		研究公正B	1			15	○					
		イノベーション創出型研究者養成Ⅰ(な)		2	30	開講時期、中継講義は時間割を参照						
		イノベーション創出型研究者養成ⅡA～ⅡH		各1	各15							
		イノベーション創出型研究者養成Ⅲ(な)		2	30							
		イノベーション創出型研究者養成Ⅳ(な)		2	30							
基盤教育		看護学研究方法論	2		30	30	○					
		看護学研究方法論演習		1				○				
		生体科学研究方法論		1	15		○					
		健康科学研究方法論Ⅰ		1	15		○					
		健康科学研究方法論Ⅱ		1	15			○				
		看護理論開発方法論		1	15			○				
専門教育	生活支援看護学	看護技術・情報学特論		2	30		○					
		看護技術・情報学演習		2		60		○				
		看護管理・教育学特論		2	30		○					
		看護管理・教育学演習		2		60		○				
		母子健康看護学特論		2	30		○					
		母子健康看護学演習		2		60		○				
		家族健康看護学特論		2	30		○					
		家族健康看護学演習		2		60		○				
		地域・精神看護学特論		2	30		○					
		地域・精神看護学演習		2		60		○				
		在宅・老年看護学特論		2	30		○					
		在宅・老年看護学演習		2		60		○				
		生活支援看護学特別研究		6		270			○	○	○	
	療養支援看護学	急性療養看護学特論		2	30		○					
		急性療養看護学演習		2		60		○				
		慢性療養看護学特論		2	30		○					
		慢性療養看護学演習		2		60		○				
		がん療養看護学特論		2	30		○					
		がん療養看護学演習		2		60		○				
		感染療養看護学特論		2	30		○					
		感染療養看護学演習		2		60		○				
		療養支援看護学特別研究		6		270			○	○	○	

(な)は、中百舌鳥キャンパスで開講を表す。

２．教育方法

１）学士課程

授業形態は、学習効果を上げるために、「共通教育科目」「専門基礎科目」は講義・演習、「専門科目」は講義・演習・実習で構成している。具体的な授業形態及び指導形態の例として、「情報基礎」ではコンピュータを使用して情報処理の演習を行い、「解剖生理学A･B」では、「キーパッド」を用いた小テストや、三次元人体解剖ソフト「Visible Body」を用いた演習を取り入れて授業を行っている。

各領域の「支援論」などにおいては、少人数による対話・討論型授業を行っている。臨地実習では、病院、老人保健施設、保健所、市町村保健センターなどの様々なフィールド型実習を行っている。さらに、2005年度に採択された文部科学省による現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム「看護実践能力の獲得を支援するe-ラーニング」の教材を授業や実習に活用し、学習指導法を工夫している。

教育の目的に応じた成績評価基準は、大阪府立大学履修規程に示されており（規程第280号第10条https://www1.g-reiki.net/upc-osaka/reiki_honbun/u325RG00200093.html#e000000125)、各科目の成績評価基準は、学生必携の授業科目概要に記載している。授業科目及び臨地実習の成績評価及び単位認定は、各科目の単位認定者が基準に従って実施している。成績評価に関する学生からの異議申し立ては、学生個人から学生グループ学類教務担当または当該科目担当教員に、口頭もしくは書面で行われている。卒業要件基準は、大阪府立大学地域保健学域規程に則り（規程第268第10条)、2012年度以降の入学生は卒業要件128単位、必修単位116単位としている。

2012年度以降の入学生に対しては助産師に加え保健師も選択制となり、助産師国家試験受験資格の取得を希望する学生に対しては、17単位の助産師科目を、保健師国家試験受験資格の取得を希望する学生に対しては、11単位の保健師科目を開設している。なお、助産師養成課程は大学院教育への移行を予定しており、2020年度入学生から廃止となった。また、2012年度以降の入学生から、養護教諭一種免許状取得のための「資格科目」を開設した。さらに、助産師科目の一部を含む科目選択により、国家資格である受胎調整実地指導員認定資格を取得できるようにした。入学前の既修得単位の認定は、大阪府立大学学則（規程第228号36条）に則り、新入学者に対しては、本学入学前に他大学等で修得した科目は個別に審査し、卒業要件単位に認定している。卒業認定は、卒業要件に照らし合わせて教授会で行っている。

２）大学院課程

博士前期課程の授業形態及び指導形態は、修士論文コースでは講義･演習、専門看護師（CNS）コースでは講義・演習・実習で構成され、少人数教育を基本としている。講義では質疑応答を含めた対話・討論型授業、演習では情報機器の活用や実験、演習及び実習ではフィールド型授業などを行っている。さらに、学類の授業におけるTAとしての活動を通して、教育能力を高められるようにしている。

また、入学前の既修得単位の認定は、大阪府立大学大学院学則（規程第229号第14条）に則り、新入学者に対しては、本学入学前に他大学等で修得した科目は個別に審査し、10単位を上限とし修了要件単位に認定することとした。

研究指導は、博士前期課程、博士後期課程ともに複数指導教員体制のもとで行い、主指導教員はテーマの選定及び研究方法の検討から論文作成までのすべてのプロセスを直接指導している。副指導教員は主指導教員と緊密な連携を取りつつ、指導に当たっている。論文審査のプロセスとして、博士前期課程では、研究テーマ及び研究計画書を研究科委員会で審査し、研究倫理委員会の審査を経て、再度、研究科委員会で最終承認する。修士論

文・課題研究の審査は、研究科委員会で選出された主査1名と副査2名以上で行い、研究科委員会で最終承認を行う。博士後期課程では、研究テーマ及び研究計画書を研究科委員会で審査し、研究倫理委員会の審査を経て、再度、研究科委員会で最終承認する。2年次には中間報告を行い、教員及び他の大学院生の意見を広く求め、研究能力を育成する場としている。博士論文の審査は、研究科委員会の全教員で行う予備審査、研究科委員会で選出された主査1名と副査2名以上で行う本審査を経て、研究科委員会で最終承認を行う。適切な評価基準の下に研究の審査が行われるために2015年度には博士論文・修士論文・課題研究の審査基準を作成した。2017年度は審査基準に基づいて審査している。(資料5-2-2)

修了要件及び成績評価基準は、大阪府立大学大学院看護学研究科規程（規程第276号第10条、第15条）に則り、成績評価及び単位認定は、各科目の単位認定者が基準に従って実施し、修了認定は、研究科委員会の議を経て学長が行っている。成績評価に関する学生からの異議申し立てがある場合、学生個人から当該科目担当教員または学生グループ大学院教務担当に、口頭もしくは書面で行う制度がある。

資料5-2-2　博士論文・修士論文・課題研究　審査基準

看護学研究科（博士後期課程） 学位論文審査基準	看護学研究科（博士前期課程） 学位論文審査基準	看護学研究科（博士前期課程） 課題研究審査基準
予備審査基準および博士論文審査基準の項目は、以下のとおりとする。	修士論文審査基準の項目は、以下のとおりとする。	課題研究審査基準の項目は、以下のとおりとする。
1．学術的重要性・妥当性	1．学術的重要性・妥当性	1．専門看護分野における重要性・妥当性
○学術的に重要な研究テーマである	○学術的に重要な研究テーマである	○専門看護分野の課題についての重要な研究テーマである
○先行研究・文献との関連は十分である	○先行研究・文献との関連は十分である	○先行研究・文献との関連は十分である
○看護学の発展に貢献し、波及効果が期待できる	○看護学の発展に貢献し、波及効果が期待できる	○専門看護分野の発展に貢献する研究である
○研究目的が明確である	○研究目的が明確である	○研究目的が明確である
2．研究計画・方法の妥当性	2．研究計画・方法の妥当性	2．研究計画・方法の妥当性
○研究目的を達成するために適切な研究方法が用いられている	○研究目的を達成するために適切な研究方法が用いられている	○研究目的を達成するために適切な研究方法が用いられている
○科学的根拠に基づいた研究方法が用いられている	○科学的根拠に基づいた研究方法が用いられている	○科学的根拠に基づいた研究方法が用いられている
○研究方法が具体的に論述されている	○研究方法が具体的に論述されている	○研究方法が具体的に論述されている
3．倫理的配慮	3．倫理的配慮	3．倫理的配慮
○研究方法、対象の選定、記述に倫理的配慮が十分払われている	○研究方法、対象の選定、記述に倫理的配慮が十分払われている	○研究方法、対象の選定、記述に倫理的配慮が十分払われている
○研究公正の観点から問題がない	○研究公正の観点から問題がない	○研究公正の観点から問題がない
4．研究の独創性あるいは新規性	4．研究成果	4．研究成果
○研究に独創性や新規性が認められる	○研究に新規性が認められる	○研究に新規性が認められる
5．論旨の明確性、一貫性	5．論旨の明確性、一貫性	5．課題研究の構成
○論旨は明確で、一貫性がある	○論旨は明確で、一貫性がある	○論理的に構成されている
○結果と考察の整合性がある	○結果と考察の整合性がある	○結果の説明は妥当で、わかりやすい
		○考察に矛盾や飛躍がない

３．その他

１）７大学連携個別化がん医療実践者養成プラン

７大学連携個別化がん医療実践者養成プランは、2017 年度に文部科学省「多様な新ニーズに対応する『がん専門医療人材（がんプロフェッショナル)』養成プラン」に採択され、5 年間継続される事業である。本事業は、近畿大学、大阪市立大学、神戸大学、兵庫医科大学、神戸市看護大学、関西医科大学の看護学・医学・薬学・理工学系大学院研究科が相互連携し、多様化するニーズに対応した個別化医療を実践できるがん専門医療人を養成することを目的としている。

本学研究科では、ライフステージにおける様々な課題に対して高度な看護実践を提供し、かつ指導的役割を果たすことで、がん医療やがん看護の質向上に貢献できる人材養成を目指している。そのため、AYA（Adolescent and Young Adult）世代や壮年期、老年期といった様々なライフステージにおける、就学・就労、妊孕性、遺伝性がん、認知症患者の意思決定や治療継続などに関する課題を講義・演習に取り上げ、実践知や研究論文など多様な学習教材を活用して効果的に問題解決できる方法を習得できるよう促している。

２）実習病院との連携

2020 年度は新型コロナウイルス感染症禍での大学と臨床との情報交換のために看護部長会で交流を行った。主な内容は、新大学の実習施設のお願いと情報交換、緊急事態宣言下での臨地実習の在り方や、国家試験以降、就職前の過ごし方について留意事項など、病院と大学の事情を情報交換し、協力上の留意点を話し合った。

なお、2020 年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、ふれあい病院探検等の企画や、臨床講師の看護学授業への参加は中止となった。

第６章　学生支援

１．学習支援

１）学士課程

看護学類では、「共通教育科目」、「専門基礎科目」、「専門科目」に属する科目群を有機的に連携させて学習効果を上げることを目指した授業科目概要を作成している。授業科目概要の構成は、担当者や配当年次、開講時期などの基本的な情報と、授業目標、授業の概要、準備学習・試験・成績評価等の項目からなり、これらの定型化された書式に従って各教員が作成している。学習支援として、入学時及び前年度末には履修ガイダンスを行い、成績評価基準、卒業認定基準、授業科目概要等を記載した学生必携を学生全員に配布し、履修指導を行っている。また、選考に基づき助産科目・助産師科目又は保健師科目を履修することができ、その説明を入学時と３年次に実施している。さらに、学生が学習相談のために来室あるいはメールによる質問・相談ができるよう、授業科目概要には、授業科目毎に、教員のオフィスアワー及びメールアドレスを記載している。国家試験対策としては、看護師国家試験、保健師国家試験、助産師国家試験は、各々を専攻した学生の代表が中心となって、国家試験の模擬試験を実施している。2017 年度からは国家試験対策として学内、I-site なんば等に学習室を設置し、学内教員や学外講師による研修会や勉強会を行っている。

学生の自主的学習を支援する環境は、羽曳野図書センター、情報科学演習室・視聴覚室、自習室（ラーニングコモンズ）等の施設整備に加え、携帯型のマルチメディア端末を用いたデジタル教材などを整備している。羽曳野図書センターの開館時間は、平日８時30分～21時（授業のない日は９時～19時)、土曜日10時30分～19時で、AV ブース・AV 機器を備えたグループ学習室等を使用することができる。さらに、看護に関する蔵書は日本でもトップクラスであり、他大学図書館との相互利用サービス、データベース・サービス等も充実している。羽曳野図書センターのガイダンスは、要望に応じ、図書館ツアー等を行い、利用について案内・周知している。

情報科学演習室・視聴覚室は、基本的には授業時間を除く平日９時～22時に開放し、パソコンは情報科学演習室50台、視聴覚室34台、ラーニングコモンズ５台を整備している。看護技術習得のために、学内での各専門分野に応じた実習室を整備している。

学生相談を含む学生生活全般への支援は、1～3 年次生 15～18 名に 1～3 名の教員（総グループ数 22)、4 年次生には総合研究を担当する教員が、アドバイザーとして履修上・生活上の問題について継続的に支援を行うアドバイザー制度がある。アドバイザーは、学生の進路、履修指導、課外活動・個人の悩みなど各種相談や支援を行っている。

羽曳野キャンパス学内団体・サークルとしては、体育系７団体、文化系９団体、その他学生団体３団体の計19団体が活動している。学内団体・サークルは、自治会が交付する活動資金により活動し、教員が必ず顧問として関わるほか、教授会がサークルの新規申請を承認する前に、学生委員会で活動内容の妥当性について検討している。サークル室は、図書厚生棟３階に整備しており、学内で施設を利用する場合は所定の書式で申請することにより、ほぼ全面的な施設利用が認められている。自治会活動に対する支援としては、集会室を図書厚生棟３階に整備し、活動資金は入学時に徴収される自治会費に加えて、後援会からの交付金に基づいている。

また、学習支援に関する学生のニーズをより詳細に把握するために、WEB 学生サービスセンター（WEBSC）では、WEBSC サイトに「Web 提案箱」を設置し、提案した学生に当日中に返信するとともに、寄せられた意見・提案及び対応内容を WEBSC サイトで紹介している。2020 年度の提案箱への意見は３件であったが、新型コロナウイルス感染症禍ということで自治会より要望書が提出された。その他、随時アドバイザーから、学生委員長、教務委員長、

学類長、研究科長等へ、学生のニーズに関する情報を報告している。

2）大学院課程

看護学研究科では「共通教育科目」と「基盤教育科目」、「専門教育科目」に属する科目群を有機的に連携させて学習効果をあげることを目指した授業科目概要を作成している。授業科目概要の構成は、担当者や配当年次、開講時期などの基本的な情報と、授業目標、授業の概要、試験・成績評価等の項目からなり、これらの定型化された書式に従って各教員が作成している。学習支援として、入学時及び年度当初には履修ガイダンスを行い、成績評価基準、修了認定基準、授業科目概要等を記載した学生必携を学生全員に配布し、履修指導を行っている。さらに、学生が学習相談のために来室あるいはメールによる質問・相談ができるよう、授業科目概要には、授業科目毎に、教員のオフィスアワー及びメールアドレスを記載している。

学生の自主的学習を支援する環境は、羽曳野図書センター、情報科学演習室・視聴覚室のほか、看護学研究科大学院自習室を設置し整備している。

博士前期課程の学生に対しては、2017 年度から、学生が順調に修学に取り組めるように「修学相談体制」を導入し、学生の修学上の不安や悩みについて相談できる主指導教員以外の修学相談教員（研究科長、副研究科長、学生委員長は除く教授）を各学年に 3 名ずつ配置している。修学相談教員は学生の修学上の不安や悩みを早期に把握し、主指導教員、研究科長、学生委員長などと連携しながら学生が修学に専念できるように支援している。

なお、学習支援に関する学生のニーズをより詳細に把握するための方法は、学士課程と同様である。

2．生活支援

看護学類及び看護学研究科では、学生の生活や就職、経済面での援助に関する支援のほか、特別な配慮が必要な学生への支援やハラスメントに関する支援を行っている。

学生の健康相談は、保健室に配置された看護師 1 名が常勤で対応している。さらに、学校医 1 名（内科）との契約を結び、学生の健康管理と受診対応の体制をとっている。心理的問題に対応できる体制として本年度は新型新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、対面でのカウンセラーによる相談は困難であった。そのため、羽曳野キャンパスカウンセリングルームでは、専門のカウンセラーによるメールや WEB を用いた相談、テレビ電話を用いた電話相談や WEB 学生サービスセンター（WEBSC）所属の専門カウンセラーなど多様な方法による相談体制を整備した。2020 年度の年間相談件数（実数）は、新型コロナウイルス感染症禍で登学していなかった期間もあり 60（5 名）件と前年度よりも減少した。

奨学金制度及び授業料減免は、学生ガイダンス、学生生活の手引、掲示板やパンフレットにおいて周知し、より詳細な情報を必要とする学生からの問い合わせや相談は、羽曳野キャンパス事務所学生グループにおいて対応している。2020 年度は国の修学支援制度と府の授業料減免制度がはじまり、多くの学生がそちらの制度を利用することとなった。

外国人留学生には、奨学金制度や授業料減免制度が外国人留学生枠で設けられている。アドバイザー制度により、外国人留学生寮の紹介・調整、アルバイトや書類手続き時のアドバイスなど、生活の支援体制を整備している。さらに、教員、先輩学生各 1 名で構成するチューター制度では、外国人留学生に対する学習支援体制も整備している。担当する先輩学生（チューター）は、学生委員会により選出され、一定の費用が支払われる。2020 年度の外国人留学生数は 2 名である。その他、特別な支援を行うことが必要と考えられる者は、アクセスセンター

と連携し、就学上の支援を行っている。

各種ハラスメントに関する支援は、公立大学法人大阪ハラスメントの防止に関する規程（規程第 192 号 https://www1.g-reiki.net/upc-osaka/reiki_honbun/u325RG00200454.html）に則り、相談・助言体制を整備し、機能している。大学生活を送る中で何らかの不自由さを感じる学生本人、周囲の学生や教員からの相談に専任のコーディネーターが応じるアクセスセンターが中百舌鳥キャンパスに開設され、2018 年 11 月より羽曳野キャンパスにも分室が設けられた。障がい者手帳の有無、障がいの種類や程度、「障がい」という名称の有無にかかわらず、履修、試験、学生生活において心配事や悩みに対する相談に応じており、修学上の合理的配慮についても連携しながら対応した。

３．就職支援

看護学類では、就職支援を就職委員とキャリアカウンセラー、アドバイザー教員で実施している。2020 年度は対面での対応が難しい状況であったが、キャリア支援室のオンライン相談や各種ガイダンスも活用して就職支援を行なった。

また、求人施設への対応は原則、事務職員で対応しており、就職情報・進路資料室の管理・就職状況の把握を行っている。

第７章　教育の成果と教育の質の向上及び改善のためのシステム

１．評価

１）学生による評価

（１）授業評価アンケートによる学生の評価

2012 年度入学生から学生による目標設定と自己評価を中心とした学習・教育支援サイト（ポートフォリオ）が導入されており、半期毎の目標設定と授業科目単位での学習自己評価（授業振り返り）を入力するシステムを通じて、授業評価アンケートを実施している。看護学類前期アンケート回答率は 1 年次生 89.7%、2 年次生 58.2%、3 年次生 45.8%、4 年次生 17.4%（全体平均 65.0%）と、低学年の回答率は比較的高いが、学年が進むにつれて回答率が低下している。学生の振り返りに対して、教員のコメント入力も行っているが、看護学類では 81%の入力率と全学と比較しても高かった。学生の入力率を向上させること、教員のコメントを学生公開することにより、相互理解と学生の評価を反映した教育改善に努めていく必要がある。

今年度の特徴として、新型コロナウイルス感染症拡大に伴って、授業形態が対面授業から授業支援システムを活用した非同期型オンライン中心に変更となった。全学におけるオンライン授業に関する学生のアンケート（回収率は 1 年次生 43.8%、2 年次以上 28.5%）によると、オンライン授業は比較的満足度は高く、学生の理解はむしろ高まっていたという結果であった。しかし、演習や実習、またコミュニケーションや交流といった点においてはオンラインのみでは難しいため、次年度は感染拡大防止策を講じたうえで、対面とオンラインのハイブリット授業を実施していく予定である。

（２）臨地実習評価アンケートによる学生の評価

臨地実習については、実習科目毎に学生による評価を実施しており、その結果を担当教員はもとより、府立 5 医療センターの実習指導者にもフィードバックすることで、実習内容や実習環境の改善に役立てている。

2019 年度後期から 2020 年度前期における実習評価アンケート（看護学実習評価票）の回答率は、基礎看護学実習Ⅰ（1 年次）52.9%、基礎看護学実習Ⅱ（2 年次）89.0%、各論実習（3 年次、4 年次）57.7%であり、昨年度と比べ回答率が減少している。

学生の評価について、全実習における「大いにそう思う」「そう思う」の割合を評価項目毎にみると、「授業で学んだ内容が実習を通してより深く理解できた」と回答した者は 98.5%、「対象者への理解を深め、その対象者に合う看護が展開できた」と回答した者は 93.2%であった。臨地実習の総合目的である「さまざまな健康レベル・健康障害にある人々に対して、既習の知識・技術・態度を実際の場面に適用し、理論と実践を統合して看護活動が展開できる能力を養う」が概ね達成できていると考えられる。また、「教員は学生の必要に応じたアドバイス、指導、説明を行った」と回答した者は 91.1%、「指導者から適切な助言が得られた」と回答した者は 95.9%で、学生の学習ニーズに応えられる実習指導体制であった。

２）教員相互による評価

2005 年度より実施してきたピア授業評価と並行し、2010 年度よりピア授業参観を試行的に行ってきたが、2012 年度から教員相互による評価をピア授業参観に一本化させた。ピア授業参観実施要項、ピア授業参観実施手順に基づいて、参観科目提供の呼びかけを年 2 回行ってきたが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、前期は実施ができなかった。後期に入り、10 月に呼びかけを行い 125 コマ（うち大学院 11 コマ）（2019 年度は 113

コマ、うち大学院は 19 コマ）の参観科目が提供され、参観の実施は 13 名（2019 年度は 12 名）で、のべ 119 コマ、うち大学院は 14 コマであった。

2020 年度は非同期型オンライン授業が中心であったため、提供科目は 2019 年度と比較して増えたが、参観実施数はほぼ同じであった。オンラインということもあり、比較的時間に左右されず参観が可能であるため、より広く参観できるように周知する必要がある。次年度は対面授業の実施が予定されているため、より多くの授業が提供されるよう、ピア授業参観の活用をより進めて行く必要がある。

3）教員業績評価

大阪府立大学評価基本方針の目的として、「教員の教育・研究・社会貢献・大学運営の諸活動について現状を把握し、適正な評価を行うことによって、教育研究活動の活性化および質の向上を図り、併せて大学運営の改善を図るとともに、大学としての社会的説明責任を果たす」とあるように、教員活動評価を 2006 年度から施行している。

看護学類としては、看護独自で実施してきた自己点検評価を 2014 年度で終了し、2015 年度からは全学統一の教員活動業績評価で評価を実施している。

教員活動業績評価は、教員活動情報データベースシステムを活用し、全学の教員活動業績評価実施委員会で策定した自己点検・評価実施要領に基づき活動情報を収集・蓄積し、教員活動評価への活用を図っている。

各教員は、前年度の活動について所属学類等の実施基準に基づき自己点検・評価を行い、教育、研究、社会貢献及び大学運営の 4 分野における、自らの活動の見直しに活用している。

2．卒業・修了後の進路状況

学類卒業生は例年就職希望者 99～100%が就職しており、2020 年度就職希望者 116 名中 116 名（100.0%）の就職が内定している。就職希望者の 90.5%は看護師・助産師として病院に就職し、4.3%が保健師として大阪府・大阪市に就職している。また近年は 82.8%以上が大阪府内に就職しており、2020 年度卒業生の 82.8%の学生が大阪府内に就職し、17.2%が府外に就職している。

近年における学類卒業生の年度別就職状況を資料 7-2-1 及び資料 7-2-2 に示した。

資料 7-2-1　学類生 卒業年度別府内外就職状況　　2021 年 3 月現在（名）

卒業年度	2018 年度		2019 年度		2020 年度	
卒業生	120		128		123	
就職希望者	117		124		116	
進学者	0		0		3	
その他	3		4		4	
就職者	117		123		116	
就職者率	100.0%		99.2%		100.0%	
府内就職者	105	89.7%	103	83.1%	96	82.8%
うち府内出身者	73	69.5%	72	69.9%	74	77.1%
府外就職者	12	10.3%	20	16.1%	20	17.2%

資料 7-2-2　学類生 卒業年度別府内外国公立・民間の就職状況　　2021 年 3 月現在（名）

卒業年度	就職者	府内											府外									
		国公立						民間					国公立					民間				
		保	助	看	養教	他	計	保	助	看	他	計	保	助	看	他	計	保	助	看	他	計
2018 年度	117	7	4	54	3	0	68	1	5	30	1	37	3	0	5	1	9	0	0	3	0	3
2019 年度	124	3	6	63	0	1	73	0	3	27	0	30	0	1	15	2	18	0	0	2	0	2
2020 年度	116	6	4	61	1	0	72	0	6	17	1	24	3	0	10	0	13	0	0	6	1	7

※「他」は看護職以外

博士前期課程修了者は、進学者を除いて医療・保健施設に就職している。博士後期課程の修了生のすべてが教育機関に就職している。近年における博士前期課程修了生の就職状況を資料 7-2-3 に、博士後期課程修了生の就職状況を資料 7-2-4 に示した。

資料 7-2-3　博士前期課程　修了年度別府内外就職状況　　2021 年 3 月現在（名）

修了年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
修了者	25	28	17
就職者	19	22	14
進学者	4	4	0
その他・未定	2	2	3
府内就職者（医療・保健／教育）	12（11/1）	13(11/2)	6（6/0）
府外就職者（医療・保健／教育）	7（7/0）	9(9/0)	8（8/0）

資料 7-2-4　博士後期課程　修了年度別府内外就職状況　　2021 年 3 月現在（名）

修了年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
修了者	5	0	4
就職者	5	0	4
その他・未定	0	0	0
府内就職者（医療・保健／教育）	3（0/3）	0	3（0/3）
府外就職者数（医療・保健／教育）	2（0/2）	0	1（0/1）

３．教育の質の向上及び改善のためのシステム

看護学類におけるファカルティ・ディベロップメント（FD）は、FD 委員会を設置し取り組んでいる。FD 委員会の主な活動としては、学生や教員のニーズや、社会の変化に対応した内容を取り上げ、セミナー等を企画・実施することである。

2020 年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、前期は実施せず、後期に学類独自の FD 企画と、地域保健学域合同セミナーとして FD カフェを企画し、開催した（資料 7-3）。

資料 7-3　2020 年度 FD に関するセミナー等

看護学類	1．第 1 回 FD セミナー 主催：看護学類 FD 委員会 テーマ：「学生指導とハラスメント」 日時：2020 年 12 月 21 日 講師：広島大学　横山　美栄子 教授 参加人数：30 名
地域保健学域学類合同セミナー	1．第 1 回地域保健学域 FD カフェ 主催：看護学類 FD 委員会・総合リハビリテーション学類 FD 委員会 テーマ：「新型コロナウイルス感染症時代の研究戦略～研究活動の工夫を中心に～」 日時：2021 年 3 月 11 日 参加人数：36 名 講師：看護学類　療養支援看護学領域　急性看護学分野　北村　愛子　教授

第８章　研究活動

１．研究体制及び支援

研究の実施体制は、健康科学と看護学４領域の計５領域から構成されている。同組織への研究支援組織としては、羽曳野キャンパスの場合、総務グループを中心とした事務職員及び文献等の検索や収集のために羽曳野図書センターの司書などから、総合的・機能的に支援を受けている。

研究推進については、産学官連携機構から研究助成の広報・申請手続き・予算執行等、療養学習支援センターによる地域社会との連携等が、組織的に行われている。コーディネーターが定期的に羽曳野キャンパスに来学し、研究助成に関する情報提供など支援を行っている。外部研究資金獲得に関して、文部科学省の科学研究費補助金の場合には経営企画課経理グループによる申請方法の説明会を行っているとともに、外部資金獲得に関するセミナーの開催なども実施している。このように研究が推進できるような施策が図られている。

研究資金の配分は、学類運営会議において原案を作成し、教授会及び看護学研究科委員会で決定する施策が実施されている。その他の支援としては、療養学習支援センターによる研究プロジェクトに対する研究・活動助成、実習施設等との共同研究助成などがある。

看護学類及び看護学研究科における独自の研究成果の発信や刊行のための組織として、入試広報部会及び紀要委員会があり、各教員の研究成果の概略をホームページなどで公開している。研究活動の状況を把握する取り組みとして、各教員は毎年度末に教員活動情報データベースに自己の研究活動の申告を実施している。教員活動情報データベースは教員の個人情報に関する部分を除いて公開を原則としている。

看護学類及び看護学研究科における研究活動の質の向上に関する取り組みとしては、大学院看護学研究科研究倫理委員会及び動物実験委員会がある。大学院看護学研究科研究倫理委員会では、教員及び学生が行なう、人を対象とする研究では、学外の有識者を含む大学院看護学研究科研究倫理委員会において、倫理審査を実施している。実験動物を用いた研究については、動物実験ガイドラインが定められ、研究計画書を動物実験委員会に提出し、審査を受けることにより実施可能となる。このように倫理的に配慮した研究を支援するための研究倫理委員会、動物実験に関する委員会等が整備され機能している。

本学の研究活動の一層の活性化を図ることを目的として、学域・学類、研究科の枠を超えた学際的あるいは分野横断型研究を進める「21 世紀科学研究所」群で構成する研究組織「21 世紀科学研究機構」が設立されている。この機構は、柔軟性と組織性を併せ持つ３群の設置形態の研究所で構成されており、地域に貢献する拠点大学としての役割と府民・府政のシンクタンク機能も担える組織として、本学の研究スタイルに新たな息吹を吹き込む存在として位置づけられている。看護教育・研究に関して同機構内に「看護経営システム研究所」などがある。

２．研究実績

看護学類及び看護学研究科の研究活動の実施状況と研究成果は、「資料　大阪府立大学看護学類教員業績一覧」に示した。学術論文の発表はのべ 92 件、学会発表件数はのべ 95 件であった。競争的研究資金の申請・採択状況を資料 8-2-1 に示した。日本学術振興会科学研究費助成事業への新規申請は 27 件であった。競争的資金等の採択件数は新規・継続を合わせて 41 件（47,021,343 円）であり、日本学術振興会科学研究費助成事業（資料 8-2-2）、厚生労働科学研究費補助金（資料 8-2-3）、財団等による研究助成（資料 8-2-4）、企業等による共同研究、研究助成（資料 8-2-5）による実績を各一覧表に示した。

資料 8-2-1　2020 年度　競争的研究資金等の申請・採択状況

研究活動			新規申請件数	新規採択件数	継続件数	合計金額(円)
日本学術振興会 科学研究費助成事業	基盤研究（A）	代表	0	0	0	0
		分担	—	0	0	0
	基盤研究（B）	代表	6	0	3	15,236,343
		分担	—	0	3	390,000
	基盤研究（C）	代表	16	6	13	25,220,000
		分担	—	6	6	1,625,000
	萌芽的研究	代表	1	0	0	0
		分担	—	0	0	0
	若手研究 若手研究（B）	代表	4	3	1	4,550,000
		分担	—	0	0	0
	研究活動スタート支援	代表	0	0	0	0
厚生労働科学研究費補助金			—	2	0	1,250,000
財団等による研究助成			—	1	1	1,600,000
企業等による受託研究、研究助成			—	1	0	0
企業等による共同研究、研究助成			—	0	1	0
総　合　計						72,371,343

資料8-2-2　2020年度日本学術振興会科学研究費助成事業一覧

（研究代表者）

研究種目審査区分	氏　　名	獲得金額（円）	研　究　課　題　名
基盤研究（B）	細田　泰子	2,600,000	看護学習者の臨床判断を拓くルーブリックと臨床学習環境づくり支援プログラムの開発
基盤研究（B）	大川　聡子	7,826,343	10代母親の逆境的小児期体験(ACE)を踏まえた妊娠期からの訪問プログラム開発
基盤研究（B）	森本　明子	4,810,000	糖尿病重症化予防のための労働因子の解明と新戦略の構築：大規模職域コホート研究
基盤研究（C）	林田　裕美	1,300,000	様々なライフステージにあるがん患者へのACP看護実践モデルの構築
基盤研究（C）	井上　敦子	910,000	家族看護実践力を高めるためのケースカンファレンスガイドの開発
基盤研究（C）	檜木野　裕美	1,560,000	医療的ケアが必要な乳幼児をもつ親の不適切養育行動アセスメント指標の開発
基盤研究（C）	中嶋　有加里	3,770,000	胎児期から乳幼児期の子どもの命を守るチャイルドシート看護支援プログラム開発と評価
基盤研究（C）	佐保　美奈子	1,820,000	思春期・青年期男子のセクシュアリティ教育の課題を克復する研究
基盤研究（C）	伊藤　良子	1,430,000	支援者のジェンダー規範が支援に及ぼす影響とSOGIE概念に基づく性暴力被害者支援
基盤研究（C）	佐藤　淑子	1,690,000	診療所における効果的・効率的な感染管理活動のための指標の作成
基盤研究（C）	大江　理英	1,430,000	看護基礎教育から臨床へ救急看護師の自律性を育む救急看護教育プログラムの構築
基盤研究（C）	北村　愛子	1,040,000	急性心不全による活動耐性低下患者の回復を促進するための看護プログラムの開発
基盤研究（C）	渡邊　香織	1,300,000	プレコンセプションケアに基づく就労女性の栄養状態改善プログラムの開発
基盤研究（C）	古山　美穂	1,040,000	「チーム思春期」の組織化と支援者への影響
基盤研究（C）	長畑　多代	910,000	認知症ケアに携わる専門職のバーンアウト予防に焦点をあてたサポートプログラムの構築
基盤研究（C）	山内　加絵	1,170,000	ユニット型特養の看護職に向けた看取りにおける介護職との連携の教育プログラムの構築
基盤研究（C）	山地　佳代	1,690,000	認知症高齢者の日常生活支援におけるアドボカシー実践向上プログラムの実施と評価
基盤研究（C）	志田　京子	1,040,000	看護職を対象とした倫理的成熟に向けた教育プログラムの開発
基盤研究（C）	都筑　千景	1,820,000	月経周期に着目した育児期女性の経年的QOL評価と支援ツールの開発
基盤研究（C）	相原　ひろみ	390,000	リフレクティブサイクルを活用した看護倫理教育プログラムの開発
基盤研究（C）	德岡　良恵	650,000	EGFRTKI投与を受ける肺がん患者が自己評価を行う皮膚障害予防プログラムの開発
基盤研究（C）	根来　佐由美	260,000	地域特性別にみたフレイル高齢者の実態と予防行動促進に向けた支援モデルの構築
若手研究	冨川　順子	1,170,000	精神科救急入院料病棟における看護師の退院調整
若手研究	安本　理抄	1,430,000	生活困窮している結核患者への負の罹患連鎖を断ち切る生活支援モデルの構築
若手研究	岡野　明美	1,560,000	地域で暮らす認知症高齢者の生活支援に向けたコーディネーションの影響要因の探索
若手研究	髙　知恵	390,000	我が国の少子化対策に貢献する在日コリアンコミュニティの家族形成の実態解明
合　　計		45,006,343	

（研究分担者）

研究種目審査区分	氏　　名	獲得金額（円）	研　究　課　題　名
基盤研究（B）	安本　理抄	130,000	子ども虐待予防における『生きづらさ』を抱えた人への妊娠期からの支援手法の変革
基盤研究（B）	大川　聡子	130,000	子ども虐待予防における『生きづらさ』を抱えた人への妊娠期からの支援手法の変革
基盤研究（B）	森本　明子	130,000	子ども虐待予防における『生きづらさ』を抱えた人への妊娠期からの支援手法の変革
基盤研究（C）	根来　佐由美	130,000	産学官が連携したオーラルフレイル予防の効果の検証：身体機能や栄養状態への影響
基盤研究（C）	大川　聡子	65,000	乳幼児の事故を予防するための母親のコンピテンシー尺度の開発
基盤研究（C）	細田　泰子	390,000	子育て期にある看護師の「働き方」リテラシーを高める教育プログラムの開発
基盤研究（C）	相原　ひろみ	65,000	看護技術修得における自己調整学習方略尺度の開発
基盤研究（C）	益　加代子	104,000	看護補助者の多様性に対応する人材マネジメントシステムのモデル開発
基盤研究（C）	長畑　多代	65,000	特別養護老人ホームにおける看護実践能力向上のための教育プログラムの開発
基盤研究（C）	田嶋　長子	156,000	ICTを活用したうつ病者家族支援システムの構築と評価
基盤研究（C）	細田　泰子	65,000	看護系大学に所属する若手教員の能力形成・向上に資する教育支援の検討
基盤研究（C）	紙野　雪香	130,000	ナラティヴアプローチを活用した看護管理者のキャリア形成支援能力向上プログラム開発
基盤研究（C）	志田　京子	65,000	認知症高齢者に関わる看護師とともにつくるリフレクションを促す教育プログラムの開発
基盤研究（C）	北村　愛子	130,000	救急・集中治療領域の非がん患者を対象とした看護師の穏和ケア教育活動推進モデル開発
基盤研究（C）	簇持　知恵子	260,000	クローン病患者のセルフマネジメントの実態と関連する要因
合　　計		2,015,000	

資料 8-2-3　2020 年度厚生労働科学研究費補助金一覧

事業名	研究分担者	研究課題名	補助金額（円）
エイズ対策政策研究事業	佐保　美奈子	HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究（H30-エイズ-指定-004）	800,000
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	都筑　千景	地域特性に応じた地域・職域連携推進事業の効果的な展開のための研究（２０FA１０１０）	450,000

資料 8-2-4　2020 年度財団等による研究助成一覧

事業名	研究代表者	研究課題名	補助金額（円）
第 29 回〈2020 年度〉ヘルスリサーチ研究助成	髙　知恵	HPV ワクチン接種をめぐる対象者中心の意思決定支援のための研究	1,300,000
日本看護技術学会研究助成	山口　舞子	情報機器作業に伴う背部痛や凝り感に対する背部温罨法と指圧の効果	300,000

資料 8-2-5　2020 年度企業等による共同研究

事業名	研究代表者	研究課題名
産学連携によるデータヘルスプロジェクト	森本　明子	運輸業における働く人の身体面、行動面、心理面に関連する因子の研究

看護学類が独自に実施している助成として、療養学習支援センター活動助成（資料 8-2-6）および、看護学研究科研究支援員派遣助成（資料 8-2-7）、看護学研究科共同研究（資料 8-2-8）がある。

特に療養学習支援センターでの活動状況は、療養学習支援センター年報第 17 巻に掲載し、公表している。

資料 8-2-6　2020 年度療養学習支援センター活動助成一覧

研究代表者	共同研究者	研究課題名	助成金額（円）
岡野　明美	―――――	委託型地域包括支援センターの地域診断個別研修の成果と課題	20,540

活動代表者	共同活動者	活動課題名	助成金額（円）
髙　知恵	佐保　美奈子 古山　美穂 山田　加奈子 渡邊　香織 中嶋　有加里	学校などにおけるセクシュアリティ教育プログラム	299,000
中山　美由紀	井上　敦子	家族への看護を考える会	92,820
山内　加絵	長畑　多代 九津見　雅美 山地　佳代	高齢者施設のケアの質向上を目指す研究会：高齢者施設ケア（LTC：Long-Term Care）研究会	13,734
根来　佐由美	安本　理抄 大川　聡子 大野　志保 都筑　千景	地域における出前健康測定会	13,361
南村　二美代	簾持　知恵子 中村　雅美 浅井　克仁 太田　佳織 岩井　宏史	健康的に日常を生きることを応援する「ホッと&ハートの会」	58,239
杉本　吉恵	相原　ひろみ 山地　佳代 山口　舞子	看護職・介護職のための腰痛予防推進リーダー研修会	191,396
北村　愛子	大江　理英 井上　奈々	同期型オンライン形式による集中治療に携わる看護師のためのクリティカルケア看護実践講座	233,400
岡﨑　裕子	楢木野　裕美	ペアレンティングプログラムの実践(前向き子育てプログラム（トリプルP)と「安心感の輪」子育てプログラム)	0
長田　暁子	―――――	病気をもつ高校生のための交流会&相談会	15,600

活動代表者	共同活動者	活動課題名	助成金額（円）
三輪　恭子	岡野　明美 深山　香織 小泉　亜紀子	在宅療養者とその家族への食支援における訪問看護師と在宅管理栄養士とのコラボレーションの促進	154,000
岡﨑　裕子	楢木野　裕美	子どもの虐待予防にむけた研修会の開催(前年度予算)	103,889

資料 8-2-7　2020 年度看護学研究科研究支援員派遣助成一覧

研究代表者	研究課題名	助成金額（円）
三輪　恭子	住民育成活動を行うコミュニティヘルス・ナースのコンピテンシーとその獲得過程　ー複線径路等至性アプローチ(TEA)による分析ー	180,000
簇持　知恵子	療養上の意思決定を支える慢性心不全患者家族へのヘルスリテラシー支援プログラムの開発	180,000
杉本　吉恵	モビリティ支援のための福祉用具導入による医療職者のコンフォートとケアの質評価	180,000
岡﨑　裕子	親と看護師が協働して慢性疾患をもつ子どもの支援にあたるための親の協働アセスメント指標の開発	180,000
大野　志保	学校での重大事故発生時に養護教諭が役割遂行のために必要な支援ツールの開発	180,000
井上　奈々	・ICT 教育の導入による患者理解を促進させる関連図作成アプリ開発 ・病態関連図の作成に必要な指導とその方法 ・胃切除術を受ける患者の食生活を再構築する要因 ・胃がん術後の補助化学療法を受ける患者に対する支援 ・クリティカルケアに携わる中堅看護師の教育	180,000
小泉　亜紀子	専門看護師の資格を有する訪問看護師による筋萎縮性側索硬化症療養者・家族の病期に沿った意思決定支援の内容	180,000

資料 8-2-8　2020 年度看護学研究科共同研究費一覧

研究代表者	研究課題名	助成金額（円）
志田　京子	新型コロナ感染症拡大時における中小規模病院看護管理者間のネットワークの活用状況	273,000
髙　知恵	総合周産期母子医療センターにおける在住外国人妊産婦の母子保健に関する指標の実態把握および影響要因の検討	300,000

第９章　社会貢献と国際交流

１．地域社会への貢献

教員の地域社会への貢献として、外部資金による社会貢献活動、療養学習支援センターの活動、高大連携・教育展開等を行っている。2020 年度における外部資金による社会貢献活動では、7 大学連携個別化がん医療実践者養成プラン（がんプロ）、大阪府訪問看護専門研修事業、大阪府訪問看護ネットワーク事業費補助金（機能強化支援事業）、大阪府特定健診受診率向上プロジェクトの 4 件を実施した（資料 9-1-1）。セミナーや講演会については、新型コロナウイルス感染症拡大により対面での実施が難しいこともあったが、オンラインを一部取り入れながらほぼ計画通りに活動を進めることができた。また、療養活動支援センターでは、昨年度で終了した NS-Co プロジェクトでの専門職の交流・ネットワーク活動の一部を、CNS 活動部会にて引き続き実施している。そのほか、厚生労働省や自治体の公的団体、さまざまな専門職団体における審議会等に参画し、積極的に社会貢献を行っている。

１）外部資金による社会貢献活動

（１）　7 大学連携個別化がん医療実践者養成プラン（がんプロ）

本プランは 2017 年度文部科学省に採択された。2017 年度より開講している「がん患者のライフステージにおける課題対応を志向した看護師養成コース（がん看護インテンシブコース）」を継続し、2020 年 9 月に開催した。本コースは、がん患者の就業・就労や遺伝性がん、認知症を持つ高齢がん患者など様々なライフステージにあるがん患者の抱える課題について理解し、がん患者が課題を克服できるような支援を考案して実践できる看護師の養成を目的としている。専門的な看護実践や研究を行う医療者による講義、受講者間の討議などを行い、2020 年度は 26 名が受講した。受講者の 80%以上が講義内容は「よくわかった」と回答し、ディスカッションについては 85%以上が「役に立つ」と回答した。

また、2017 年度より、従来実施していたインテンシブコース（がん看護）を改変し「がん看護実践者養成セミナー」を開講しており、2020 年度は 9 月に開催した。がん看護経験 5 年以上の看護師に対し、がんの治療や緩和ケアについて専門的知識を持ちアセスメントし、看護実践と評価を行え、患者がセルフマネジメントするための相談者として適切に対応できるよう、講義および討議を行った。トータルペインと緩和ケアは 47 名、放射線療法看護は 52 名、がん薬物療法看護は 59 名が参加し、70%以上が講義内容について「よくわかった」、30%以上が「演習が役に立つ」と回答していた。

さらに、2018 年度より「がん看護講演会」を開催しており、2020 年度は 10 月に『高齢がん患者を支える』をテーマに開催し、地域の医療職者（大学院生含む）102 名の参加があった。高齢がん患者の意思決定支援に関わる行動経済学や高齢者の多様性に合わせた支援の具体的な事例を交えた講演で、95%以上が「興味が持て、役立つ内容」と回答した。その他、2017 年度より学内で実施していた「がん看護に関する研究会」について、臨床実践を行うがん看護専門看護師と協働し、ゲノム医療やライフステージに応じたがんの課題に関するがん看護研究を遂行し周知するための基盤を構築すること、またその基盤をもとにがん看護の質の向上に資する研究を遂行することを目的に開催した。2020 年度は活動基盤の構築として、研究遂行に必要な学習会の実施について意見を募り、研究活動が円滑に行われるよう、学習会を実施し、延べ 40 名が参加した。また、看護研究の遂行として昨年

度立案した研究計画を遂行した。新型コロナウイルス感染症拡大の影響でデータ収集期間延長が生じたため、再度、本学看護学研究科および研究施設で研究倫理審査申請を行い、調査に着手する準備を整えた。データ分析にも遅れが生じ、成果発表は来年度に繰り越して行う予定である。

（2） 大阪府訪問看護専門研修事業

2016年度よりスタートしたNS-Coプロジェクトの一環として、大阪府の委託を受けた訪問看護師階層別研修事業を開始した。2020年度は大阪府訪問看護専門研修事業の一部を受託し、訪問看護師等に必要な専門分野の実践能力向上を図る訪問看護実務指導者研修、教育理論を基盤として新人訪問看護職員への指導力向上を図る訪問看護教育指導者研修を実施した。2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、オンラインでの研修とした。訪問看護実務指導者研修会については、オンデマンド型で、10月開講5講座、11月開講5講座、12月開講4講座の計14講座を実施し、計866名が受講した。訪問看護実務指導者研修会は同期型で4回コースとして10月～12 月に実施し、16 名が受講した。受講者アンケートでは、訪問看護実務指導者研修会の難易度は「ちょうど良い」が最も多く、実践への役立ち度も高く、参加者の満足度なども高い結果が得られた。また訪問看護師教育指導者研修については、参加者の多くが研修内容について満足していた。

（3） 大阪府訪問看護ネットワーク事業費補助金（機能強化支援事業）

2017年度より大阪府訪問看護ネットワーク事業費補助金を受け、訪問看護推進事業における訪問看護ネットワーク事業の一つである機能強化支援事業を実施している。本事業は訪問看護ステーション事業所等の機能強化を支援することを目的とし、2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い第１回セミナーをWeb配信、第２回セミナーはZoomを活用したハイブリッド形式で実施した。

第1回の研修内容は、本学の経営・経済の専門家からバランスト・スコアカードを活用したサービス価値向上のマネジメントや人的資源のマネジメントについての講義であった。第2回目の研修内容は、バランスト・スコアカードを用いた戦略目標を設定しサービスの戦略計画、経営・管理の課題の抽出であり、第1回目の講義を基にワークショップ（個人ワーク）を行った。

セミナー終了後には参加者の中から個別指導受講希望者を募り、今年度は6名が希望した。希望者には各5回ずつ、経営・経済の専門家と訪問看護の相談員による個別指導を実施した。

また2020年度より、これまでの参加者へのフォロー体制や相互の情報交換などが行える支援として、機能強化支援セミナー交流会を開催した。参加者間で大変活発な意見交換が行われ、今後も開催方法や内容を工夫しより良いフォロー体制を作っていくために継続していく。

（4）特定健診受診率向上プロジェクト

大阪府の特定健診の受診率は全国と比べ低い状況で推移しており、特定健診受診率向上は大阪府の重要な健康課題の一つとなっている。大阪府から、2020年度 知事重点事業 国民健康保険ヘルスアップ支援事業「特定健診受診率向上プロジェクト ～対象者の実態や実情に応じた効果的なプロモーションの確立に向けた提案～」の委託を受け、特定健診・後期高齢者医療健康診査のデータ解析や、特定健診対象者（40–64 歳）の実態調査などに取り組んだ。

特定健診・後期高齢者医療健康診査のデータ解析では、678,494 名の特定健診・後期高齢者医療健康診査の結果を解析し、性・年代（40–64歳、65–74歳、75歳以上）・市町村別に、喫煙者、やせの者、肥満者、高血圧該当者、糖尿病該当者、脂質異常症該当者、eGFR低値該当者、メタボリックシンドローム該当者などの割合を、地図

を用いて見える化した。特定健診対象者(40–64 歳)の実態調査では、大阪府内の 5 つの対象市の調査対象者 33,902 名に自記式質問票調査を実施し、調査に参加した 12,433 名のデータを分析した。特定健診対象者（40–64 歳）の実態として、特定健診の未受診要因やその保有割合を把握した。そして、対象者の実態や実情に応じた効果的なプロモーションを提案し、大阪府内 43 市町村の特定健診の担当者（保健師や行政職員など）を対象とした研修会で、周知・教育を行った。

資料 9－1－1 外部資金による社会貢献活動

外部資金名	代表者	事業名	補助金額(円)
文部科学省・研究拠点形成費等補助金『多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル)」養成プラン』	田中　京子	7 大学連携個別化がん医療実践者養成プラン（がんプロ）	3,200,000
大阪府訪問看護専門研修事業費補助金	三輪　恭子	【指導者向け】訪問看護専門研修	1,528,000
大阪府訪問看護ネットワーク事業費補助金	小泉　亜紀子	訪問看護機能強化支援事業	3,347,000
大阪府知事重点事業 国民健康保険ヘルスアップ支援事業 特定健診受診率向上プロジェクト	森本　明子	特定健診受診率向上プロジェクト	25,000,000

2）療養学習支援センター活動

療養学習支援センターは、大学院看護学研究科の附置研究所として位置付けられ、療養学習支援に関する研究・教育、実践、情報提供、学術交流を図ることを目的としている。地域貢献活動として、プロジェクト研究・活動、闘病記文庫の充実および看護フォーラムの開催を行った。

2020 年度は、プロジェクト研究・活動では、研究 1 件と活動 11 件に対し助成を行った。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、例年通りの活動が難しい面もあったが、WEB 開催などの工夫をしながら、住民や専門職を対象とした研究・活動を実施した。

闘病記文庫は、羽曳野図書センター内に開架し、学生や市民への利用を呼びかけている。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、十分な利用はされなかったが、新刊図書の購入を行い、活動の充実に努めている。

第 8 回看護フォーラムは、2021 年 2 月 6 日に「新型コロナウイルス感染症をめぐる看護職のジレンマ」のテーマで WEB 開催を行い、約 90 名の参加があった。また、NS-Co プロジェクトとして開始された地域包括ケアに関わる専門職の交流・ネットワーク構築の活動の一部を CNS（専門看護師）活動部会として継続し、WEB ページを通しての情報発信、CNS の交流会などを実施した。

療養学習支援センターの活動に関する報告は年報として刊行し、WEB サイトに公開している。以上のことから、療養学習支援センターにおける地域への教育サービス活動の成果は上がっている。

３）高大連携・教育展開

青少年の学習意欲に応えた教育サービスの提供については、大阪府立大学高大連携推進委員会によって実施されている。2020 年度は高校生が受講できる科目として看護学類で開講している授業科目「セクシュアリティと看護」(1 単位 15 時間) を提供した (資料 9－1－3)。2020 年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、Zoom 同期型と非同期オンラインでの開講をした。3 分の 2 (5 回) 以上の出席回数と課題レポートの提出で終了認定とした。

資料 9-1-3　「セクシュアリティと看護」の講義日程等

1. 開講日時	：	2020 年 11 月　～　2020 年 12 月 (5 限目　全 7 回)
2. 場　所	：	羽曳野キャンパス　L402 講義室
3. 担当者	：	佐保美奈子准教授、古山美穂准教授、髙知恵講師、繁内幸治 (外部講師)
4. 受講者	：	18 名
5. 高校数	：	3 校

４）教員の社会貢献

看護学類に所属する教員は、保健、医療、福祉などの分野と関連を保ち、専門看護や専門基盤についての研究・教育に携わりながら、審議会等に積極的に参画している。参画する審議会等の公的団体としては、厚生労働省、独立行政法人国立病院機構、地方独立行政法人大阪府立病院機構、大阪府または府下市町村、看護協会、各教員が所属する学会等である。具体的な社会貢献活動は「資料　大阪府立大学地域保健学域看護学類 大学院看護学研究科 教員業績一覧」に示す通りである。

２．国際交流

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大を考慮し、マヒドン大学との院生交流及び、サマースクールへの学生派遣は見送りとなった。そのためオンラインを活用したプログラムを実施した。

１）マヒドン大学との学術交流

2021 年 3 月 17 日～18 日にマヒドン大学ラマティボディ校が主催する国際学会 (COVID Ned 2021) にパネリストとして参加した。テーマは“What a some alternative choices to prepare clinical skills during the COVID-19 era:How can we make use of some of these choices?”であった。基礎看護学：相原准教授、母性看護学：髙講師、老年看護学：山内講師、急性看護学：井上講師が担当し、井上講師が代表して発表した。

２）外国人招へい教員授業の公開

新型コロナ感染症拡大防止のため、外国人教員の招へいは無かった。

３）国際看護セミナー

第 27 回 国際看護セミナーとして大阪 OC デザインセンター長 池田光穂氏に講師依頼し、「異文化の理解と看護」と題し、学類 4 年生を対象にオンデマンド、オンラインセミナーを実施した。参加者は学類生 120 名、学内教員 15 名であった。

４）グローバル化の推進

（1）Zoom Study の開催

学類生、院生を対象としたZoom英会話クラス(1コマ分)を年9回実施し、延べ82名の参加があった。実施日と参加人数は資料9-2のとおりである。

（2）マヒドン大学とのオンライン交流会

11月13日、15時30分より90分間、マヒドン大学ラマティボディ校の大学院生4名、大学生4名と、本学学類生4年4名、大学院生2名が英語による情報交換会を実施した。テーマは、お互いの教育プログラムの紹介と、新型コロナウイルス感染症禍のキャンパスの変化についてであった。

資料9-2　Zoom英会話クラス　参加者人数

	Date	学生参加人数	国際交流委員会 参加人数
General Session A	July. 3 (Fri)	10名	４名
Group Session Ⅰ	July. 17 (Mon)	11名	２名
Group Session Ⅱ	Sep. 25 (Fri)	8名	２名
Group Session Ⅲ	Oct. 29 (thurs)	11名	１名
Group Session Ⅳ	Nov. 25 (Wed)	9名	２名
Group Session Ⅴ	Dec. 21 (Mon)	8名	２名
Group Session Ⅵ	Jan. 21 (Thurs) 2021	9名	２名
Group Session Ⅶ	Feb. 8 (Mon) 2021	7名	２名
General Session B	Mar. 15 (Mon) 2021	9名	３名

５）研究者の派遣

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により2020年度の研究者の派遣はなかった。

資料

大阪府立大学
地域保健学域看護学類
大学院看護学研究科

教員業績一覧

1) 著書

名前	出版年月	分担題名	著者名	書名	出版社名	掲載頁
都筑　千景	202007	――――――――	都筑千景編著	地域特性が見えてくる地域診断	医歯薬出版株式会社	全
三輪　恭子	202102	ターミナル期の入退院支援:病院と地域の連携	三輪恭子，高砂裕子，和田忠志他	訪問看護が支える在宅ターミナルケア	日本看護協会出版会	200-211
	202102	コミュニティでの新しい看護活動を見える化させた「よどまち保健室」	秋山正子，神保康子，三輪恭子他	「暮らしの保健室」ガイドブック	日本看護協会出版会	126-130
	202012	地域に密着した看護を展開する「よどまちステーション」の排便ケア	三輪恭子、鳥居芽、三國陽子	気持ちよく出す排便ケア	日本看護協会出版会	115-122
	202010	地域包括ケアの実現に向けて-在宅療養を支える入退院支援・連携の評価と訪問看護、介護サービス	福井トシ子、齋藤訓子、三輪恭子他	診療報酬・介護報酬のしくみと考え方（第5版）	日本看護協会出版会	23-28 37-45 163-228
	202006	〈地域看護〉 高齢者の退院計画に関する最良のエビデンスは？	青木美和、井沢知子、三輪恭子他	JBI　推奨すべき看護実践	日本看護協会出版会	70-76
佐藤　淑子	202011	多剤耐性菌感染症患者の看護、疥癬患者の看護、白癬患者の看護	井上智子，窪田哲朗　他	病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程（第4版）	医学書院	1332-1341 1665-1681
中嶋　有加里	202101	42. 母子保健と健全育成 「周産期医療」「新型出生前診断（NIPT）」「保健指導」「母子愛育会」「愛育班員」「未熟児養育医療」	古山美穂，渡邊香織，佐保美奈子，中嶋 有加里，山田加奈子，高知恵　他	保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典	ミネルヴァ書房	468，470，473，474
	202102	第3章1．分娩開始の診断、2．分娩の4要素の関連性、3．娩出力の状態、4．産道および胎児の下降度の状態 第4章2．入院時の診断・アセスメントとケア 第6章2．緊急事態への対応準備	町浦美智子，大橋一友，中嶋有加里，佐々木くみ子，村上明美，田村正徳，中野美佳	助産師基礎教育テキスト第5巻分娩期の診断とケア　2021年版	日本看護協会出版会	50-81 116-121 214-221
冨川　順子	202007	1こころの機能と発達、2クライシス（「新版　精神看護学」Ⅱライフイベント,ライフサイクルと精神の健康）	遠藤淑美、他	「新版　精神看護学」Ⅱライフイベント,ライフサイクルと精神の健康	日本精神科看護協会	31-46
冨川　順子	202006	患者の暴力や攻撃性への方策としての隔離・身体拘束の効果に関する最良のエビデンスは？,ベンゾジアゼピン受容体作動薬による不眠症治療における最良のエビデンスは？	山川みやえ、他	「JBI　推奨すべき看護実践　海外エビデンスを臨床で活用する」第3章〈精神看護〉	日本看護協会出版会	214-238
岡崎裕子	202004	小児看護学	楢木野裕美、岡崎裕子	看護師国家試験模試チャレンジテスト問題集　2020年第1回	学研	2 - 267　抽出不可
	202008	小児看護学	楢木野裕美、岡崎裕子	看護師国家試験模試チャレンジテスト問題集　2020年第2回	学研	2 - 224　抽出不可
	202011	小児看護学	楢木野裕美、岡崎裕子	看護師国家試験模試チャレンジテスト問題集　2020年第3回	学研	2 - 223　抽出不可

2) 学会誌・雑誌等の発表論文

名前	出版年月	発表論文の標題	著者名	掲載誌名	主催団体名・出版社名	巻	号	掲載頁
中山　美由紀	202010	慢性心不全患者である夫とともに生きる妻の体験	山口望、中山美由紀	家族看護研究	日本家族看護学会	26	1	25-37
楢木野　裕美	202012	小児がんの子ども・家族に関わる看護師のストレッサーの概念分析	川勝和子，楢木野裕美	大阪府立大学看護学雑誌	大阪府立大学	26	——	1—8
渡邊　香織	202004	妊娠中期と後期における腰痛と歩行および身体活動量の変化と関連性	渡邊 香織，藤島 和代，渡邊 友美子	日本助産学会誌	日本助産学会	34	1	3—13
	202004	小児期発症の1型糖尿病女性が経験する月経周期に伴うセルフケア	宇田川直子、渡邊香織、佐保美奈子、古山美穂	母性衛生	日本母性衛生学会	60	1	95-103
長畑　多代	202101	特別養護老人ホームに勤務する看護師の夜間オンコール時における判断と対応	淡路深雪、長畑多代、九津見雅美	老年看護学	日本老年看護学会	25	2	123-131
	202103	急性期病院において危険行動により薬物療法を受ける認知症高齢者ケアに関わる看護師の認識	藤井裕子、長畑多代	大阪府立大学看護学雑誌	大阪府立大学	27	1	31-39
	202103	急性期治療下において低活動型せん妄を呈する高齢患者への看護実践	北井園子、長畑多代	大阪府立大学看護学雑誌	大阪府立大学	27	1	41-50
	202103	大学院生へのトランジショナルケア教育プログラム受講1年後の看護実践の変化	北村愛子、細田泰子、長畑多代	大阪府立大学看護学雑誌	大阪府立大学	27	1	51-56
	202008	認知症の人への退院後の支援	長畑 多代	老年精神医学会雑誌	日本老年精神医学会	31	8	852-858
北村　愛子	202103	大学院生へのトランジショナルケア教育プログラム　受講1年後の看護実践の変化	北村愛子、細田泰子、長畑多代	大阪府立大学看護学会誌	大阪府立大学	27	1	51-56
佐藤　淑子	202103	感染防止対策加算の取得状況と感染症専門医・感染管理認定看護師の登録状況－2014年と2018年の病床規模別比較	平尾百合子・喜田雅彦・剣持理恵・高取充祥・堀内愛・佐藤淑子	山梨県立大学看護学部・看護学研究科研究ジャーナル	山梨県立大学看護学部	7	1	47-53
	202010	脾摘後重症感染症予防のための患者教育に関する検討	喜田雅彦、中川淳一郎、中條悟、佐藤淑子	医療の質・安全学会誌	医療の質・安全学会	15	4	348-354
	202010	わが国の院内感染対策と医療安全対策の関わり―医療法と診療報酬に関する施策の動向から―	佐藤淑子，喜田雅彦，平尾百合子	医療の質 ・ 安全学会誌	医療の質・安全学会	15	4	341-347
旗持　知恵子	202103	慢性心不全患者における病気認知の関連因子	浅井克仁,旗持知恵子,南村二美代	日本看護研究学会雑誌	日本看護研究学会	44	1	41-50
	202102	Development and Validation of the Japanese Version of a Job Stressor Scale for Triage Nurses in Emergency Deoartments	Nojima Keisuke, Takamizawa Emiko, Hatamochi Chieko	Open Journal of Nursing	Scientific Research Publishing	11	2	75-88

	202006	前期高齢糖尿病患者の血糖コントロールに関連する要因	増田誠一郎、旗持知恵子	日本糖尿病教育・看護学会誌	日本糖尿病教育・看護学会	24	1	87－94
	202008	血液透析患者の食事療法に関するストレス・コーピング	中村雅美,旗持知恵子	日本腎不全看護学会誌	日本腎不全看護学会	22	2	104－105
	202006	Education program for Male Patients with Chronic Obstructive Pulmonary Disease to Change Dietary Behavior	Takako Mouri,Chieko Hatamochi, Junji Uchino, Koichi Takayama	Kobe Journal of Medical Sciences	Kobe Journal of Medical Sciences 刊行会	66	3	82－89
杉本　吉恵	202012	高齢者に対する沐浴剤清拭の皮膚保湿効果の検討	大泉綾亮、杉本吉恵、中岡亜希子、伊藤良子、山口舞子	日本看護技術学会誌	日本看護技術学会	19	——	113-120
	202010	Factors Related to Skin Moisturizing Functions in Adults: A Cross-Sectional Study	Oizumi Ryosuke, Sugimoto Yoshie, Aibara Hiromi	Aesthetic Medicine	UIME	6	3	42-48
	202101	The association between activity levels and skin moisturising function in adults	Ryosuke Oizumi,Yoshie Sugimoto,Hiromi Aibara	Dermatology Reports	ADOI	13	1	DOI: 10.4081/dr.2021.8811
細田　泰子	202103	看護大学生の看護実践における倫理的行動自己評価尺度の開発	相原ひろみ, 細田泰子	日本看護倫理学会誌	日本看護倫理学会	13	1	22-31
	202103	看護実践上の困難感と継続への自信の変化ー復職直後と現在の違いー	神戸美輪子, 細田泰子	日本医学看護学教育学会誌	日本医学看護学教育学会	29	3	22-29
	202103	大学院生へのトランジショナルケア教育プログラム受講1年後の看護実践の変化	北村愛子, 細田泰子, 長畑多代	大阪府立大学看護学雑誌	大阪府立大学看護学雑誌	27	1	51-56
	202103	看護大学教員が必要と考える能力	土肥美子, 細田泰子	大阪府立大学看護学雑誌	大阪府立大学看護学雑誌	27	1	11－20
	202103	他者からの支援と経験学習が教育指導者の看護コン ピテンシーに及ぼす影響	北島洋子, 細田泰子, 長野弥生, 片山由加里, 土肥美子, 根岸まゆみ	大阪府立大学看護学雑誌	大阪府立大学看護学類	27	1	1－9
	202102	新卒看護職者や看護学生を支援する教育指導者の育成プログラムに関する成果と課題	中橋苗代, 細田泰子, 中岡亜希子, 池内香織	京都橘大学研究紀要	京都橘大学研究紀要編集委員会		47	235-250
	202012	根拠に基づく実践を根付かせるためのナレッジブローカリングの活用(2)	赤崎芙美, 紙野 雪香, 細田 泰子	看護実践の科学	看護の科学社	45	12	67-72
	202011	根拠に基づく実践を根付かせるためのナレッジブローカリングの活用(1)	赤崎芙美, 紙野 雪香, 細田 泰子	看護実践の科学	看護の科学社	45	11	90-94
	202011	Assessing the content validity of the Nursing Stu-dents' Ethical Behavior Self-Evaluation Scale in Nursing Practice	Hiromi Aibara, Yasuko Hosoda	医学と生物学	バイオテクノロジー標準化支援協会	160	4	1－9
	202011	看護系大学に所属する若手教員が必要とする学習スタイルの傾向	土肥美子, 細田泰子	インターナショナル Nursing Care Research	インターナショナル Nursing Care Research 研究会	19	4	55-65
	202010	Assessment of Item-level Content Validity Index of Scale for Novice Nurses' Modeling	Yayoi Nagano, Yasuko Hosoda	インターナショナル Nursing Care Research	インターナショナル Nursing Care Research 研究会	19	3	1－9
	202010	潜在看護師の看護技術に対する自己評価ー潜在看護師ならびに潜在した経験をもつ就業看護師に着目してー	神戸美輪子, 細田泰子	インターナショナル Nursing Care Research	インターナショナル Nursing Care Research 研究会	19	3	61-69
	202010	看護実践における新人看護師のモデリングの様相	長野弥生, 細田泰子, 紙野雪香	日本医学看護学教育学会誌	日本医学看護学教育学会	29	2	13-21
	202008	新人看護師の組織社会化におけるプロアクティブ行動尺度の開発	卯川久美, 細田泰子	日本看護科学会誌	日本看護科学学会	40		386-395
	202007	地域に根付く米国ホスピスのフィールドワーク：ボランティアとの協働からみた本邦の看護教育についての考察	片山由加里, 細田泰子, 根岸まゆみ, 土肥美子, 北島洋子, 赤崎芙美, 米田真央	同志社女子大学総合文化研究所紀要	同志社女子大学総合文化研究所	37		64-75
	202004	看護基礎教育に携わる大学教員と専門学校教員のクリティカルシンキングの態度・傾向が及ぼす影響の探索	土肥美子, 細田泰子, 片山由加里	インターナショナル Nursing Care Research	インターナショナルNursing Care Research研究会	19	1	75-86
	202004	Evaluating the Content Validity of the Scale of Engagement in Learning Activities of Newly Graduated Nurses	Ai Katsuyama, Yasuko Hosoda	インターナショナル Nursing Care Research	インターナショナルNursing Care Research研究会	19	2	19-26
森本　明子	202010	Association of crossing capillaries in the finger nailfold with diabetic retinopathy in type 2 diabetes mellitus	Shikama M, Sonoda N, Morimoto A, Suga S, Tajima T, Kozawa J, et al	Journal of Diabetes Investigation	John Wiley & Sons Australia Ltd	12	6	1007-1014
	202101	Association of abdominal obesity with crossing capillaries in the finger nailfold in type 2 diabetes mellitus	Shikama M, Sonoda N, Morimoto A, Suga S, Tajima T, Kozawa J, et al	Diabetology International	シュプリンガー・ジャパン	12	3	260－267
長田　暁子	202006	小児看護専門看護師のキャリア発達	長田暁子	小児看護	へるす出版	43	6	642-648
佐保　美奈子	202103	SNSを利用する「今時」高校生に合わせた「おつきあいのマナーかるた」改訂版を利用したワークショップの実践とその効果	髙知恵、佐保美奈子、古山美穂、山田加奈子	思春期学	日本思春期学会	39	1	173-180
	202004	小児期発症のⅠ型糖尿病女性が経験する月経周期に伴うセルフケア	宇田川直子、渡邊香織、佐保美奈子、古山美穂	母性衛生	日本母性衛生学会	61	1	95-103
	202004	令和元年度　エイズ対策研究事業の企画と評価に関する研究　総括研究報告書	白阪琢磨、四本美穂子、久慈直昭、山内哲也、安尾有加、佐保美奈子、武田丈、江口有一郎、大北全俊	厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業	厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業	———	———	44－61
古山　美穂	202103	SNSを利用する「今どき」高校生に合わせた「おつきあいのマナーかるた」改訂版を利用したワークショップの実践とその効果	髙知恵、佐保美奈子、古山美穂、山田加奈子	思春期学	日本思春期学会	39	1	173-180
	202004	小児期発症の１型糖尿病女性が経験する月経周期に伴うセルフケア	宇田川直子、渡邊香織、佐保美奈子、古山美穂	母性衛生	日本母性衛生学会	61	1	95-103
岡野　明美	202007	公衆衛生看護における倫理的課題への取り組み　気付く力と支援する力を培う	岡野明美	保健師ジャーナル	医学書院	76	7	576－582
	202004	認知症高齢者の生活支援に向けた地域包括支援センター保健師のコーディネーション尺度の開発	岡野明美, 上野昌江, 大川聡子	日本地域看護学会誌	日本地域看護学会	23	1	4-14
九津見　雅美	202101	特別養護老人ホームに勤務する看護師の夜間オンコール時における判断と対応	淡路深雪, 長畑多代, 九津見雅美	日本老年看護学会誌	日本老年看護学会学会	25	2	123-131
	202103	血友病患者に対する外来看護の課題とその対策	大村佳代子、九津見雅美、松原千恵、中塚朋子、西村佳子、牛尾里美、中島由記子、蘭由岐子	兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要	兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所	28	———	25-35

	202101	Work, Leisure Time Activities, and Mental Health among Family Caregivers of the Elder People in Japan	Tomoko Omiya, Masami Kutsumi and Sakiko Fukui	Healthcare	MDPI(Multidisciplinary Digital Publishing Institute)	28	9(2)	129
南村 二美代	202103	糖尿病とがんを併せ持つ患者の療養に対する思い	横田香世, 南村二美代, 光木幸子, 山本裕子, 田中登美, 肥後直子, 服部美景, 門田典子, 藤田かおり	大阪府立大学看護学雑誌	大阪府立大学看護学研究科	27	1	21-30
	202009	糖尿病看護の専門性の高い看護師による糖尿病とがんを併せ持つ患者へのセルフマネジメント支援の実際と困難	山本裕子, 光木幸子, 田中登美, 南村 二美代, 横田香世, 肥後直子, 門田典子, 藤田かおり	日本糖尿病教育・看護学会誌	日本糖尿病教育・看護学会	24	2	161-179
	202007	糖尿病とがんを併せ持つ患者のがん治療中のセルフマネジメントの実際	光木幸子, 山本裕子, 田中登美, 南村二美代, 横田香世, 肥後直子, 服部美景, 門田典子, 藤田かおり	同志社女子大学 総合文化研究所紀要	同志社女子大学 総合文化研究所	37	-	90-99
相原 ひろみ	202005	Assessing the content validity of the Nursing Students' Ethical Behavior Self-Evaluation Scale in Nursing Practice	相原ひろみ、細田泰子	生物と医学	生物と医学	160	4	1－9
	202010	Factors Related to Skin Moisturizing Functions in Adults: A Cross-Sectional Study	Oizumi Ryosuke, Sugimoto Yoshie Aibara Hiromi	Aesthetic Medicine	Aesthetic Medicine	3		42-48
	202103	The association between activi-ty levels and skin moisturisingfunction in adults	Oizumi Ryosuke ,Sumimoto Yoshie, Aibara Hiromi	Dermatology Reports 2021	Dermatology Reports	13	1	8811
	202103	看護大学生の看護実践における倫理的行動自己評価尺度の開発	相原ひろみ、細田泰子	日本看護倫理学会誌	日本看護倫理学会	13	1	22-31
益 加代子	202008	自治体DPC対象病院に勤務する看護師の病院経営参画度尺度の開発	河邉 紅美, 宇城 令, 箕浦 哲嗣, 賀沢 弥貴, 益 加代子, 藤原 奈佳子	日本看護管理学会誌	日本看護管理学会	24	1	1－10
紙野 雪香	202010	看護実践における新人看護師のモデリングの様相	長野弥生, 細田泰子, 紙野雪香	日本医学看護学教育学会誌	日本医学看護学教育学会	29	2	13-21
	202012	根拠に基づく実践を根付かせるためのナレッジブローカリングの活用(2)	赤崎芙美, 紙野雪香, 細田泰子	看護実践の科学	看護の科学社	45	12	67-72
	202011	根拠に基づく実践を根付かせるためのナレッジブローカリングの活用(1)	赤崎芙美, 紙野雪香, 細田泰子	看護実践の科学	看護の科学社	45	11	90-94
	202004	看護師1人ひとりの進化につながるナラティヴアプローチ私の経験に基づくキャリア形成のために	紙野雪香、福田敦子	看護	日本看護協会出版会	72	6	78－81
	202005	主体的に思考し続ける看護の育成を目指す新人看護師研修プログラムの開発(第3回)新人看護師と指導者間の相互的育成関係における主体性の変容	勝山 愛 , 紙野雪香 , 横山 美穂子 , 山田 麻子 , 前田 奈補子	看護実践の科学	看護の科学社	45	5	59－65
	202004	主体的に思考し続ける看護の育成を目指す新人看護師研修プログラムの開発(第2回)指導者からみた教育成果	勝山 愛 , 紙野雪香 , 山田麻子 , 横山美穂子 , 前田奈補子	看護実践の科学	看護の科学社	45	4	64－70
園田 奈央	202101	Association of abdominal obesity with crossing capillaries in the finger nailfold in type 2 diabetes mellitus	Shikama M, Sonoda N, Morimoto A, Suga S, Tajima T, Kozawa J, et al	Diabetology International	シュプリンガー・ジャパン	12	3	260-267
	202010	Association of crossing capillaries in the finger nailfold with diabetic retinopathy in type 2 diabetes mellitus	Shikama M, Sonoda N, Morimoto A, Suga S, Tajima T, Kozawa J, Maeda N, Otsuki M, Matsuoka T, Iichiro S, Ohno Y	Journal of Diabetes Investigation	John Wiley & Sons Australia, Ltd	12	6	1007-1014
高 知恵	202010	育児期在日コリアン女性の妊娠, 分娩、産褥、育児期の現状 第2報妊娠期、分娩期、産褥期、育児期に生じる困難	高知恵、松尾博哉	助産雑誌	医学書院	74	10	780－784
井上敦子	202103	新型コロナウイルス感染症の拡大状況における家族ケアの必要性と困難―家族支援専門看護師への調査から―	児玉久仁子, 井上玲子, 井上敦子, 藤原真弓, 志村友理	家族看護学研究	日本家族看護学会	26	2	230-235
	202009	育児期在日コリアン女性の妊娠、分娩、産褥、育児期の現状 第1報母子保健に関する指標と母子保健制度利用状況	高知恵、松尾博哉	助産雑誌	医学書院	74	9	688－692
	202004	在日コリアン女性が育児期に期待される複数役割を遂行する際に生じる困難性の質的検討	高知恵、松尾博哉	保健の科学	杏林書院	62	4	279－285
山田 加奈子	202004	在宅妊娠糖尿病患者指導管理料が産後に拡大！助産師外来での診療報酬獲得を目指して	成田伸、松原まなみ、坂梨薫、林佳子、山田加奈子、出井陽子	助産学雑誌	医学書院		4	247-249
	202004	妊娠糖尿病と診断された女性の心理とその支援	山田加奈子	助産学雑誌	医学書院		4	263-267
	202004	妊娠糖尿病妊婦への支援－自己血糖測定をせずに血糖管理を行った事例－	森重圭子、山田加奈子、岡田健太、松井千佳、成田伸	助産学雑誌	医学書院		4	254-262
根来 佐由美	202008	10代母親への妊娠期から産後にわたる保健師の継続支援―逆境的小児期体験(ACE)の有無による比較―	大川聡子、谷村美緒、廣地彩香、眞壁美香、吉田有沙、安本理抄、根来佐由美、金谷志子、上野昌江	日本地域看護学会誌	日本地域看護学会	23	2	33-42
	202009	健康イベント参加者の生活習慣と食事選択傾向との関連～食育SAT システムを用いた栄養バランス測定をとおして～	安本理抄, 上野昌江 , 大川聡子, 根来佐由美	日本健康運動看護学会誌	日本健康運動看護学会	1	1	23-32
	202103	自治型福祉NPO 団体に所属する高齢者の社会関係の実態	根来佐由美	Human Welfare	関西学院大学人間福祉学部研究会	13	1	81-95
	202103	地域における高齢者の社会的孤立を予防する支援に関する文献検討：高齢者の程よい社会関係を基盤とした支援のあり方	根来佐由美	大阪府立大学看護学雑誌	大阪府立大学看護学類	27	1	57-65
	202103	地域における出前健康測定会	根来佐由美、安本理抄、大野志保、大川聡子、都筑千景	大阪府立大学大学院看護学研究科療養学習支援センター年報	大阪府立大学大学院看護学研究科	17		56-58
	202006	あしゆび鍛えて健康に 泉大津市のあしゆびプロジェクトにおける取り組み	山村典弘、小間明百美、中井眞巳、福本伸子、元家由衣、根来佐由美、上野昌江	保健師ジャーナル	医学書院	76	6	456-462
深山 華織	202103	介護支援専門員による家族介護者の就労継続のための支援	深山華織, 河野あゆみ, 白澤政和, 髙砂裕子, 白木裕子, 畑亮輔	ケアマネジメント学	日本ケアマネジメント学会	19	——	67-78
安本 理抄	202009	健康イベント参加者の生活習慣と食事選択傾向との関連~食育SATシステムを用いた栄養バランス測定をとおして~	安本理抄,上野昌江,大川聡子,根来佐由美	日本健康運動看護学会誌	日本健康運動看護学会	1	1	23-32
	202008	10代母親への妊娠期から産後にわたる保健師の継続支援―逆境的小児期体験(ACE)の有無による比較―	大川聡子,谷村美緒,廣地彩香,眞壁美香,吉田有沙,安本理抄,根来佐由美,金谷志子,上野昌江	日本地域看護学会誌	日本地域看護学会	23	2	33-42
	202102	あせらず たゆまず おこたらず	安本理抄	保健師・看護師の結核展望	公益財団法人結核予防会	——	116	71－76

伊藤　良子	202103	〈性暴力被害にあうこと〉をめぐる「他者」を媒介とした語りの分析――「性暴力被害者」アイデンティティズ	伊藤　良子	第24期女性学講演会記録集「性暴力――その後を生き抜く人たちと共に」	大阪府立大学女性学研究センター	――	――	1－29
山口　舞子	202012	高齢者に対する沐浴剤清拭の皮膚保湿効果の検討	大泉 綾亮, 杉本 吉恵, 中岡 亜希子, 伊藤 良子, 山口 舞子	日本看護技術学会誌	日本看護技術学会	19	――	113-120
喜田　雅彦	202103	感染防止対策加算の取得状況と感染症専門医・感染管理認定看護師の登録状況　−2014年と2018年の病床規模別比較−	平尾百合子　喜田雅彦　剣持理恵　高取充祥　堀内愛　佐藤淑子	山梨県立看護学部・看護学研究科研究ジャーナル	山梨県立看護大学	7	1	47-53
	202010	脾摘後重症感染症予防のための患者教育に関する検討ー2症例に対する面接調査よりー	喜田雅彦　中川淳一郎　中條悟　佐藤淑子	医療の質・安全学会誌	医療の質・安全学会	15	4	348-354
	202010	わが国の院内感染対策と医療安全対策の関わり　−医療法と診療報酬に関する施策の動向から-	佐藤淑子, 喜田雅彦, 平尾百合子	医療の質・安全学会誌	医療の質・安全学会	15	4	341-347
中村　雅美	202103	【透析看護分野の看護師の認定・研修制度と社会から求められるもの】実践報告　慢性疾患看護専門看護師の透析分野での役割と実践	西川沙織、中村雅美	臨床透析		37	3	269-273
	202008	臨床推論ってなに？	中村雅美	透析ケア		26	9	802-804
	202008	血液透析患者の食事療法に関するストレス・コーピングと自己管理行動	中村雅美、簇持知恵子	日本腎不全看護学会誌		22	2	104-111

3) 学術講演・学会発表

名　前	発表年月	発　表　課　題　名	会　議　・　学　会　名	発　表　者　名
中山　美由紀	202009	家族看護コンサルテーションの内容と家族支援専門看護師へのニーズ	日本家族看護学会第27回学術集会	井上敦子、藤原真弓、中山美由紀
	202009	産前の教育的介入における方法及びその効果に関するシステマティックレビュー	日本家族看護学会第27回学術集会	阿川勇太、中山美由紀
	202009	がん終末期の意思決定で生じる家族内葛藤に対する家族支援専門看護師の実践	日本家族看護学会第27回学術集会	蓮見歩、中山美由紀
楢木野　裕美	202009	集中治療を受けている乳幼児をケアする看護師が「何か変」と察知する様相	日本小児看護学会　第30回学術集会	西宮園美、楢木野裕美
	202009	乳幼児期にある医療的ケア児の発達を促す訪問看護師の関わり	日本小児看護学会　第30回学術集会	間瀬瞳、楢木野裕美
	202009	「気になる親子」の育児支援に向けたアセスメント	日本小児看護学会　第30回学術集会	川口めぐみ、竹田佳子、橋倉尚美、友田尋子、楢木野裕美
渡邊　香織	202103	女性のプレコンセプションケアの実行状況と栄養摂取状態との関連	第35回日本助産学会学術集会	渡邊香織　川村千恵子　古山美穂
都筑　千景	202012	学校における課題発見のスクリーニング−発見から支援までのシステム構築−	日本子ども虐待防止学会第25回学術集会ひょうご大会	山野則子、石田まり、都筑千景、水野達郎
	202008	地域活動が少ない独居後期高齢者の身体機能の変化と孤独に対する思い	第23回日本地域看護学会学術集会	寺田有里、都筑千景、大川聡子、根来佐由美
	202101	育児期女性におけるSense of Coherence(SOC)と不適切養育行動との関連	第9回日本公衆衛生看護学会学術集会	桝本妙子、都筑千景、加藤憲司
	202008	出生体重2000g以上の低出生体重児で後期早産児(Late preterm infant)を持つ母親の育児への思い	第23回日本地域看護学会学術集会	道端久仁江, 都筑千景 , 大川聡子
	202008	育児期女性における不適切養育行動の変化と関連要因ー0歳・1.6歳・3歳時点での比較ー	第23回日本地域看護学会学術集会	桝本妙子、都筑千景、加藤憲司
	202008	外国ルーツの高齢者に対する保健師による個別支援の状況と特徴	日本地域看護学会第23回学術集会	大平俊介、都筑千景、大川聡子
長畑　多代	202009	大学院生へのトランジショナルケア教育プログラムの事後評価：看護実践に焦点をあてて	日本看護学教育学会第30回学術集会	北村愛子、細田泰子、長畑多代
	202006	短期入院で手術・検査を受ける患者に認知症ケアチームが入院直後から介入する取り組み	日本老年看護学会第25回学術集会	原田かおる、篠崎千浪、長畑多代
三輪　恭子	202102	シンポジウム「地域・コミュニティで支える緩和ケア～暮らしたい場所で暮らせるために」	第35回日本がん看護学会学術集会	三輪恭子
	202008	熟練訪問看護師による高齢2型糖尿病療養者への在宅療養移行支援	日本地域看護学会第23回学術集会	西嶋智加、三輪恭子、岡本双美子
	202008	退院前後訪問が病棟看護師にもたらす教育的効果	日本地域看護学会第23回学術集会	吉永美玖、三輪恭子
	202008	「暮らしの保健室」における相談支援活動の意義と可能性	日本地域看護学会第23回学術集会	三輪恭子、藤田冬子、小宮山恵美、成田康子、松本佳子
北村　愛子	202007～202012	急性・重症患者看護専門看護師がエンド・オブ・ライフにあると認識する慢性重症疾患患者の思いを引き出す看護実践	第16回日本クリティカルケア看護学会学術集会 WEB集会	谷山寶　北村愛子　大江理英
	20207～202012	オンコロジックエマージェンシーで死にゆく患者と家族のケアに対して集中治療看護師が感じる困難	第16回日本クリティカルケア看護学会学術集会 WEB集会	奥井久美子　北村愛子　大江理英
	202007～202012	クリティカルケア看護とエンド・オブ・ライフケアの連続性	第16回日本クリティカルケア看護学会学術集会 WEB集会	北村愛子
	202009	大学院生へのトランジショナルケア教育プログラムの事後評価：看護実践に焦点を当てて	日本看護教育学会第30回学術集会　オンライン開催	北村愛子　細田泰子　長畑多代
	202010	循環器看護とは何かを考える～循環器看護の定義の作成プロセス報告～ 誌上発表	第17回日本循環器看護学会学術集会 ライブ配信ののち25日までオンデマンド配信	岡田彩子　仲村直子　濱上亜希子　北村愛子　瀬戸奈津子　溝部昌子　南川貴子　三浦英恵
	202010	編集委員会ミニセミナー「臨床現場からの研究成果の発信パート4～論文投稿する人が知っておきたい効果的な査読の受け方と相談会」 オンデマンド配信	第17回日本循環器看護学会学術集会 ライブ配信ののち25日までオンデマンド配信	高山真由美　稲垣美紀　簇持知恵子　白水眞理子　落合良太　加賀谷聡子　北村愛子　宮松直美　宮脇郁子

佐藤　淑子	202009	わが国における薬剤耐性（AMR）対策に関する国民への啓発の現状－アクションプラン発表後の新聞記事の分析を通して－	第13回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会	佐藤淑子・喜田雅彦・平尾百合子
旗持　知恵子	202010	慢性心不全患者の療養上の自己決定に関する認識	第17回日本循環器看護学会学術集会	久保絹、旗持知恵子、南村二美代
	202009	慢性呼吸不全患者が在宅酸素療法を受け入れるきっかけ	第14回日本慢性看護学会学術集会	小鉢理恵、旗持知恵子、南村二美代
志田　京子	202008	手術室看護師が自律的に後進を育成するプロセス	第24回日本看護管理学会学術集会	築谷眞一、志田京子、益加代子
	202005	急性期病院における模擬患者を用いた認知症看護シミュレーション教育の実施と評価	第一回看護ラーニングシミュレーション学会	志田京子,江口恭子, 香川由美, 松下由美子, 糸島陽子, 中山美由紀, 植村小夜子, 古谷緑.
杉本　吉恵	202009	健康成人における身体活動レベルと皮膚保湿機能との関連	日本看護研究学会第46回学術集会（Web）	大泉綾亮、杉本吉恵、相原ひとみ
細田　泰子	202012	教育指導者の学習環境デザインに関する学習ニーズと職務キャリアの関係	第40回日本看護科学学会学術集会	土肥美子，細田泰子，中橋苗代，中岡亜希子，池内香織
	202012	教育指導者のバウンダリーレスな経験の効果と課題：教育活動に焦点をあてて	第40回日本看護科学学会学術集会	細田泰子，根岸まゆみ，北島洋子，土肥美子，片山由加里，長野弥生
	202012	臨床学習環境における教育指導者のバウンダリーレスな組織間活動の効果と課題	第40回日本看護科学学会学術集会	根岸まゆみ，細田泰子，長野弥生，片山由加里，土肥美子，北島洋子
	202009	新人期看護師の多重課題遂行におけるセルフモニタリングの変容	日本看護学教育学会第30回学術集会	水引智央, 細田泰子, 紙野雪香
	202009	対話による実地指導者のアプロプリエーションの過程	日本看護学教育学会第30回学術集会	金山悠, 細田泰子, 紙野雪香
	202009	大学院生へのトランジショナルケア教育プログラムの事後評価：看護実践に焦点を当てて	日本看護学教育学会第30回学術集会	北村愛子, 細田泰子, 長畑多代
	202009	看護実践における新人看護師のモデリング測定尺度の開発：内容妥当性の検討	日本看護研究学会第46回学術集会	長野弥生, 細田泰子
	202009	教育指導者の経験学習と学習環境デザインについて希望する学習方法との関連	日本看護研究学会第46回学術集会	片山由加里, 細田泰子, 土肥美子, 長野弥生, 北島洋子
	202009	3年以上のブランクのある看護師が復職に成功した要因	日本看護研究学会第46回学術集会	神戸美輪子, 細田泰子
森本　明子	202012	2型糖尿病患者における腹部肥満と爪郭部毛細血管の捻転との関連	第5回 日本糖尿病・生活習慣病ヒューマンデータ学会	色摩茉衣子、園田奈央、森本明子、菅彩香、田嶋哲也、小澤純二、前田法一、大月道夫、松岡孝昭、下村伊一郎、大野ゆう子
	202010	2型糖尿病患者における爪郭部毛細血管の捻転と糖尿病網膜症との関連	第57回日本糖尿病学会近畿地方会	色摩茉衣子、園田奈央、森本明子、菅彩香、田嶋哲也、小澤純二、前田法一、大月道夫、松岡孝昭、下村伊一郎、大野ゆう子
長田　暁子	202102	臨床での看護を実践報告するヒントとコツ	第35回日本がん看護学会学術集会 編集委員会主催研修	長田　暁子
佐保　美奈子	202011	HIVサポートリーダー養成研修　10年間の成果と展望	第34回　日本エイズ学会	佐保美奈子、古山美穂、髙知恵、山田加奈子、工藤里香、立花久裕、豊島裕子、大野典子、白阪琢磨
中嶋　有加里	202103	セクシュアリティ教育のためのデジタルかるたの提案	第83回情報処理学会全国大会	田中如，菅野正嗣，髙知恵，佐保美奈子，古山美穂，山田加奈子，中嶋有加里，渡邊香織
古山　美穂	202103	女性のプレコンセプションケアの実行状況と栄養摂取状態との関連	第35回日本助産学会学術集会	渡邊香織　川村千恵子　古山美穂
	202103	セクシュアリティ教育のためのデジタルかるたの提案	第83回情報処理学会全国大会	田中如、菅野正嗣、髙知恵、佐保美奈子、古山美穂、山田加奈子、中嶋有加里、渡邊香織
	202012	在日コリアンコミュニティに居住する在日コリアン母親の現在の家族形成に至った思い	第40回日本看護科学学会学術集会	髙知恵、宮下ルリ子、古山美穂、渡邊香織
	202011	HIVサポートリーダー養成研修　10年間の成果と展望	第34回日本エイズ学会学術集会	佐保美奈子、古山美穂、髙知恵、山田加奈子、工藤里香、立花久裕、豊島裕子、大野典子、白阪琢磨
岡野　明美	202101	委託型地域包括支援センター職員を対象に行った地区診断研修後の活動の変化	日本公衆衛生看護学会第9回学術集会	岡野明美　原真弓
	202008	委託型地域包括支援センター職員を対象に実施した地区診断研修後の学びと困難感	日本地域看護学会第23回学術集会	岡野明美　原真弓　川部芳子
	202008	地域包括支援センター保健師の役割～他組織との連携から～	日本地域看護学会第23回学術集会	岡野明美　古賀佳代子　保母恵
九津見　雅美	202012	血友病患者へのケア経験を有する看護師の支援の現状	第40回日本看護科学学会学術集会	九津見雅美
林田　裕美	202010	上皮成長因子受容体チロキシナーゼ阻害薬（EGFR-TKI）投与を受ける肺がん患者が認識する皮膚障害に対するスキンケアの継続を阻害する要因	第51回日本看護学会（慢性）	徳岡良恵・田中京子・林田裕美・岩田香・岡田由佳理・良田紀子・羽澤三恵子・岡田知子
	202010	ホルモン療法を受ける閉経前乳がん患者の自己コントロールを支える看護プログラムの有用性	第51回日本看護学会	林田裕美，田中京子，徳岡良恵
	202102	胃切除術を受けた女性がん患者が仕事と家庭内役割を遂行する上での困難	第35回日本がん看護学会学術集会	中村恵子，田中京子，林田裕美，徳岡良恵，中村由美
	202102	専門・認定看護師による若年乳がん患者の妊孕性温存に関する意思決定を継続的に支える看護援助	第35回日本がん看護学会学術集会	山下加奈，田中京子，林田裕美，徳岡良恵
	202102	造血幹細胞移植を受けた若年成人がん患者の仕事の再開に向けて生じる困難	第35回日本がん看護学会学術集会	田中芙美，田中京子，林田裕美，徳岡良恵
	202102	胃切除術を受けたがん患者の食の再構築に向けた取り組み	第35回日本がん看護学会学術集会	石亀耕平，田中京子，林田裕美，徳岡良恵，樋渡千佳

南村　二美代	202006	慢性呼吸不全患者が在宅酸素療法を受け入れるきっかけ	第14回日本慢性看護学会学術集会	小鉢 理恵, 旗持 知恵子, 南村 二美代
相原　ひろみ	202005	リフレクティブサイクルを活用した看護倫理教育プログラムの開発―従来型の授業を受けた学生の倫理的実践―	日本看護倫理学会学術集会	相原ひろみ
	202103	Panel discussion 4 : What are some alternative choices to prepare clinical skills during theCOVID-19 era: How can we make use of some of these choices?	COVID-19 and Its Disruptive Effects on the Nursing Education:Future, Policy, and Strategic Plans	Nana Inoue, Hiromi Aibara, Kae Yamauchi, Chie Kou, Kyoko Shida
益　加代子	202008	手術室看護師が自律的に後進を育成するプロセス	第24回日本看護管理学会学術集会	築谷眞一、志田京子、益加代子
紙野　雪香	202009	新人期看護師の多重課題遂行におけるセルフモニタリングの変容	日本看護学教育学会第30回学術集会	水引智央, 細田泰子, 紙野雪香
	202009	対話によるアプロプリエーションの過程	日本看護学教育学会第30回学術集会	金山悠, 細田泰子, 紙野雪香
園田　奈央	202012	2型糖尿病患者における腹部肥満と爪郭部毛細血管の捻転との関連	第5回 日本糖尿病・生活習慣病ヒューマンデータ学会	色摩茉衣子、園田奈央、森本明子、菅彩香、田嶋哲也、小澤純二、前田法一、大月道夫、松岡孝昭、下村伊一郎、大野ゆう子
	202010	2型糖尿病患者における爪郭部毛細血管の捻転と糖尿病網膜症との関連	第57回日本糖尿病学会近畿地方会	色摩茉衣子、園田奈央、森本明子、菅彩香、田嶋哲也、小澤純二、前田法一、大月道夫、松岡孝昭、下村伊一郎、大野ゆう子
井上　敦子	202009	がん終末期の意思決定で生じる家族内葛藤に対する家族支援専門看護師の実践	日本家族看護学会 第27回学術集会	蓮見歩, 中山美由紀, 井上敦子
	202009	家族支援専門看護師による「よろず相談」の取組み（第2報） 家族支援専門看護師の相談対応の分析	日本家族看護学会 第27回学術集会	関根 光枝, 藤井 淳子, 浅岡 裕子, 石渡 未来, 井上 敦子, 佐藤 律子, 澤田 紀子, 野々山 敦夫, 森川 真理, 米田 愛
	202009	家族看護コンサルテーションの内容と家族支援専門看護師へのニーズ	日本家族看護学会 第27回学術集会	井上敦子, 藤原真弓, 中山美由紀
	202009	委員会企画 COVID-19 感染拡大をうけて家族に何がおこったか？ ～さまざまな医療・介護・療養現場からの情報発信～	日本家族看護学会 第27回学術集会	井上 玲子, 児玉 久仁子, 荒木田 美香子, 上別府 圭子, 井上 敦子, 鈴木 和子, 式守 晴子, 安武 綾
	202009	委員会企画 わかりやすい事例検討の進め方～効果的なファシリテーションとは	日本家族看護学会 第27回学術集会	児玉 久仁子, 井上 玲子, 井上 敦子, 藤原 真弓, 藤井 真樹
	202009	子どもを含む家族全体の再構築を支える在宅移行支援	日本小児看護学会 第30回学術集会	小泉織絵, 井上敦子, 山内文, 浅井桃子, 永冨宏明, 堀美穂, 佐藤律子, 野々山敦夫
高　知恵	202103	セクシュアリティ教育のためのデジタルかるたの提案	第83回情報処理学会全国大会	田中如、菅野正嗣、髙知恵、佐保美奈子、古山美穂、山田加奈子、中嶋有加里、渡邊香織
	202103	What are some alternative choices to prepare clinical skills during theCOVID-19 era: How can we make use of some of these choices?	COVID-19 and Its Disruptive Effects on the Nursing Education: Future, Policy, and Strategic Plans	Nana Inoue,　Hiromi Aibara, Kae Yamauchi,Chie Kou, Kyoko Shida
	202012	在日コリアンコミュニティに居住する在日コリアン母親の現在の家族形成に至った思い	第40回日本看護科学学会学術集会	髙知恵、宮下ルリ子、古山美穂、渡邊香織
	202011	HIVサポートリーダー養成研修　10年間の成果と展望	第34回日本エイズ学会学術集会	佐保美奈子、古山美穂、髙知恵、山田加奈子、工藤里香、立花久裕、豊島裕子、大野典子、白阪琢磨
	202011	埼玉県在住の中高年女性における生活習慣病予防に関する認識・行動および身体情報の実態	第35回日本女性医学学会学術集会	宮下ルリ子、髙知恵
	202010	在日コリアンコミュニティに居住する育児期在日コリアン母親たちへの健康教育セミナーの実践報告	第61回日本母性衛生学会学術集会	髙知恵、宮下ルリ子
	202009	出前講義前後での高校生のデートDV、避妊、性感染症に関する知識の変化	第39回日本思春期学会学術集会	髙知恵、宮下ルリ子
山田　加奈子	202011	HIVサポートリーダー養成研修　10年間の成果と展望	第34回日本エイズ学会	佐保美奈子、古山美穂、高　知恵、山田加奈子、工藤里香、立花久裕、豊島裕子、大野典子、白阪琢磨
大野　志保	202101	The Potential of TEM/TEA as more than just a research method	The 4th Transnational Meeting on TEA	Satoko Okawa,Shiho Ohno,Hiroko Shoji,Naoko Yokoyama, Yuko Yamamoto
根来　佐由美	202008	市民向け音楽イベントに参加した高齢者のフレイルの実態	日本地域看護学会第 23 回学術集会	根来佐由美、上野昌江、山村典弘 、小間明百美、中井眞巳、福本伸子、元家由衣
	202010	乳児早期から支援が必要な親子の見極め―訪問日数による分析（第1報）	第79回日本公衆衛生学会総会	安本理抄、上野昌江、大川聡子、根来佐由美
	202010	乳児早期家庭訪問から世代間連鎖が予測される親子の見極め―実母相談の分析（第2報）	第79回日本公衆衛生学会総会	上野昌江、安本理抄、大川聡子、根来佐由美
	202101	A市における「あしゆび」プロジェクトの取り組み（第3報）～その後の取り組みと今後の課題～	第9回日本公衆衛生看護学会学術集会	根来佐由美、山村典弘、上野昌江
	202008	地域活動の参加が少ない独居後期高齢者の身体機能の変化と孤独に対する思い	日本地域看護学会第23回学術集会	寺田有里、都筑千景、大川聡子、根来佐由美
深山　華織	202011	ケアマネジャーによる介護者の就労継続のための支援の特徴	日本産業看護学会　第9回学術集会	深山華織,　河野あゆみ
	202008	就労しながら要介護者を介護する家族のWork-Family Conflictの特徴	日本地域看護学会　第23回学術集会	深山華織,　河野あゆみ
安本　理抄	202010	乳児早期家庭訪問から世代間連鎖が予測される親子の見極め－実母相談の分析（第2報）	第79回　日本公衆衛生学会総会	上野昌江, 安本理抄, 大川聡子, 根来佐由美
	202010	乳児早期家庭訪問から支援が必要な親子の見極め－訪問日数による分析（第1報）	第79回日本公衆衛生学会総会	安本理抄,上野昌江,大川聡子,根来佐由美
山内　加絵	202103	What are some alternative choices to prepare clinical skills during theCOVID19 era　How can we make use of some of these choices	COVIDNEd2021	Nana Inoue, Hiromi Aibara, Kae Yamauchi,　Chie Kou, Kyoko Shida
井上　奈々	202103	Panel discussion 4 : What are some alternative choices to prepare clinical skills during theCOVID-19 era:　How can we make use of some of these choices?	International Virtual Conference COVIDNEd2021	Nana Inoue, Hiromi Aibara, Kyoko Shida, Kae Yamauchi, Chie Kou

喜田　雅彦	202009	わが国における薬剤耐性（AMR）対策に関する国民への啓発の現状－アクションプラン発表後の新聞記事の分析を通して－	第13回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会	佐藤淑子・喜田雅彦・平尾百合子
	202102	重症新型コロナウイルス感染症患者のケアを行ったICU看護師のストレス要因	第48回日本集中治療学会	犬伏亜紀，喜田雅彦，岩崎瑞穂，内藤亜紀，神山剛論，道味久弥，中川淳一郎，中條悟
中村　雅美	202011	腎不全看護に関する資格制度とその実践	第65回日本透析医学会学術集会	中村雅美

4）講演会・シンポジュウム・研修会等の講演

名　前	講演会・シンポジュウム・研修会等の講演	題　　名	会　場　等	講　演　年　月　日	参加人数（人）
長畑　多代	大阪府看護協会研修	No.46/47「認知症高齢者の理解と看護実践①・②」	ナーシングアート大阪	①2020年8月5日 ②2020年12月2日	各120
三輪　恭子	香川県看護協会研修会	暮らしにつなぐ看護～病棟看護師がおこなう退院支援～	オンライン	2020年12月2日	50
	宮崎県看護協会研修会	暮らしにつなぐ看護～病棟看護師がおこなう入退院支援～	オンライン	2020年10月16日	100
北村　愛子	看護キャリア研修　奈良県立医科大学　地域貢献事業	「私の考える看護の未来」	奈良県立医科大学 スキルスラボ棟3階研修室	2020年10月24日	40
志田　京子	大阪府看護協会 認定看護管理者教育課程ファーストレベル 研修　講師	組織管理論1　組織マネジメント概論	大阪府看護協会	2020年8月13日 2021年1月5日	160
	日本看護管理学会　学術誌編集委員会　交流集会（座長）	実践報告を学術誌に投稿しよう	日本看護管理学会誌	20208月28日	88
	日本看護協会神戸研修センターサードレベル研修　講師	ヘルスケアサービスの創造、マーケティング演習	日本看護協会	2020年9月24日、28日	30
	大分県中小規模病院看護管理者研修　シンポジウム（座長）	南河内看護管理者会の活動報告	大分県看護協会	2020年10月24日	140
	北海道看護協会 認定看護管理者教育課程サードレベル研修　講師	組織における倫理	北海道看護協会	2020年11月17日、18日	30
	JANPU　国際交流推進委員会　パネルディスカッション（座長）	withコロナ時代の看護学教育における国際交流連携の実際と課題	日本看護系大学協議会	2021年2月20日	120
	大阪府看護協会　　研修No218. 講師	レポートの書き方	大阪府看護協会	2021年2月10日	110
佐保　美奈子	HIV/AIDS看護師研修会	性の多様性	国立大阪医療センター	2020年11月9日	40
	第21回　HIVサポートリーダー養成研修	地域HIV看護の質の向上	オンラインZOOM	2020年10月2日	60
中嶋　有加里	大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会	効果的な母性看護学実習を目指して	大阪府看護協会	2020年10月13日 2021年2月2日	56 55
岡野　明美	令和2年度地域包括支援センター資質向上研修	地区診断	宇治市健康生きがい課	2020年7月～11月	20
九津見　雅美	一般社団法人ヘモフィリア友の会全国ネットワーク	バーチャル・ヘモフィリアシンポジウム2020	オンライン	2020年9月27日	160
益　加代子	認定看護管理者教育課程 ファーストレベル 研修	組織マネジメント概論	大阪府看護協会	2020年8月12日 2020年12月15日	各80人
安本　理抄	大東市地域貢献委員会研修会	感染症の基礎知識と予防 ～日常に潜む感染症から健康をまもるために～	大東市立総合福祉センター （対面とWeb）	2021年2月9日	16
	大東市社会福祉協議会研修会	感染症の基礎知識と予防 ～日常に潜む感染症から健康をまもるために～	大東市立総合福祉センター	2021年3月18日	13
伊藤　良子	第24期女性学講演会「性暴力　その後を生き抜く人たちと共に」	性暴力被害者アイデンティティズ	大阪府立大学中百舌鳥キャンパス	2020年11月1日	100
喜田　雅彦	第8回看護フォーラム　新型コロナウイルス感染症をめぐる看護職のジレンマ	新型コロナウイルス感染症をめぐる看護職のジレンマ	オンライン開催	2021年2月6日	50
中村　雅美	腎臓病療養指導士認定のための講習会	「CKD患者の療養生活支援」 「CKD患者の療法選択の指導」	オンデマンド配信	2020年6月1日 ～2020年6月15日	約380

5）公開講座

名　前	公　開　講　座　名	題　　名	会　場　等	開　講　年　月　日	受講者数（人）
楢木野　裕美	一般公開講座	府大講座	オンライン講座	2月22日～3月8日	479
志田　京子	第27回国際看護セミナー	異文化の理解と看護	オンライン	2020年12月28日	130
佐保　美奈子	講演会　総排泄腔遺残症　市民公開講座	総排泄腔遺残症患者が必要とする支援について ーセクシュアリティ外来での取り組みを中心にー	九州大学大学院医学研究院 保健学部門 看護学分野　オンライン	2021年2月27日	100
冨川　順子	精神看護オンライン講座	セルフケア理論を基にした精神看護の看護過程	Zoom	2020年8月1日	13
	精神看護オンライン講座	精神看護で行う精神機能の査定	Zoom	2020年9月8日	13
山田　加奈子	糖代謝異常妊産褥婦への看護支援セミナー	糖代謝異常妊産褥婦の心理・体験	オンライン	2020年10月3日 2020年11月28日	40

井上　奈々	クリティカルケア看護実践講座3	急性看護領域における看護実践の倫理と対話	大阪府立大学	2020年9月26日	41
	クリティカルケア看護実践講座2	急性疾患を呈する患者と家族へのかかわり	大阪府立大学	2020年9月19日	36
	クリティカルケア看護実践講座1	人工呼吸器を装着した患者の看護	大阪府立大学	2020年8月29日	63
徳岡　良恵	がん看護実践者養成セミナー	最新のがん薬物療法の看護	大阪府立大学　WEB開催	2020年9月1日	59
伊藤　良子	心と体の元気を叶える快眠法　～ワーク・ライフ・バランスは良い睡眠から～	快眠で頭スッキリ！効率アップ	吹田市男女共同参画センターデュオ	2021年3月19日	20
柱谷　久美子	精神看護オンライン講座	精神疾患で身体合併症のある方への看護ケア	オンライン（Zoom）	2020年11月3日	11

6）出張講義・出前講義

名　前	講　義　名	出　張　・　出　前　先	開　講　年　月　日	受　講　者　数（人）
杉本　吉恵	看護の魅力	奈良県立平城高等学校	2021年11月12日	27
細田　泰子	看護師を育てる教育とキャリアデザイン	大阪府立北千里高等学校	2020年9月23日	43
佐保　美奈子	自分を大切にする生と性の教育（1）	大阪商業大学高校　1年生	2020年6月4日	300
	自分を大切にする生と性の教育（2）	大阪商業大学高校　2年生	2020年6月25日	300
	自分を大切にする生と性の教育（1）	近畿大学泉州高等学校　1年生	2020年10月5日	220
	自分を大切にする生と性の教育（2）	近畿大学泉州高等学校　3年生	2020年7月27日	220
	性感染症予防（HIV/AIDS）について（WEB講義）	大阪府立貝塚高校　2年生	2020年12月3日	240
	自分を大切にするお付き合いのマナー（オンデマンド講義）	大阪府立成美高校　1年生	2021年1月19日	240
	自分を大切にするお付き合いのマナー	大阪府立みどり清朋高校　1年生	2020年10月15日	240
	セクシュアリティ概論	大阪府立登美丘高校　1年生	2020年10月1日	240
	自分を大切にする生と性の教育（1）	大阪緑涼高校　1年生	2020年7月2日	100
	自分を大切にする生と性の教育（2）	大阪緑涼高校　2年生	2020年7月8日	100
中嶋　有加里	看護と助産の仕事	大阪府立懐風館高等学校	2020年12月18日	20
古山美穂	これから羽ばたく皆さんと考えたい‘生きる’ということ	大阪YMCA国際専門学校	2021年2月3日	20
岡野　明美	法定外研修 講義	大阪介護支援専門員協会浪速区支部	2021年2月16日	50
髙　知恵	おつきあいのマナーとデートバイオレンスの予防	大阪府立今宮高等学校	2020年6月25日	242
山田　加奈子	生と性の授業	大阪府立堺東高等学校	2020年1月30日	283
	周産期健康障害看護-ハイリスク妊婦（GDM）のアセスメントと看護	広島大学	2020年12月1日	60
伊藤　良子	しない、させない、性（セクシュアリティ）に対する暴力	大阪府立東百舌鳥高等学校（3年生）	2020年8月19日	40
	LGBTsや性暴力被害者への理解を深める	大阪府立堺東高等学校（3年生）	2020年9月8日	15
	エッチのまわりにあるもの	大阪府立東百舌鳥高等学校（2年生）	2021年2月4日	40
柱谷久美子	「リエゾン精神看護」	岸和田市医師会看護専門学校	2020年11月10日	40
	「リエゾン精神看護の実際：相談・調整」	岸和田市医師会看護専門学校	2020年11月19日	40

7）公的な委員会など

名　前	委　嘱　先	参　画　委　員　会　名　・　職　務　内　容		役　職　名
澤井　元	大阪はびきの医療センター	羽曳野医療センター治験審査委員会	治験研究の採否を審査する	外部委員
	大阪はびきの医療センター	羽曳野医療センター利益相反委員会	受託研究の利益相反について適否を審査する	外部委員

中山　美由紀	小児保健研究	編集委員	委員
	日本家族看護学研究	評議員、編集委員	委員
	日本看護系大学協議会	専門看護師教育課程認定委員会委員	委員
楢木野　裕美	日本看護科学学会	専任査読委員	委員
	日本看護研究学会	評議員	委員
	日本小児看護学会	理事	理事
	日本小児看護学会	評議員	委員
	日本小児看護学会	専任査読委員	委員
	日本看護研究学会	専任査読委員	委員
	日本子ども虐待防止学会	制度検討委員会	委員
	日本小児看護学会学術集会	企画委員	委員
	日本看護科学学会	評議員	委員
	日本看護系大学協議会	高度実践看護師教育課程認定委員会 小児看護専門部会	委員長
渡邊　香織	大阪母性衛生学会	理事	理事
	日本看護科学会	査読委員	委員
	日本母性看護学会	査読委員	委員
都筑　千景	日本看護科学学会	代議員、査読委員	委員
	日本地域看護学会	代議員、編集委員	委員
	日本公衆衛生看護学会	代議員、編集委員	委員
	日本小児保健研究	査読委員	委員
	全国保健師教育機関協議会教員研修委員会	副委員長	副委員長
	厚生労働省保健師助産師看護師国家試験委員会	委員	委員
	厚生労働省医道審議会	医道審議会専門委員　保健師助産師看護師分科会委員	委員
	大阪府藤井寺保健所運営協議会	委員	委員
	羽曳野市健康づくり推進協議会	委員	委員
長畑　多代	日本老年看護学会	評議員、編集委員、査読委員	委員
	日本看護科学学会	査読委員	委員
	千葉看護学会	査読委員	委員
	日本地域看護学会	査読委員	委員
	日本看護福祉学会	査読委員	委員
	独立行政法人 日本学術振興会	科学研究費委員会	専門委員
	藤井寺市	藤井寺市地域密着型サービス運営委員会	委員
	藤井寺市	藤井寺市地域包括支援センター運営協議会	委員
	藤井寺市	藤井寺市保健福祉計画推進協議会	委員
	藤井寺市	藤井寺市介護認定審査会	委員
	羽曳野市	羽曳野市介護保険等推進協議会	会長
	大阪府	大阪府介護保険審議会	委員
	堺市	堺市介護認定審査会	委員
三輪　恭子	日本CNS看護学会	第8回大会実行委員	委員
	日本地域看護学会	第23回学術集会拡大企画委員	委員
	日本専門看護師協議会	日本専門看護師協議会　政策提言委員会	委員
北村　愛子	日本クリティカルケア看護学会	理事・評議員、査読委員	理事・委員
	日本看護倫理学会	理事、査読委員	理事
	日本循環器看護学会	編集委員	委員
	日本看護学会	査読委員	委員
	日本看護研究学会	査読委員	委員
	日本看護協会 看護研修学校	論文選考委員	委員

佐藤　淑子	日本環境感染学会	評議員	委員
田中　京子	日本看護倫理学会	評議員	委員
	日本がん看護学会	代議員	委員
	日本看護学教育学会	査読委員	委員
	中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム	外部評価委員会　評価委員	委員
	大阪府	大阪府医療審議議会 委員	委員
	独立行政法人 日本学術振興会	科学研究費委員会 専門委員	委員
	大阪大学	外部評価委員	委員
	日本看護系大学協議会	がん看護専門分科会副委員長	副委員長
旗持　知恵子	日本腎不全看護学会	査読委員	委員
	聖路加看護学会	学術交流委員	委員
	日本循環器看護学会	理事、代議員、編集委員、第17回学術集会企画委員	理事、委員、編集委員長
	日本糖尿病教育・看護学会	査読委員	委員
	日本看護科学学会	代議委員	委員
	日本看護研究学会	査読委員	委員
	日本慢性看護学会	評議委員、査読委員	委員
	厚生労働省	「循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業」中間・事後評価委員会	委員
	一般社団法人　日本看護系大学協議会	高度実践看護師教育課程認定委員会 慢性看護専門分科会	委員 分科会委員長
志田　京子	日本看護管理学会	評議員、編集委員、査読委員	委員
	日本看護系大学協議会	国際交流推進委員	委員
	大阪府看護協会	応募小論文評価打ち合わせ会 委員	委員
	日本看護協会	第51回日本看護学会　看護管理学術集会　準備委員	委員
	大阪府看護協会	認定看護管理者教育課程運営委員会委員	委員長
	大阪府立病院機構　大阪はびきの医療センター	医学研究倫理委員会 委員	委員
	大阪府立病院機構大阪急性期・総合医療センター	医療安全管理委員会 委員	委員
杉本　吉恵	日本健康運動看護学会	理事、学会誌編集委員会	理事、学会誌編集委員長
	日本看護技術学会	評議員	委員
	日本看護学会	第51回日本看護学会－看護管理ー学術集会　抄録選考委員会委員	委員
細田　泰子	日本看護学教育学会	評議員、編集委員、査読委員	委員
	日本看護研究学会	評議員、専任査読委員	委員
	日本看護科学学会	和文誌編集委員会	委員
	公益社団法人　大阪府看護協会	大阪府専任教員養成講座会運営委員会	委員
	独立行政法人 日本学術振興会	科学研究費委員会 専門委員会	委員
	大阪医科大学看護学部	看護学部カリキュラム評価委員会	委員
	日本看護系大学協議会	看護学教育質向上委員会	委員
	日本看護学会	第51回日本看護学会－看護管理ー学術集会　抄録選考委員会	委員
森本　明子	糖尿病・生活習慣病ヒューマンデータ学会	評議員	委員
	日本循環器病予防学会	評議員、査読委員	委員
	藤井寺市	一体的地域ケア会議	委員
	大阪府健康医療部健康推進室	大阪府ヘルスアップ支援事業への参画	委員
	国立研究開発法人日本医療研究開発機構	科学技術調査員	委員
	静岡県立大学	審査委員会 委員	委員

長田　暁子	日本専門看護師協議会	理事会 代表理事	代表理事
	大阪府	大阪府移行期医療推進会議	委員
	日本看護協会	専門看護師制度委員会	委員
佐保　美奈子	性と健康を考える女性専門家の会	近畿支部長	部長
	日本母性衛生学会	代議員、査読委員	委員
	日本小児泌尿器科学会	評議員	委員
	日本思春期学会	評議員、編集委員	委員
	大阪府立成美高等学校	学校協議会会長	会長
	大阪府	大阪府男女共同参画審議会 委員	委員
	地方独立行政法人大阪府立病院機構　大阪府立母子保健総合医療センター	大阪府立母子保健総合医療センター治験審査委員会委員	委員
	地方独立行政法人大阪府立病院機構　大阪府立母子保健総合医療センター	大阪府立母子保健総合医療センター公的研究費経理事務管理委員会委員	委員
中嶋　有加里	日本母性看護学会	評議員、査読委員	委員
	日本母性衛生学会	代議員、査読委員	委員
	大阪母性衛生学会	幹事	幹事
	公益財団法人大阪府看護協会	学会委員会委員長、委員	委員長、委員
古山　美穂	日本看護学会	査読委員	委員
	日本母性看護学会	査読委員	委員
	羽曳野市	羽曳野市教育委員会 委員	委員
	泉カナン会　聖愛保育園	苦情解決委員第三者委員	委員
岡野　明美	羽曳野市	羽曳野市介護認定審査会 委員	委員
九津見　雅美	摂津市	摂津市介護認定審査会委員	委員
	独立行政法人 日本学術振興会	科学研究費委員会 専門委員	委員
	一般社団法人ヘモフィリア友の会全国ネットワーク	倫理審査委員会委員	委員
冨川　順子	日本精神保健看護学会	査読委員	委員
	高知女子大学	査読委員	委員
	公益財団法人大阪府看護協会	倫理審査委員会 委員	委員
	羽曳野市	羽曳野市民権審議会 委員	委員
大江　理英	日本循環器看護学会	代議員、学術委員会委員、査読委員	委員
	大阪府看護協会	査読委員	委員
	日本クリティカルケア看護学会	査読委員	委員
	公益社団法人日本看護協会看護研修学校	抄録選考委員（6講演前後の抄録査読とコメントの記述）	委員
林田　裕美	公益社団法人大阪府看護協会	教育委員会	委員長
	大阪府訪問看護ステーション協会	訪問看護実態調査検討委員会	委員
	大阪府看護協会	ACPマニュアル作成委員会、	委員
	関西広域連　准看護師試験委員会	関西広域連　准看護師試験委員会	委員
相原　ひろみ	日本看護倫理学会	学術活動推進委員会、査読委員	委員
	生物と医学	査読委員	委員
	日本看護管理学会	査読委員	委員
	公益社団法人大阪府看護協会	大阪府専任教員養成講習会運営委員会委員	委員
益　加代子	日本看護学会	編集委員	委員
	公益社団法人大阪府看護協会	認定看護管理者教育課程運営委員会委員	委員
井上敦子	日本家族看護学会	実践促進委員会	委員
	第28回日本家族看護学会学術集会	査読委員	委員
岡崎　裕子	日本小児看護学会	学術・研究推進委員会	委員
髙　知恵	公益社団法人大阪府看護協会	府南支部　助産師職能委員	委員
山田　加奈子	日本母性看護学会	査読委員	委員

大野　志保	日本養護実践学会	評議員	委員
	日本看護学会	査読委員	委員
根来　佐由美	日本看護協会	査読委員	委員
	羽曳野市	羽曳野市介護認定審査会・委員	委員
深山　華織	日本産業看護学会	査読委員、第9回学術集会実行委員	委員
	日本老年看護学会	査読委員	委員
	日本看護学会	査読委員	委員
安本　理抄	日本看護学会	査読委員	委員
	大阪府	ヘルスアップ支援推進会議委員	委員
	羽曳野市介護認知審査会	介護認定審査会委員	委員
	大阪府看護協会大阪南支部	保健師職能委員	委員
山内　加絵	日本看護学会	査読委員	委員
井上　奈々	日本看護学会	査読委員	委員
徳岡　良恵	日本がん看護学会	代議員、査読委員	委員
	日本専門看護師協議会	研究成果提言	委員
	日本肺癌学会	メディカルスタッフ部会委員	委員
	日本専門看護師協議会	研究成果提言委員	委員
	大阪看護協会	ACPマニュアル検討委員会 委員	委員
	看護研修学校	論文選考委員	委員
山口舞子	日本看護学会	査読委員	委員
	日本運動器看護学会	査読委員	委員
柱谷　久美子	日本看護協会	抄録選考委員会委員	委員
	大阪府看護協会	抄録選考委員会委員	委員
喜田　雅彦	日本看護協会	抄録選考委員会委員	委員
	大阪府看護協会	「一般演題抄録」抄録選考委員	委員
中村　雅美	日本腎臓病協会	腎臓病療養指導士に関する教育研修小委員会	委員
	日本腎不全看護学会	認定委員会	委員

8) 国際交流活動

名　前	関　係　機　関　名	相　手　国	活　動　の　概　要
志田　京子	タイ王国マヒドン大学	タイ王国	2020年11月19日本学学類生4年4名と大学院前期課程学生2名が、マヒドン大学同年代学生とお互いの医療社会制度についてのプレゼンテーションをZoomを用いて実施した。
	タイ王国マヒドン大学	タイ王国	ラマティボディ校が主催した“COVID-19 and Its Disruptive Effects on the Nursing Education: Future, Policy, and Strategic Plans” (COVIDNEd2021)に本学教員2名がパネルディスカッションにパネリストとして参加した。

9) その他の社会貢献

名　前	社会活動先	職　務　内　容
楢木野　裕美	滋賀県立小児保健医療センター	院内看護研究　研究指導、発表会講評
渡邊　香織	公益社団法人 大阪府看護協会	「周産期管理者交流会」講師
	大阪教育文化振興財団	令和3年度　プレママ・プレパパ講座　講師
北村　愛子	りんくう総合医療センター	急性・重症患者看護専門看護師
志田　京子	地方独立行政法人　大阪府立病院機構 大阪はびきの医療センター	看護師マネジメントスキルアップ研修　講師
	大分県立看護科学大学	講義（大学院）
細田　泰子	国立研究開発法人　科学技術振興機構	創発的研究支援事業・事前評価　外部専門家
	日本看護系大学協議会	With コロナ時代の臨地実習の在り方に関する研修会　報告
佐保　美奈子	大阪府看護協会	「看護論演習」演習講師　180分×5回
中嶋　有加里	大阪府看護協会	講師

古山　美穂	羽曳野市立子育て支援センターふるいち	講師（子育て講座「子どもと気持ちを交換する―思春期を見据えた‘ことばと態度’の再考―」）
	羽曳野市立子育て支援センターむかいの	講師（子育て講座「子どもと気持ちを交換する―思春期を見据えた‘ことばと態度’の再考―」）
	河内長野市教育研究会（養護教諭部会）	講師（小・中学校における学校保健に関する指導助言）
	河内長野市立川上小学校	講師（教職員研修「LGBTからセクシュアリティを学ぶ」）
岡野　明美	宇治市健康生きがい課	講師
冨川　順子	公益財団法人　浅香山病院	精神看護専門看護師
大江　理英	医療法人警和会 大阪警察病院	看護師
	医療法人警和会 大阪警察病院	任期付職員（看護師）
相原　ひろみ	松山市民病院	講師
益　加代子	市立貝塚病院	非常勤講師
	医療研究全国集会WEB集会	講師（分科会助言者）
岡崎裕子	大阪府立大学大学院看護学研究科療養学習支援センター	子ども虐待予防に向けた研修会の開催
	大阪府立大学大学院看護学研究科療養学習支援センター	ペアレンティングプログラムの実践 （前向き子育てプログラム(トリプルP)と「安心感の輪」子育てプログラム）
髙　知恵	大阪市生野区「生きるチカラまなびサポート事業」	運営アドバイザー
	大阪府立大学看護学系同窓会（白鳥会）	役員
深山　華織	大阪府立大学看護学系同窓会	役員
安本　理抄	大阪府立大学看護学系同窓会	役員
	奈良県福祉医療部	技術的支援等
山内　加絵	大阪府立大学看護学系同窓会	役員
	藤井寺市	藤井寺市介護認定審査会委員活動に対する協力
伊藤　良子	吹田市	講師
山口　舞子	大阪府立大学看護学系同窓会	役員
柱谷　久美子	神戸赤十字病院	兵庫県災害医療センターへの精神的な看護ケア等のかかる職員
	公益社団法人 大阪府看護協会	新型コロナウイルス感染症対応の看護職員「メンタルサポート」相談員
	兵庫県災害医療センター	精神看護専門看護師
	大阪府立大学看護学系同窓会	役員
喜田　雅彦	大阪府立中河内救命救急センター	感染症看護専門看護師　コンサルテーション
	大阪府立大学看護学系同窓会	役員
	日本専門看護師協議会	メール相談協力員
	関西広域連合	セミナー講師
中村　雅美	日本腎不全看護学会CKD委員会	ワーキングメンバー

編集後記

大阪府立大学地域保健学域看護学類年報第 16 巻を、看護学類各委員会、羽曳野キャンパス事務所の皆様のご協力により、作成することができましたことを厚く御礼申し上げます。

本報の掲載内容は、2020 年 4 月から 2021 年 3 月までの 1 年間の教育・研究等の内容に関するものです。

編集作業を通して、より一層、本大学看護学類、看護学研究科の充実のために教職員、学生らとともに改善に向け一歩ずつ積み上げる努力が必要であることを痛感いたしました。さらに大阪の社会風土に根ざす開かれた公立大学としての役割を担う、社会に貢献する意義ある教育・学術研究の府としての実績を評価されるよう今後も益々活動していきたいと考えております。

2020 年度 部局計画・評価委員会

委員長	長畑　多代	研究科長	田中　京子
委員	細田　泰子	委員	簇持　知恵子
委員	中嶋　有加里	委員	伊藤　良子
委員	大野　志保	委員	根来　佐由美

2021 年度　部局計画・評価委員会

委員長	杉本　吉恵	研究科長	田中　京子
委員	佐藤　淑子	委員	都筑　千景
委員	中山　美由紀	委員	九津見　雅美
委員	園田　奈央	委員	中嶋　有加里